図書館雑誌 The Library Journal
2024 12 Vol.118 No.12

VOL.118 NO.12 CONTENTS

窓●社会資本／図書館／知識インフラ ―― 本吉理彦 688

こらむ図書館の自由●
PTA 未加入の生徒に対して学校図書館利用を制限？ ―― 鈴木啓子 691

●NEWS ―― 689
告知板 … 690／新聞切抜帳 … 693

＊　＊　＊

[特集]
つなぎ手としての学校図書館
―情報活用能力育成のアスペクト

特集にあたって ―― 図書館雑誌編集委員会 695
場としての図書館の実空間から情報空間に橋を架ける－デジタル資源カードという提案 ―― 岡本　真 696
教科・単元別の教材用図書リストのデータベース化 ―― 浅石卓真・矢田竣太郎 699
地域資料の収集と学校図書館 ―― 小熊真奈美 702
学校図書館施設計画の留意点－学校図書館の設計をめぐる対話をどうするか ―― 笠井　尚 704
ひとが集まる学校図書館のつくりかた－本を読むだけの場所ではもったいないやん！　児童生徒が集い活気にあふれる学校図書館を学校の'ど真ん中'に！ ―― 野村太郎 707

＊　＊　＊

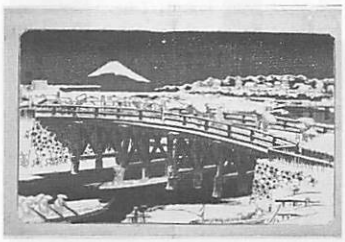
ブリスベンで開催された「IFLA 情報未来サミット」―― 長塚　隆 714

霞が関だより●第253回
令和５年度「読書バリアフリーコンソーシアム」委託事業の取り組み事例について ―― 文部科学省 712

学校図書館建築見学報告●①
北茨城市立磯原中学校，牛久市立ひたち野うしく中学校 ―― 佐藤千春・中村　崇・長谷川優子 718

●編集委員会
〈委員長〉
松本哲郎（市原市立中央図書館）
〈委員〉
青柳英治（明治大学文学部）
岩永知子（相模原市議会局）
宇野亮一（国立国会図書館）
中村保彦（元文教大学図書館）
長谷川優子（元埼玉県立図書館）
宮原柔太郎（日本体育大学図書館）
米山　薫（多摩市立図書館）
鷲山香織（福井県教育庁）
＊
●事務局スタッフ
秦　秀文・川下美佐子・星川智隆

●今月の表紙
国立国会図書館所蔵
「東都名所日本橋雪［中］」（部分）
広重画
https://dl.ndl.go.jp/pid/1302096
〈国立国会図書館デジタルコレクション〉



小規模図書館奮戦記●その315／東京都消費生活総合センター図書資料室
消費生活にかかわる知識と情報を発信する専門施設 ―― 木村俊雄 721

れふぁれんす三題噺●連載その三百十五／甲南小学校図書館の巻
児童の心を大切にするレファレンス ―― 田代弘子 722

ウチの図書館お宝紹介！●第243回／敦賀市立図書館
「浦潮日報」 ―― 敦賀市立図書館 724

図書館員のおすすめ本●㊻
実践アニメ療法 ―― 佐藤正恵 726
広島の被爆と福島の被曝 ―― 藤田理穂 726
寄生虫を守りたい ―― 佐藤里恵 727
なぜか買いたくなる“もちもち”の秘密 ―― 中塚ゆり子 727

図書館員の本棚●
Hidden Library,Invisible Librarian 医療と健康と図書館と，司書。
―― 奥出麻里 728

＊ ＊ ＊

●*The Library Journal, December 2024*
**Special feature: School libraries as a link – Aspect of developing information literacy**
*Building bridges from the library as a place in physical space to the information space – Proposal of a digital resource card* (OKAMOTO Makoto) 696
*Creation of a database of book lists for teaching materials by subject and unit* (ASAISHI Takuma and YADA Shuntaro) 699
*Collection of local materials and school libraries* (OGUMA Manami) 702
*Issues to consider when planning school library facilities – How to engage in dialogue about the design of school libraries* (KASAI Hisashi) 704
*How to create a school library where people meet – Not just a place to read books! For a lively school library in the middle of the school, where students meet!* (NOMURA Taro) 707

●協会通信 ―― 745
常任理事会 745
事務局カレンダー 747
●編集手帳 ―― 748

●公益社団法人日本図書館協会
2024年度理事会議事録
＊2024年度通算第２回（定時第２回）
理事会議事録 731

●2024年度通算第２回（定時第２回）
理事会配付資料 ―― 740

＊「新館紹介」は休載させていただきました。

●図書館雑誌１月号予告 ―― 748

●発行者
公益社団法人日本図書館協会©2024
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電 話 (03)3523-0811〈代表〉
直 通 (03)3523-0816〈編集部〉
ＦＡＸ (03)3523-0841〈代表〉
〈日図協ホームページ URL〉
https://www.jla.or.jp
〈JLA メールマガジン申込先アドレス〉
mailmaga@jla.or.jp

＊本文は中性紙（冷水抽出 pH8.1）を使用

# 社会資本／図書館／知識インフラ

本吉理彦

かつて国立国会図書館には図書館研究所という組織があった。図書館・図書館情報学に関する資料室を持ち、情報発信や調査研究を行った。その機能は関西館図書館協力課などに引き継がれている。

ある年の調査研究に携わることになった。前から考えていたことを話したのが発端だった。

一般に図書館は社会教育施設や学術研究のための機関と考えられているが、もう少し広く捉えることはできないか。道路などと同様に、公共部門が提供することが必要な社会基盤の一つとして考える。図書館は情報の生産、流通、利用、保存の各段階を支える社会資本であり、市場では供給されない公共財としての性格を持つと言えないか。

採択され、同僚に紹介を乞い慶應義塾大学の糸賀雅児先生に会いに行った。面白がって聞いてくれ、参加を了承するだけでなく研究者や大学院生も引き込んでくれた。

一年間かけ調査報告書をまとめたが、内容は満足いくものではなかった。多くの労力を割いていただいた外部の参加者には内心忸怩たるものがあった。ただ、社会資本というコンセプトは、その後の職業人生の導きの糸となった。

時が経ち、私は科学技術・経済課にいた。そこでは数年に一度、科学技術情報整備基本計画を策定するが、その担当者となった。

この計画は科学技術情報のみならず学術情報流通全般の現状と見通しを示し、そこでの国立国会図書館の役割を明らかにするという役割を持っている。館の科学技術関係資料整備審議会に策定のための部会が設けられ、慶應義塾大学の倉田敬子先生、東京大学の喜連川優先生、東北大学の大隅典子先生がメンバーとなり、検討を進めることになった。

長尾真館長から示されたキーコンセプトは「知識インフラ」だった。文献を含む多種多様な形態の情報の生産流通などを支える基盤であり、図書館もその構成要素の一つである知識や情報に関するインフラストラクチャー。

それは、「社会資本としての図書館」をより深めたものであり未来形であると自分の中ではつながった。

（文中の肩書、組織名はいずれも当時のもの）

**参考資料**

・「社会資本」としての図書館：電子情報環境下における図書館サービス」一九九七　国立国会図書館図書館研究所　国立国会図書館請求記号 UL11-G23

・「国立国会図書館における今後の科学技術情報整備の基本方針に関する提言」平成二三年一月
https://dl.ndl.go.jp/pid/3518760

（もとよし　ただひこ／元国立国会図書館）

# NEWS

▶日図協，書店活性化のための課題（案）に対する意見を提出

経済産業省は，2024年３月に設置した書店振興プロジェクトチームを中心に関係者のヒアリングを実施，「関係者から指摘された書店活性化のための課題（案）」を公表した。

このほど，2024年10月４日～11月４日までの間，同「課題（案）」についてパブリックコメントが行われ，協会は以下の意見を提出した。

＊

○該当箇所

３．書店活性化のための課題の整理

（１）書店特有の課題

10. 公共図書館の複本購入による売り上げへの影響

11. 公共図書館での新刊貸出による影響

12. 地域書店による公共図書館への納入

13. 図書館の納入における装備費用の負担

○意見内容

「10. 公共図書館の複本購入による売り上げへの影響」では，「過度な複本購入が行われる場合には，書店店頭での売り上げ機会を奪っているとの指摘もある。」とされている。しかし，「街の本屋さんを元気にして，日本の文化を守る議員連盟」の第一次提言を受けて，文部科学省，一般財団法人出版文化産業振興財団，公益社団法人日本図書館協会が事務局となって設置された「書店・図書館等関係者における対話の場」において，その議論を取り纏めた「書店・図書館等の連携による読書活動の推進について～書店・図書館等関係者における対話のまとめ～」（以下「対話のまとめ」）では，「図書館の約６割の図書館の複本は「２冊未満」で過度とはいえない状況にある。」とされている。そもそも現状では「過度な複本」に該当する例は多くはないと考えられる。このことも併記すべきである。

また，「11. 公共図書館での新刊貸出による影響」では，「新刊書籍を発売と同時に貸し出すことで，書店店頭での売り上げ機会を奪うという意見もあり，」とされているが，前出「対話のまとめ」では，「2023年の実証研究は，①平均すれば，全体として図書館による新刊書籍市場の売上へのマイナスの影響は大きくないことを示した。ただし，②同時にそれは一部のベストセラーに限ればマイナスの影響が小さくないことも付け加えている。」ということを共通認識としている。

適切な課題認識として「対話のまとめ」で確認された共通認識も記載する必要があると考える。

「12. 地域書店による公共図書館への納入」及び「13. 図書館の納入における装備費用の負担」については，そもそも公共図書館の資料費がほとんどの自治体で十分に確保されていないこと，また，装備に係る経費も確保されていないことが大きな課題である。このことも記載していただきたい。

上記４項目に共通することではあるが，課題として取り上げるのには，「指摘もある」「意見もあり」だけで済ますのではなく，それについてのなんらかの数的根拠なども示す必要があると考える。せめて，どのような機会に出された意見なのかは最低限明示する必要があるのではないか。一部の指摘のみを取り上げ，一面的に課題を捉えることは対応を誤ることにもつながりかねないことを懸念する。

○理由（根拠）

掲載省略。

詳細：https://www.jla.or.jp/demand/tabid/78/Default.aspx?itemid=8061

関係者から指摘された書店活性化のための課題（案）：https://www.meti.go.jp/press/2024/10/20241004002/20241004002-1.pdf

▶パンフレット「国立国会図書館の書誌データ」を刊行

2024年10月，国立国会図書館は，パンフレット「国立国会図書館の書誌データ」を刊行した。

国立国会図書館が作成・提供する書誌データ（全国書誌データ，雑誌記事索引データ，典拠データ）について，特色や利用方法を紹介している。特に全国書誌データは，2024年１月に「全国書誌データ検索」が公開されたことに伴い，内容が大きく更新された。

A４判・全８ページ。国立国会図書館ホームページにPDF版が掲載されている。

パンフレット：国立国会図書館の書誌データ－全国書誌データ，雑誌記事索引データ，典拠データ－：https://www.ndl.go.jp/jp/data/data_service/data_service_pamphlet.pdf

参考：国立国会図書館ホームページ「書誌データの提供」：https://www.ndl.go.jp/jp/data/data_service/index.html

問合先：国立国会図書館　収集書誌部収集・書誌調整課　E-mail：bib-dl@ndl.go.jp

▶Library of the Year 2024のライブラリアンシップ賞・優秀賞・特別賞の受賞機関決定

NPO法人知的資源イニシアティブ（IRI）は，９月２日に実施したLibrary of the Year 2024（LoY2024）の

# NEWS

二次選考会の結果を発表した。

二次選考会の結果，ライブラリアンシップ賞は「千葉市図書館情報ネットワーク協議会」，「みなサーチ（国立国会図書館障害者用資料検索）とデータ提供館並びにデータ制作者の方々」，優秀賞は「泉大津市立図書館シープラ」，「沖縄県立図書館 "Finding Okinawan Roots" Project」，「国立がん研究センター「つくるを支える　届けるを贈る『がん情報ギフト』プロジェクト」」，「真庭市立図書館」，協賛社特別賞は「皇學館大学附属図書館ふみくら倶楽部」，実行委員会特別賞は「埼玉県立飯能高等学校図書館（すみっコ図書館）」がそれぞれ受賞した。

Library of the Year 2024 第二次選考会結果を発表します：https://www.iri-net.org/loy/loy2024-second-result/

▶**文字・活字文化推進機構「全国の中学生・高校生・大学生が選んだビブリオバトラー推し本2023～2024」発行**

ビブリオバトル全国大会の主催である活字文化推進会議が，2023年～2024年の全国大会と地方大会で紹介された本を集計し，中でも「推し」が多かった約50冊をリストアップした冊子を作成した。HP上で公開しているほか，公共図書館，学校図書館などを対象に冊子の配布をしており，以下のとおり請求を受け付けている。

対象：学校（学校図書館を含む），公共図書館

配送料：10部まで：送料無料／11部以上：着払いでの発送（運送の指定がない場合は，ヤマト運輸着払い）※同年度内２回目の請求は着払い

冊数制限：一団体につき最大200部まで。

※在庫が無くなり次第，配布を終了。

※お届け先は団体住所のみ。

詳細：https://www.mojikatsuji.or.jp/news/2024/10/24/9154/

## 告知板

### ●つどい

**■日本図書館協会「図書館基礎講座」in 九州（鹿児島）**

第13回「図書館基礎講座 in 九州」を，鹿児島県鹿児島市で開催します。図書館の理念や社会的役割など，公共図書館の現場に役立つ基礎知識を学びます。雇用のかたちや仕事の内容，経験年数などを問わず，図書館で働くみなさんのための講座です。会計年度任用職員，派遣職員，委託職員，指定管理者職員，図書館に関心のある市民のみなさんも，よりよい図書館づくりのため，どうぞご参加ください。

主催：日本図書館協会図書館基礎講座 in 九州実行委員会

日時：2025年１月27日（月）・２月10日（月）10:00-16:15

会場：鹿児島県立図書館　第３研修室

内容：１月27日＝講座１（10:00-12:00）図書館の基礎（下川和彦：福岡女子短期大学），講座２（13:00-15:00）出版流通と資料選択（末次健太郎：伊万里市民図書館），地域限定講座１（15:15-16:15）※実施の予定／２月10日＝講座３（10:00-12:00）図書館の自由（山口真也：沖縄国際大学），講座４（13:00-15:00）現代の図書館の動向（永利和則：福岡女子短期大学），地域限定講座２（15:15-16:15）※実施の予定

定員：両日とも70名（先着順）

資料費：１科目500円（地域限定講座は無料。資料費は当日会場受付でお支払いください）

申込方法：下記申込フォームにて送信。１科目から受講可 https://forms.gle/bv6PDW8nCyky1PbC9

受付期間：12月20日から１月20日まで。定員に達し次第締切

問合先：図書館基礎講座 in 九州実行委員会　E-mail：jla41saga@gmail.com　Facebook：https://www.facebook.com/kisokozakyusyu/

**■児童青少年委員会オンラインセミナー「若者は読書しないのか!?」**

著書『「若者の読書離れ」というウソ』が話題となったライターの飯田一史氏を講師に，中高生が実際によく読んでいる本にはどのような特徴や傾向があるのか，その読書実態をデータから分析いただきます。

YAサービスの選書などに活かすきっかけとなるお話がうかがえます。ぜひご参加ください。

主催：日本図書館協会児童青少年委員会

日時：2025年２月３日（月）19:00-21:00

開催形式：Zoomによるオンライン開催

定員：80名（先着順）

申込方法：下記申込フォームで必要事項を入力してください。https://forms.gle/YNAwE2zzdXrYECfr8

受付開始：12月16日（月）

申込締切：１月22日（水）

Zoom接続先等，詳細については，申込締切後１月末までにメールでお知らせいたします。また，jidou@jla.or.jpからのメールを受信できるように設定してください。

## NEWS

問合先：児童青少年委員会事務局（☎03-3523-0811 E-mail：jidou@jla.or.jp）

**日本図書館研究会 情報組織化研究グループ2025年1月月例研究会**

テーマ：新・国立国会図書館サーチの機能と，機能を導いた設計思想，さらに今後の展望について

旧国立国会図書館オンラインとサーチを統合した新・国立国会図書館サーチについて，開発に携わった発表者が説明する。

日時：2025年1月11日（土）14:00-16:30

会場：日本図書館協会研修室

発表者：宇野亮一（国立国会図書館利用者サービス部サービス企画課）

内容：1「国立国会図書館と全国の図書館の資料」「調べ方案内やレファレンス事例」「全文検索」等を統合的に行える，新サーチの機能性／2オンラインとサーチを統合した決定や，調べ方などまで統合的に検索できる機能，検索結果一覧・所蔵表示の優先順位決定などの背後にある設計の思想／3さらに発展・拡大できるとすれば，どのような方向性，機能があるか／1～3を踏まえ，会場と自由な意見交換を行う。参加者がサーチをより使いこなせるようになることと，今後サーチをどのように改善するかのヒントを得ること，双方を狙いとしたセッション。

参加費：無料

申込方法：申込不要

参考：「国立国会図書館サーチ」をリニューアルしました（『国立国会図書館月報』2024.3）https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_13336437_po_geppo2403.pdf?contentNo=1#page=17／リサーチ・ナビ（『国立国会図書館月報』2024.5）https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_13578995_po_geppo2405.pdf?contentNo=1#page=8／全国書誌データ等の提供－国立国会図書館の書誌データ提供サービスのご案内（『国立国会図

## こらむ 図書館の自由

### PTA未加入の生徒に対して学校図書館利用を制限？

鈴木啓子

近年，学校のPTA（Parent Teacher Association）は任意団体のため，入会しない保護者が増えているそうだ。そのような中，2024年4月5日，朝日新聞に「PTA退会『図書館実費負担を』」という記事が出た。この記事の埼玉の県立高校は，公費とPTA負担金を図書館充実費に充てている。そのため，校長がPTA未加入の保護者の子どもが図書館を利用する場合，「受益者負担の原則から『実費の負担というのを念頭に置かなければいけない』」と言ったという。この事態は，埼玉県議会でも取り上げられ，教育長は「適切ではない。保護者が非加入の生徒に不利益な取り扱いや実費負担を求めてはならない」と述べた。その後，校長は謝罪した。

この件は，図書館の観点から二つ問題がある。一つ目は，公立学校の経費を公費でまかなうのが原則であるのに，PTA負担金が図書館充実費に充てられていたことである。ただ，運営の経費は原則として学校設置者が負担するが，生徒のためにより良い教育環境を整えたいというPTA等の支援は否定されるものではなく，教育活動の充実に資するとの考えを教育長は示している。蔵書の充実に必要な資料費の公費負担が少なく，PTA負担金に頼らざるを得ないのが現状である課題もあるだろう。

二つ目は，PTA負担金を支払っているかどうかで生徒の図書館利用を制限するかしないかを決めようとしたことである。「図書館の自由に関する宣言」は，「すべての国民は，図書館利用に公平な権利をもっており，人種，信条，性別，年齢やそのおかれている条件等によっていかなる差別もあってはならない。外国人にも，その権利は保障される」としている。この「図書館の自由」に関する原則は，知る自由を保障するために図書館が果たすべき任務であり，すべての図書館に基本的に妥当するものである。

PTA負担金を支払っていないことを理由に入館を拒否するようなことが許されるならば，生徒は図書館を利用できず，本を読んだり，借りたり，知りたいことを調べることもできない。図書館で行われる授業はどうなるのだろうか。図書館を自由に利用できないということは，子どもたちの学びを支える知る自由の保障を妨げることになる。このような事態が起きないようにするためには，学校で「図書館の自由」を周知し，理解してもらうことが重要である。

（すずき けいこ：JLA図書館の自由委員会）

書館月報』2024.6）https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_13610008_po_geppo2406.pdf?contentNo=1#page=23／国立国会図書館サーチ－国立国会図書館の提供するレファレンスツールを使いこなす（「国立国会図書館ウェブサイト　遠隔研修動画」2024.7）https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/referencetool_ndlsearch.html

■日本図書館研究会　第66回研究大会

2024年6月に文部科学省が「図書館・書店等連携実践事例集」を公開し，図書館と書店等関係者の連携への関心が高まっています。2日目のシンポジウムでは，図書館と書店等の関係について，その現状や課題を議論します。

期日：2025年3月1日(土)～3月2日(日)

会場：灘中学校灘高等学校（神戸市）

内容：1日目＝同研究会の個人会員および研究グループの研究発表／2日目＝シンポジウム「書店と図書館（仮題）」

詳細：『図書館界』76巻5号を参照

■第111回全国図書館大会愛媛大会

テーマ：図書館が　彩る未来　伊予路から

期日：2025年10月30日(木)～31日(金)

会場：愛媛県県民文化会館（メインホール）ほか

内容：1日目（全体会）＝対面形式で開催。開会式，表彰式，記念講演等を予定／2日目（分科会）＝対面形式で開催。開催県が担当する第1分科会（公共図書館），第2分科会（大学・短大・高専図書館）、第3分科会（児童・青少年の読書活動支援）と，日本図書館協会が担当する第4分科会以降を予定

詳細：第111回全国図書館大会愛媛大会公式サイト　https://www.pref.ehime.jp/site/111th-library-ehime/

## ●その他

◆JMLA認定資格「ヘルスサイエンス情報専門員」第43回申請

受付期間：2025年1月1日(水)～31日(金)

はじめて申請される方へ：日本医学図書館協会会員以外の方も申請できる／司書資格のない方はご相談を／日本医学図書館協会指定の研修会への参加が必要／規定の実務経験が必要／基礎資格のみ申請できる／基礎資格は永年有効

第33回申請で中級・上級を取得された方へ：今回の第43回申請が更新の期限となる。

問合先：NPO法人日本医学図書館協会中央事務局（〒101-0051　東京都千代田区神田神保町1-10　和田ビル3階　FAX.03-5577-4510　E-mail：jmlajimu@sirius.ocn.ne.jp）

詳細：https://jmla1927.org/healthscience.php

◆『志保田務先生追悼集』のご案内とご協力のお願い

志保田務先生は2023年12月25日に急逝されました。先生は図書館員としてキャリアをスタートされて以来，日本図書館研究会整理技術研究グループ（当時）でのご研鑽，桃山学院大学教員に着任されてからは多くの学生を育ててこられました。また，図書館界において，日本図書館協会図書館学教育部会（当時）の部会長を務められる等のご貢献も忘れてはならないものです。

志保田先生を追悼すると同時に先生の遺徳を偲び，『志保田務先生追悼集』を企画いたしました。

1．追悼集の内容

「年譜」「著作目録」「関係者エッセイ」「図書館学徒・志保田務：その時代と研究仲間たち（予定）」（発行予定2025年12月）

2．「関係者エッセイ」原稿募集

多くの方々に追悼集への原稿をお寄せいただきたく，お願い申し上げます。

ご寄稿内容：志保田先生との思い出，お人柄等（3,000字まで）

あて先：『志保田務先生追悼集』（仮）刊行委員会　事務局

投稿申込締切：2025年1月18日

原稿締切：2025年6月末（初校のみ執筆者に見ていただき，あとはお任せください）

※出版はPOD方式にいたしますので，皆様からの寄付金は募りません。『追悼集』刊行時には，皆様各自でネットよりご購入いただきますようお願いいたします。

連絡先：『志保田務先生追悼集』（仮）刊行委員会　事務局：前川和子　E-mail：maekwkz@gmail.com

※件名に「志保田先生追悼集」とお書きください。

◆日本図書館協会へのご寄附について

日本図書館協会では，図書館にかかわるさまざまな事業を展開しており，公益目的にかなう事業のさらなる充実を図り，21世紀のよりよい文化的社会を築いていくため，広く市民や会員の皆さまからのご寄附を受け付けております。なお，当協会への寄附金には特定公益法人としての税制上の優遇措置が適用され，所得税・法人税の控除が受けられます。

※詳細は以下をご参照ください。

https://www.jla.or.jp/jla/tabid/457/Default.aspx

# NEWS

## 新聞切抜帳

### ●全国

▶退職者の4割「雇い止め」 非正規公務員実態調査 「ただの駒」「毎年不安」［公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）］ （東京9/12）

▶DNP［大日本印刷］ 書店開業支援サービス開始 書店業以外の事業者対象に 第1弾は札幌［市］の温泉ホテル ［定山渓第一寶亭留翠山亭内 風呂屋書店］ （新文化9/26）

▶「アクセシブルライブラリー」 導入自治体100件超に メディアドゥ （新文化9/26）

▶〔数字は語る〕［2023年］児童書の［推定］販売金額 863億円 絵本にワクワク 世代を超えて （朝日10/1）

▶TVゲーム SAVEせよ 「作ったら終わり」開発時の紙資料散逸 スク［ウェア・］エニ［ックス］が着手 新作のヒントに ／ RERLAY 技術後世に 図書館に保存 活用されぬ家庭用ゲーム 再現に著作権の壁 「官民で取り組みを」［国立国会図書館］ （毎日10/3夕）

▶理事長に野口［武悟］氏 ［公益社団法人］全国学校図書館協［議会］ （毎日10/4）

▶読書離れ，雑誌販売減，手数料… 書店の苦境 課題まとめ 経［済］産［業］省［書店振興プロジェクトチーム］概要 ／ 国の競争力左右 危機感 （読売10/4，関連3紙）

▶「図書館の自由」守り続けるには ［図書館の自由に関する］宣言70年記念 憲法学者・木村草太さん講演 ［日本図書館協会開催「憲法学者からみた『図書館の自由』」］ （朝日10/9夕）

▶進まぬ障害者の読書支援 自治体，計画に「縦割りの壁」［計画公表：千葉県］ （日本経済10/16）

### ●北海道・東北

▶新清田区民センターに図書館 ［札幌］市構想，区役所から移転 フリースペースも整備 （北海道〈札幌〉9/10）

▶［青森県］階上［町］・社［会］教［育］複合施設 基本構想案を承認 町の整備検討委［員会］ ［図書館など］ （東奥日報9/5）

▶図書館150年 ロゴやグッズ 八戸市［立図書館］ 歩み紹介パネル展なども （読売〈青森〉10/1）

▶蔵書点検ロボット導入 ［岩手県］平泉・町学習交流施設「エピカ」「べんけーくん」 業務の効率化期待 ［平泉町立図書館 図書館蔵書管理システム「KoKoBo システム」］ （岩手日報9/8，関連2紙）

▶デジタル化資料運用開始 東北大［学総合知デジタルアーカイブ トゥーダ（ToUDA）］ ［夏目］漱石の旧蔵書も手軽に （読売〈宮城〉9/11）

▶横手市生涯学習館「Ao－na」14日オープン ［JR横手］駅前に学び，交流の拠点 吹き抜け構造，開放的 ［図書館など］ （秋田魁新報9/12，関連2紙）

▶［JR大石田］駅に本棚自由に読んで ［山形県］大石田町［立図書館］ 併設施設に「えきとしょ［～駅待図書館］」開設 山形市［立図書館］と連携 相互利用可能に （山形9/12）

▶［福島県］大熊［町］「学び舎［ゆめの森］」にクラウド図書館 電子書籍250冊 （毎日〈福島〉8/5）

▶福［島］大［学附属図書館（フクニチャージ図書館）］に吉原［泰助］元学長の蔵書 遺族要望で「［吉原泰助］文庫」新設 18～19世紀の経済書 （福島民報8/10）

▶［福島市］南矢野目の市有地売却 イオンタウンと仮契約 ［複合商業施設 子ども図書館など］ （福島民報〈福島・県北〉8/24）

▶［福島県］双葉［町］に建設の大型ホテル 2026年3月開業目指す ［図書館など］（福島民報8/27，関連1紙）

▶「［福島県立図書館］県民のくらし応援文庫」に寄贈 ［福島発電］ （福島民報〈福島・県北〉9/1）

### ●関東

▶6施設で愛称使用開始 取手市，初の命名権導入 ［取手市立ふじしろ図書館：「常陽建設ふじしろ図書館」など］ （茨城10/3，関連1紙）

▶「文化と知」拠点整備で ［栃木］県方針 開館 32～35年度めど ［図書館など］ （下野9/11，関連2紙）

▶効果に手応え「読書のまち」 ［キラリと光る読書のまち野木］宣言，［町民の読書活動の推進に関する］条例施行から10年 家庭で，図書館で，学校で…取り組み 「おはなし給食」も開始 利用者増え年齢層拡大 ［野木］町［立］図書館長 寺内由一さんに聞く ［栃木県］ （下野9/15）

▶年度内に組合設立認可 前橋市千代田町の再開発 2街区総延べ4万㎡超 ［図書館など］（建設通信8/8）

▶町内の書店［Book Land オリブ］で返却OK ［大多喜町立］大多喜図書館［天賞文庫］，ポスト設置 ［千葉県］ （千葉日報8/23）

▶市立図書館来月末で休館 茂原［市］ ［茂原ショッピングプラザ］アスモに3月下旬移転へ （千葉日報9/17）

▶全国で民間図書館128カ所 船橋［市］ NPO［法人「情報ステーション」］が20周年 （千葉日報9/20）

▶〔現着しました！〕読書の可能性提示続け50年 中野区 東京子ども図書館 「家」の温かさを 創設者たちの夢 コロナ禍超えて （産経〈東京〉8/6，関連1紙）

▶清瀬市［立中央，駅前を除く］4図書館 「見直し」＝閉館 周知不十分 反発の声 「年に1度でも利用」は1～2割 宅配サービス導入へ （朝日〈東京・多摩〉10/3）

▶本間一夫文化賞に塩谷［靖子］さん ［日本点字図書館］ （読売10/5）

### ●甲信越・北陸

# NEWS

▶借りて返すだけじゃない　気軽に訪れ本親しんで　聖籠町立図書館10周年　ウォーキングや司書体験　多彩な催し人気　［新潟県］
（新潟日報8/23）

▶新発田［市立］中央図書館の閲覧用新聞　切り抜き被害相次ぐ　本紙・スポーツ紙で確認　6月から　パリ五輪記事狙いか　1ページ丸ごと持ち去りも　村上［市立中央図書館］，阿賀野［市立図書館，水原中学校市民図書室］，胎内［市図書館］でも発生
（新潟日報8/28）

▶図書，遊び，交流　人集う「ホントカ。」オープン　小千谷［市］［図書館など］　（新潟日報10/1）

▶開館2年目　全国1位に　［石川］県立図書館の入館者　昨年度，102万6046人　（北国8/24）

▶〔ぐんない〕本との出合い　学生に　都留［市］の書店［ブックスステーション］［都留文科］大学図書館で出張販売　（山梨日日8/21）

▶［山梨］英和大学生推薦　30冊の本を展示　山梨市立図書館　［サークル「LIKE」］　（山梨日日9/1）

▶ぬいぐるみ，中央市［立］図書館でおとまり会　インスタグラムで紹介
（毎日9/16）

▶音訳　担い手先細り懸念　書籍音読　情報伝える奉仕員　［山梨］県内団体［「山梨青い鳥奉仕団」］　30～40代参加が減少　（山梨日日9/27）

▶〔ぐんない〕図書館の本棚貸します　富士吉田［市立図書館］　市内団体，個人に　［「ひとハコ図書館」］
（山梨日日10/2）

▶読みたい本図書館と書店一括検索　県立［長野］図書館サイト・信州ブックサーチ　全国初　売り上げ支援の狙いも　［「書店在庫情報プロジェクト」実証実験の一環］
（信濃毎日8/9）

▶図書館で音楽や朗読発表　開館以来続く「ひだまりサロン」　9年で130回超え　出演者は随時募集　［市立小諸図書館］　（小諸9/13）

▶スマホでピッ！　本の貸し出し簡単に　［松本］市図書館　デジタル［利用者］証運用開始
（市民タイムス9/27）

▶村井駅に学習スペース　JR篠ノ井線，26日から　図書館機能も　［松本市］　（読売〈長野〉10/2）

## ●東海

▶〔ランキング　ぎふ〕公立図書館の貸出書籍数　1位　岐阜市立中央図書館　市民が集まる「自由な空間」　2位　各務原市立中央図書館　1回30冊まで貸し出し　3位　大垣市立図書館　4位　多治見市図書館　5位　関市立図書館　（岐阜9/15）

▶読書推進へネットワーク［「本よもうねっとMIE」］　［三重］県教［育］委［員会］　図書館利用減で危機感
（読売〈三重〉10/8）

## ●関西

▶街の各地に図書コーナー，本を通した居場所づくり　「ことしょ」活動10年で有終　メンバー高齢化，管理難しく　寄贈の千冊，東山［いきいき市民活動センター］で無料配布　［市民グループ「居場所いいばしょ」　京都市］　（京都9/13）

▶同志社大［学］の解体工事なに？　“新時代図書館”に建て替え　吹き抜け　巨大な書架，全ての本を開架
（京都10/2）

▶図書館本館建て替え　複合化など検討　岸和田市がプロポ［ーザル］公告　（日刊建設工業9/19）

▶イオン［五條店］敷地内に［（仮称）市民］交流施設　対話で支援業務内容検討　五條市　［図書館など］
（日刊建設工業10/3）

▶図書館にサイバー攻撃　斑鳩町教［育］委［員会］　情報流出確認されず　［奈良県］
（読売〈奈良〉10/3，関連2紙）

## ●中国・四国

▶〔図書館出会いの広場〕国際交流ライブラリー開設10周年　多文化に触れる　来月に記念講演会　［鳥取県立図書館］　（日本海10/1）

▶図書館巡ってグッズゲット　［図書館へ行こう！］キャンペーン　47カ所で実施　［鳥取県］　（日本海10/4）

▶入館者首位転落　全国2位　岡山県立図書館　23年度石川［県立図書館］トップ　貸出冊数は4年連続1位　開館20年の25日中心に催し　グッズ配布やコンサート
（山陽9/20）

▶図書館複合化施設整備　基本設計プロポ［ーザル］公告　美祢市　9月6日まで受け付け
（日刊建設工業8/27）

▶〔読書を子どもに　県内の取り組みから〕7　図書館に通う契機を　［吉野川市］調べる学習コンクール　［吉野川市立鴨島図書館］
（徳島10/4）

▶子供向け図書室開設準備費　松山市，ネット資金調達　来月から400万円目標　［こども本の森　松山］
（日本経済〈四国〉9/28，関連1紙）

## ●九州・沖縄

▶「図書館バッグ」劣化で半数使えず　市民団体［「さわやかグループ」］が500点作り寄贈　筑後市［立図書館］
（西日本9/28）

▶本音話せる学校図書館　生徒の悩み［学校］司書が相談相手に　配置［全国の公立小中高校などの約］7割　不十分の声も　［福岡県］　／　テーマ「学校図書館」　いじめ，孤立，激高…　悩む生徒支える「居場所」　［福岡県立東鷹高校図書館］
（西日本10/6）

今月も阿部千春様，石井一郎様，鎌田梨奈様，岸本修様，桑原芳哉様，松野高徳様および山梨県立図書館，県立長野図書館，小郡市立図書館，筑後市立図書館の皆様より記事の提供を受けました。ありがとうございました。

特集★つなぎ手としての学校図書館－情報活用能力育成のアスペクト

# 特集にあたって

図書館雑誌編集委員会

「情報活用能力」－図書館情報学上の「情報リテラシー」を源とするこの語の登場（「臨教審答申」1986年）以来現在に至るまで，学校図書館はその育成を支援する場であり，学校図書館情報専門職はその任にあたると考えられてきました。「学校図書館ガイドライン」（文部科学省　2016年）に，それは「児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり，児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする『情報センター』」機能と位置づけられ，探究学習の進展と共に，実践を蓄積してきました。

しかし，GIGAスクール構想の１人１台端末の実現は，学校図書館のこの機能が，必ずしも校内における共通理解ではないことを浮き彫りにしました。

その背景には(1)「情報活用能力」の語義そのものの変遷（ICT活用），(2)「子どもの読書活動の推進に関する法律（2001年）」，「文字・活字文化振興法（2005年）」により，子どもの読書環境としての読書センター機能に着目，整備されたこと。資料費増，学校司書配置増がかなったとはいえ，不十分な勤務状況が象徴する，授業中児童生徒に寄り添い個別の情報活用能力育成に資する学校司書像の不在，(3)そもそも具体化するためのデバイス，ツールの不在の３点が挙げられます。

実際，コロナ禍以前の小中学校図書館では，読書材に対する克明な資料評価と蔵書構築に対し，Web情報資源は「信頼性が低い」の一言で遠ざけられる状況が垣間見られ，公共図書館現場では既に紙資料とWeb情報資源とをつなぐことで豊饒な情報資源に変貌させ，従前の未解決レファレンスを刷新していたのと対照的でした。

１人１台端末によってデバイスが児童生徒に行き渡り，探究的な学習の本格展開を進める学習指導要領のもと，学校図書館のアプローチはここ数年来急速な変貌を遂げています。と同時に，各地の多様な環境による分断と格差はより広がったように見えます。

今号では，セカンドGIGAに向け，紙とデジタルという二項対立を越え，本来あるべき情報活用能力を育成する本質的な役割を再確認し，理念を可視化するためのヒントをお届けします。デジタル情報源のとらえ方，情報活用のさまざまな側面を，場としての学校図書館がどのようにつないでいくのか。タブレットの中で，物理的な図書館の場で，児童生徒が求める情報をどうつなぎ，その成果を見せていけるのか，多様なアプローチからヒントを見いだしていただければと存じます。

＊　＊　＊

ある中学１年生の探究学習を見学したときのこと。探究プログラムには，院生アドバイザーとの相談や専門分野の教授の指導機会もあり，課題設定から実践まで生徒個々の選択と意見が尊重され，「自分たちの未来は自分たちが変えられる」自己信頼感の醸成も見事です。タブレットを前に中間報告をしてくれたとき，一人がつぶやきました。

「検索って意外と使えないんだよね。」デジタルネイティブの中学１年生はGoogle検索の限界を直感的に感じとったらしく，周囲からも共感の声が続きました。

「さあ，今こそ学校図書館の出番」ではないでしょうか。読者の皆さんは何から始められるでしょうか？

＊　＊　＊

学校図書館を利用する現在の児童生徒の姿は，その地域の公共図書館の未来です。

学校図書館をハブに生涯にわたる「生きる力」となる情報活用能力育成に，図書館界全体でできることを考えていきたいと願います。

なお，今号から短期連載「学校図書館建築見学報告」を掲載します。笠井尚氏の論考とあわせてお読みいただければと存じます。

（文責・長谷川優子（はせがわゆうこ）：本誌編集委員，元埼玉県立図書館）

特集★つなぎ手としての学校図書館ー情報活用能力育成のアスペクト

# 場としての図書館の実空間から情報空間に橋を架ける
## ――デジタル資源カードという提案――

岡本　真

### デジタル資源を追い続けて

アカデミック・リソース・ガイド株式会社（arg）という会社を興して今年で15年になります。法人の前身であるメールマガジンACADEMIC RESOURCE GUIDE（ARG）の創刊から数えれば，もう四半世紀を超える年月となります。

この間，私自身は一貫して役立つ情報源の存在に関心をもち，その情報源の存在やありかを人に伝えてきました。argの前に10年勤めていたYahoo! JAPANでも最初はYahoo!カテゴリというリンク集を構築するサーファーという職種でしたし，その後は検索エンジンやYahoo!知恵袋のようなQ&Aサービスを企画していました。考えてみれば，この間も役立つ情報源や情報資源，つまりリソースに関心をもっていたわけです。

その後，会社を興した私は公共図書館や大学図書館をデザインしプロデュースしてきました。その仕事はいまも続いており，年に1館程度がオープンを迎えています。そのような事業を営む私にとって，変わらずテーマであるのが，役立つ資源（リソース）を発見し，その存在や有用性を人に伝えることです。前史的な前置きに少しページを割きましたが，ここからが本題です。

### デジタル資源カードという提案

さて長い試行錯誤の末に最近，精力的に取り組んでいることがあります。それが物理的に存在する図書館の実空間とインターネットの情報空間をつなぐことです。実空間と情報空間を融合するという言い方もしています。

具体的にはどういうことでしょうか。いま取り組んでいるのは，図書館という施設の内部空間に，インターネット上に存在する役立つ情報資源の存在を伝える印やサインを置くことです。その印やサインのことをこの活動を進める仲間うちでは，「デジタル資源カード」と呼んでいます。まずは実例をご覧いただきましょう。

図1．デジタル資源カードの実例

これは国立国会図書館デジタルコレクションを紹介するカードです。カードには，紹介するインターネットの情報資源の名前，運営者，スマートフォンでみた際の画面イメージ（キャプチャー），数行のコメント，URL，そしてQRコードを載せています。

このデジタル資源カードは，図書館の施設内，主に書架に配置されます。配置風景の一例もご覧ください。

図2．泉大津市立図書館での設置例

泉大津市立図書館は，arg社と事業連携協定を締結し，「図書館における紙媒体資料とデジタル資料を融合した情報提供のしくみ」の試行に取り組んでいます。この写真が伝える風景はその取り組みの一端です。

この取り組みはまだ始まったばかりですが，実践だけで終わらないようにしています。特に実践内容はCode4Lib JAPANや大学図書館研究会で報告し，成功と失敗を広く共有しています。またデジタル資源カードのテンプレート（ひな型）もオープンデータとして公開し，誰もが許諾申請の手間なく使えるようにしています。さらに紹介したいデジタル資源は，メールマガジンACADEMIC RESOURCE GUIDE（ARG）で毎週取り上げています。メールマガジンは無料で誰でもお読みいただけます。

デジタル資源カードというこの提案は，決して真新しく斬新なものではないでしょう。実際，QRコードでデジタル資源への誘導を試みている図書館は少なからず存在します。そもそも事業連携協定を結んでいる泉大津市立図書館でも，試みられていました。

こうした先行例とデジタル資源カードが異なるのは，

1．誘導するインターフェースに「デジタル資源カード」と命名したこと
2．カードの多面的なデザインに注力していること（グラフィックデザインや情報デザイン）
3．事業連携協定に基づき試行錯誤を前提として始めていること
4．デジタル資源カードのテンプレートやデジタル資源情報を自由利用にしていること
5．QRコード決済の圧倒的な普及でQRコードが定着した時期での取り組みであること

等が挙げられます。

図3．QRコードでの誘導例（泉大津市立図書館）

いま提案しているデジタル資源カードが決定版ではないかもしれません。10年後くらいに私たちが目にする世界では，また違った光景が広がっているかもしれません。ですが，その未来と現在は異なる世界線にいるわけではなく，必ずつながっています。そう信じて，まずは広く各所で同時に同じ実践を繰り広げてみませんか。

すでに述べたように，この提案に関するさまざまなノウハウはオープンになり，誰でも自由に使えるようになっています。そして，この12月にオープンする高知県の「佐川町立図書館さくと」では，図書館内にて大規模に実装します。また刊行したばかりの季刊誌『ライブラリー・リソース・ガイド』（LRG）第49号では「デジタル資源による図書館DX」（責任編集：岡本真，間嶋沙知，河瀬裕子）という特集を組み，より詳しい内容を紹介しています。

オープンなこの提案にぜひあなたも加わってみてください。あなたが踏み出すその一歩は図書館

図4．『LRG』第49号の表紙

を訪ねる人々にとっても大事な一歩になるはずです。司書や図書館職員が開く扉は，より多くの利用者の世界も広げるのです。

なお，noteのマガジン「デジタル資源カードの標準化」も参考にしてください。

https://note.com/arg/

## つなぎ手としての学校図書館へ

デジタル資源カードという提案は，決して公共図書館や大学図書館だけの話ではありません。いや，むしろQRコードの利用が日常化している未成年層こそ親和性が高いと考えています。だからこそ，「つなぎ手としての学校図書館－情報活用能力育成のアスペクト」と題された特集に本稿が含まれるのでしょう。

この意味を踏まえて，司書教諭や学校司書ら学校図書館の担い手の方々にはデジタル資源カードのような提案に正面から向き合うことを望んでいます。いかがでしょう。取り組めそうでしょうか。

それでも最初の一歩を踏み出しにくいかもしれません。その背中を緩やかに押すために最後に一つだけささやかな思い出を記しておきたいと思います。もう少しおつきあいください。

もう4年前のことになりますが，2020年11月11日，私は千葉県の佐倉市にある国立歴史民俗博物館（歴博）にいました。長年消息を尋ねていた方と会うためです。再会するのは私が17歳のとき以来ですから，実に30年ぶりのことでした。その方は私が通っていた高校に歴史担当教員として勤務していた方で，学校図書館の担当でもありました。以下では先生と呼びましょう。先生は高校2年生だった私に学校図書館の使い方，さらには公共図書館の使い方を教え導いてくれました。

絵に描いたような無気力校であった母校で，特に強い目的もなく生きていた私にとって，このときの教えや導きは大げさでなくその後の人生を変えるものであったと思います。物事を深く調べること，その結果知るという喜びや楽しさを味わうことを先生からまなびました。このときの経験があればこそ，私は浪人して初めて本気になって勉強するようになり，巡り巡っていまに至ります。

この日，本当に久しぶりに再会し，文字どおり学恩に感謝できたわけですが，あらためて思うことがあります。先生は30年前，神奈川県の無気力校で普通の一生徒を導いたことはご記憶ではありませんでした。当然といえば当然です。ですが，これこそ，学校や学校図書館の日常のひとコマではないでしょうか。

教え導く側からすれば，数限りない日常のひとコマでも，子どもたちからすれば，かけがえのない一瞬になることがあります。実際，私はその瞬間をいまでも強く覚えているのです。冒頭につづった大人になってからの私の四半世紀には，先生の導きが確かに根づいています。きっと同じような導きをする機会が学校図書館の担い手の方々には溢れています。ぜひ，その機会の一つと思って，デジタル資源カード，さらにはさまざまなデジタルの取り組みに挑んでみませんか。30年後に学恩に感謝するかつての教え子が訪ねてくるかもしれませんよ。

（おかもと　まこと：
アカデミック・リソース・ガイド株式会社（arg）代表）
［NDC10：014.7　BSH：1. 電子資料　2. 情報検索］

特集★つなぎ手としての学校図書館ー情報活用能力育成のアスペクト

# 教科・単元別の教材用図書リストのデータベース化

浅石卓真・矢田竣太郎

## 1．教材探索システム（BookReach）について

著者らは，図書館による授業支援を促す教材探索システム（BookReach）を開発している。BookReachの基本的な機能は，教科書の中の単元を指定すると，登録した蔵書から関連する主題の図書が表示され，そこから教材となる図書を選択していくことで，授業で使える図書リストを簡便に作成できるというものである。あらかじめ作成した，単元と分類記号（NDC）との対応表を組み込むことで，単元に対応するNDCの図書の書影や書誌情

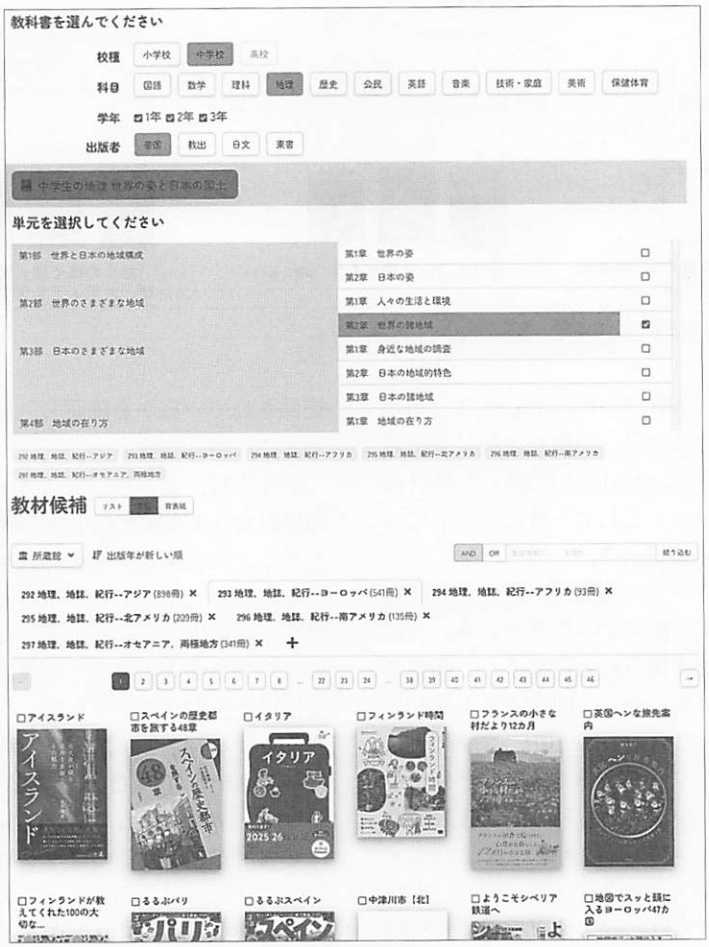



図1．BookReachの検索画面

図２．BookReach で公開されている事例一覧

報が一覧表示される（図１）。BookReach は，小学校・中学校のすべての教科・出版社の教科書に対応しており，カーリルの API と連携した無料のウェブアプリケーションとして一般公開されている（https://app.bookreach.org/）。

BookReach のもう一つの機能は，作成した図書リストを保存・編集・公開する機能である。これにより，過去に授業支援のために提供した図書リストを次年度も再利用したり，図書リストを部分的に編集（新たに購入した図書の追加や，除籍した図書の削除）してアップデートできる。とりわけ学校図書館での勤務経験が浅い学校司書／司書教諭にとっては，前任者の実践を引き継げるというメリットがある。公開された事例一覧（図２）を閲覧することで，他校ではどのような単元で資料提供が行われているか，具体的にどのような図書が提供されているかを確認し，自校の授業実践に活かすことができる。

開発当初，BookReach のユーザとしては，学校図書館で授業支援を行う学校司書を想定していた。しかし，実証実験や学会発表を重ねるにつれて，その他のユーザによる利用可能性も見えてきた。例えば児童生徒がブックトークや自由研究用の図書リストを作成したり，公共図書館の司書が学校支援用の図書リストを作成したりといった利用が考えられる。さらに，司書課程や司書教諭課程の授業（例えば「学習指導と学校図書館」等の科目）において，学生によるロールプレイング形式の演習にも利用できる。このような利用を想定して，複数のユーザが同じ蔵書データを対象として事例登録や編集ができるよう，ゲストコードを発行する機能も実装している。

2024年7月には，東京学芸大学学校図書館運営専門委員会司書部会による「みんなで学ぼう！学校司書講座2024」という学校司書の現職者研修で，BookReachを体験してもらう機会を得た。当日は東京学芸大学の附属小・中学校の蔵書を対象として，任意の単元における教材用図書リストをBookReachで作成し，参加者で相互に発表してもらった。研修後の感想を見ると，BookReachについては概ね肯定的で，「使ってみたいと思った」という意見が多かった。一方でさまざまな要望も寄せられたため，今後はそれらの要望に応えることで，より使い勝手の良いシステムへと改善する予定である。

## 2．BookReachを用いた教材用図書リストの収集・作成計画

現在，著者らはBookReachを活用して，多様な教科・単元の図書リストを収集・作成する計画を立てている。一般に学校図書館による授業支援が行われるのは国語が最も多く，社会や総合的な学習の時間が続くが，それ以外の科目は相対的に実践が少ない。実際，学習指導要領において学校図書館に言及されている教科は国語，社会，美術など一部である。しかし，学校図書館の活用可能性がそれらの教科に限らないことは，過去にさまざまな媒体で報告されてきた豊富な授業実践が証明している。学校図書館法に明記されている「学校の教育課程の展開に寄与する」という役割を一層伸長させるには，多様な教科・単元における学校図書館の潜在的な活用可能性を具体化する必要がある。

本計画に先行する取り組みとして，東京学芸大学学校図書館運営専門委員会が管理している「先生のための授業に役立つ 学校図書館活用データベース」がある。これは，過去に学校図書館を活用した授業実践について，概要と提供された図書リストのほか，授業計画や指導案，授業者や司書・司書教諭のコメント等を記録してデータベース化したものである。これに対して本計画は，過去の事例を収集するだけでなく，将来の授業実践で提供し得る図書リストを前もって作成しておく点に特徴がある。利用者の情報ニーズを先取りするという点ではパスファインダーに近いが，教科書の単元に沿うことで，直接的に授業に役立つ図書リストを作成できる。

既にBookReachには，2024年10月1日現在で19事例が登録されている。現在は本計画の趣旨にご賛同いただいている東京学芸大学附属小・中学校の事例が中心だが，学校支援に力を入れている公共図書館の事例も幾つか掲載されている。今後，順調に登録事例が増えていけば，書誌情報を入力することで教材として活用できる単元を提示するといった機能も実装できる。このような機能は，図書館の選書にも有用であろう。学校図書館の場合，BookReachを利用するための手続きは以下の通りである：

(1) カーリルの学校図書館支援プログラム（https://gk.calil.jp/）に申し込み，検索URLを発行してもらう（申し込みには蔵書データの提供が必要）
(2) 発行された検索URLを用いて，BookReachに新規登録する
(3) 新規登録時に作成したアカウントでBookReachにログインし，自校の蔵書を対象に，任意の単元での図書リストを作成する

公共図書館の場合も基本的に同様だが，OPACを公開している公共図書館であれば蔵書データを提供する必要はない。

## 3．本計画への協力者の募集

現在，本計画にご協力いただける学校図書館や公共図書館の実務家や，あるいは学校図書館を活用した授業案の作成や教材図書の選定に協力可能な図書館関係者を募集している。ご関心のある方やご興味のある方はsupport@bookreach.orgまでご連絡をいただきたい。

本研究は，JSPS科研費22K12324および2024年度南山大学パッヘ研究奨励金I-A-2の助成を受けました。

（あさいし　たくま：南山大学人文学部，
やだ　しゅんたろう：筑波大学図書館情報メディア系）

［NDC10：017　BSH：1. 学校図書館　2. 教材　3. データベース］

特集★つなぎ手としての学校図書館－情報活用能力育成のアスペクト

# 地域資料の収集と学校図書館

小熊真奈美

## 1．学校図書館における地域資料構築の意義

小学校では社会科や生活科，総合的な学習などで地域について学ぶ機会が多く，地域資料のニーズは高い。しかし，必要な資料を収集するのは大変な手間がかかり，教員が個人で保管している資料や教材は異動等により散逸しがちである。私も赴任したばかりの学校で社会科の地域学習の資料集めに四苦八苦した経験がある。そこで，司書教諭としての立場から学校図書館に地域資料を集約してはどうかと考え，資料の収集と構築に取り組むことにした。

最初に，教科書や教育計画を参考に，どのような地域資料が必要なのかを書き出してみた。総合的な学習や生活科は学校独自の活動を行うことが多いので，過年度の活動について聞いたり写真を見たりして具体的なニーズを把握した。社会科の教科書には地域の詳細な地図や先人の偉業などが例として掲載されているが，それらと同等の資料を集めるのは困難であるため，まずは入手可能な資料を収集することにした。そして，利用しやすいよう資料を整備したり，児童向けの資料集を作成したりして地域資料を構築してきた。

## 2．紙媒体資料の収集と提供

勤務校の学校図書館では，地域資料コーナーとして1台の棚を確保し，富岡町，福島県，諸テーマ資料，自作教材・資料の4テーマで資料を収集している。

富岡町の資料として収集したのは，『富岡町史』や「町政懇談会資料」といった町の基本的な情報が網羅されているもの，観光マップや事業所・施設一覧など現在の町の姿を捉えているもの，町の教育委員会が作成した富岡町の文化財に関する冊子や震災の記録集，新聞記事，広報誌などである。学校司書は，町と児童生徒に関する新聞記事のスクラップを行っており，新聞に郷土の偉人を紹介する連載が載ったときは，その連載記事だけまとめたファイルを作成するなど，きめ細かな対応をしている。また，町の風景や祭りなどを詠みこんだ「富岡カルタ」も地域資料コーナーに置いている。

福島県の資料としては，観光協会が作成した県の1枚地図や，市町村が作成した観光パンフレットなどを収集している。その他に，「震災復興」「双葉郡」といった地域に関する諸テーマの資料も収集した。

4年生を担任した時，社会科で地域を切り開いた先人について学ぶ単元の教材研究で，児童・教師向けの資料集とプレゼンテーション資料を作成した。それらの自作教材と児童が学習のまとめに作成した紙芝居は，地域教材としてこのコーナーに収めた。また，数年後には町内の別な地域の開墾と発展について教材化し，児童向けの資料集を作成した。

このような教材や資料集を作成するにあたって富岡町図書館の郷土資料コーナーを大いに活用し，司書にレファレンスや県立図書館からの資料取り寄せなどで相談に乗っていただいた。資料集を作成したときは，とみおかアーカイブ・ミュージアムの学芸員にファクトチェックを依頼し，年号の訂正や記載についてのアドバイスをいただいた。

## 3．デジタルデータの収集と提供

最近では，学習のまとめをプレゼンテーションソフトで行ったり動画にしたりするなど，デジタルで行うことが多い。そのような学習を支えるには，地域資料のデジタルデータを整備する必要があると考え，教室のパソコンから容易にアクセスできる校内サーバーの共有フォルダ内にデジタルデータを収める場所を作ることにした。

共有フォルダに収集したのは，「生活科，３・４年社会科の資料・教材」「町の写真・地図・映像」「総合的な学習の発表」「教材パスファインダー」の４分野である。

「生活科，３・４年社会科の資料・教材」のフォルダには，単元ごとに使えそうなデータや教材をまとめた。例えば，「学校のまわり」という３年社会科単元の資料として，学校周辺の写真や町の地図データ，教員が作成した白地図やワークシート等の教材データを収めた。これらの資料は，撮影者や作成者の許可を得て収めた。生活科で使えそうな校内地図や学校周辺の自然マップや町の公園の資料は，私が作成した。

「町の写真・地図・映像」フォルダには，町の教育委員会から総合的な学習のために提供されたデータを整理して収めた。その中には，町の歴史を写真で振り返る展覧会を開いた時の写真データや，町内の地図，航空写真などの貴重なものも含まれている。これらは，出典を明らかにすれば学習に用いてよいと教育委員会から許可を得ている。

「総合的な学習の発表」フォルダには，児童による学習のまとめの発表データを収めた。後年，過去の学習の様子を知りたいと思った時にデータだけでは概要が掴みにくいと考え，データをプリントして，一目で分かるようにしたものをファイリングした。このファイルも地域資料の棚にも収めた。

## ４．パスファインダー・総合目次・各学年資料

地域資料があるのは，学校図書館やデータフォルダだけではない。例えば，校内資料室には地域の地図黒板があり，アーカイブ施設には実物展示やジオラマなどがある。そうした多様な資料があることを教員に紹介したいと考え，学校図書館・データフォルダ・校内資料室・インターネット・町立図書館・アーカイブ施設のどこにどんな町の地域資料があるのかを，単元ごとに網羅したパスファインダーを作成した。

また，共有フォルダは中にどんなデジタルデータの資料があるのかわかりづらいので，資料内容を可視化した総合目次を作成した。これも学校図書館に置き，来館すれば地域資料の場所がわかるようにした。

さらに利便性を高めるため，学年ごとに必要と思われる資料だけを集めた地域資料ファイルを作り，担任に配付した。

## ５．利活用の実際

このようにして構築してきた地域資料は，職員会議などの折に教職員へ紹介し，さまざまに利用されている。生活科の学校探検の際，１年担任は校内地図のデータを印刷して児童に配付したり，拡大印刷して学習のまとめに用いたりした。２年担任が生活科の町探検の訪問先を選ぶのに悩んでいたので，町内事業所の冊子を紹介したら喜ばれた。勤務校は他地域から異動してくる教員が多いため，地域資料が揃っているのは助かるという声が聞かれる。

地域資料の出版物やインターネット情報は大人向けに書かれたものが多く，小学生が資料を読み取るために配慮が必要なこともある。教師や学校司書があらかじめ資料を読み，児童が求める情報が載っているページに紙片を挟んでおくことで探す負担を軽減したり，学級全体で共有したい資料は，教師が説明しながら一斉に読み進めたりしたこともあった。

地域の学習に必要な資料を集めるのは手間がかかるが，実際に使える資料を毎年積み重ねていけば大きな財産になる。せっかく集めた資料が散逸しないよう，また，利用しやすいように，学校図書館を拠点として大切に保管し，活用していきたいと思う。

（おぐま　まなみ：富岡町立富岡小学校教諭・司書教諭）
［NDC 10：017　BSH：1. 学校図書館　2. 郷土資料］

特集★つなぎ手としての学校図書館－情報活用能力育成のアスペクト

# 学校図書館施設計画の留意点

## ――学校図書館の設計をめぐる対話をどうするか――

笠井　尚

### 1．学校建築における学校図書館

筆者は，教育学の立場から，教育・学習の活動を支える学校建築のあり方についての実践研究に取り組んでいる。教育委員会，設計者，教職員，児童生徒，地域住民らの対話を促し，活動の効果を高める学校空間のよりよいあり方を検討し，実現するよう働きかけている。計画や設計のプロセスにおいて，ユーザーの意見を聞く時間は足りないし，仕組みは存在していないし，聞く相手である当事者が不明であったり設計に活かす意見を持っていなかったりする。しかし，ユーザーの意見と関係なくつくられた公共建築は，使いにくかったり維持管理コストが非常に大きくなってしまったりする。計画や設計を機に，使い手であるユーザーも活動を見直し，空間を共同でつくることが求められる。

学校建築について意見を聞くとき，教員の関心が感じられる空間のひとつが学校図書館である。子どもの読書推進への期待とつながっているのであろう。子どもたちに学校内の好きな場所をたずねると，学校図書館は常に上位に挙げられる。学校建築の計画や設計において，学校図書館をどうつくるかということは一大テーマである。

### 2．子どもたちはどのように学校図書館を使っているか

学校図書館の設計に活かされる子どもの活動は，実際にどのようになされているのか。

「学校図書館は重要である」というイメージの割には，個人ごとの利用頻度はあまり高くないかもしれない。学校の生活時間のなかで，子どもたちが学校図書館を自由に利用できる時間は，２時間目終了後にある少し長い休み時間と授業後のわずかな時間に限られる。中学生は授業後に部活動がはじまるので，自由な利用時間はもっと少ないかもしれない。

授業時間に学校図書館を利用するためには，１クラス分の学習スペースが必要になる。あるクラスが授業時間に学校図書館を利用しようとしても，他のクラスと重複するかもしれない。学校図書館内に２クラス分の学習スペースを持つ例があるが，音の巻き込みなどを考えると同時利用もなかなか難しい。各クラスに週１時間の図書館利用が割り当てられる場合も多い。クラスは，これに合わせて授業の計画をずらしたり，読書活動を割り当ての時間に行ったりする。

子どもたちには，１人１台のタブレットPCが配布されるようになって，調べる活動は便利になった。同時に，図書館に行って書籍を調べる必要性が低下しているようだ。教員の図書館利用に対する熱心さには差が大きい。校長の運営方針によっても，学校図書館の使われ方は影響を受ける。旧来の学校図書館は学校の「センター」（中心）には無く，校舎の端のほうに位置していて子どもが利用しにくい。蔵書の多くが日焼けして，魅力が低下している場合もある。学校司書が常駐していなくて，利用の促進が十分にできない場合もある。

学校図書館の重要性には異論がないが，実際の利用を盛んにする条件は整っていない。子どもが棚から本を選ぶだけであれば，学校図書館＝「書庫」でよいという判断にもなりかねない。

### 3．学校司書からの意見聴取

学校図書館には学校司書が配置されるようになっている。しかし，その配置状況や専門性については濃淡がある。レベルの高い常勤の学校司書

が常駐している地域もあれば，非常勤の学校司書が複数校を掛け持ちで担当している地域もある。勤務条件によって学校司書が取り組める業務も変わるので，学校司書の専門性も多様になる。

学校図書館の計画や設計を進めるうえで，学校司書はユーザーとして，設計者やコーディネーターが空間利用に関する意見を聞く相手となり得るだろうか。

一般に，学校建築の計画や設計に活かすための意見聴取を学校関係者に行うことは容易ではない。新設学校は対象者としての教職員がまだはっきりしない。既存学校の改築でも，校長などの管理職から意見を聞くことがあるが，校舎が完成するころには当該教員は退職したり異動したりしてしまっている。校長が変わって学校の方針が大きく転換すると，聴取した意見に基づいた計画がねじれることもある。教職員が空間づくりに関心がない，意見聴取の時間が取れない，教職員間で意見が対立する，発言の内容が後ろ向きで生産性がないなどの状況も起こり得る。

筆者ら[1]が取り組んでいる学校改築では，当該自治体の学校司書会，つまり地域の学校司書全員を集めて意見聴取を行う努力をしている。集団的に知恵を出し合うことでよりよい設計に資するアイデアが生まれるし，新しくつくられる学校図書館のよさを学校司書が異動しても共有できるし，空間について考えるワークは学校司書の職務を見直すきっかけにもなる。

近年，公共図書館では，空間づくりに大きな転換が見られる。新しいデザインの施設が続々誕生しており，本を所蔵・貸し出す機能だけでなく本を通しての交流やまちのにぎわいを生み出す機能も果たし，多様な活動を生み出し，関連機能を連結して施設の複合化も進んでいる。新しい公共図書館の流れから刺激を受ければ，新しくつくられる学校図書館も，図書館での活動を促進，拡大，変化させていくことができる。学校司書が，他の地域の学校図書館や新しい公共図書館を見学したりその情報を仕入れたりして，改築される学校図書館の空間づくりにつながるような運営のアイデアを示すことができれば，当該学校図書館におけるこれまでの取り組みの成果をさらに先に進めることができる。

しかし，非常勤の学校司書にそこまでの仕事を要求することには，無理があるかもしれない。

## 4．学校図書館の学校司書的使いやすさ

学校図書館の計画や設計に対して，学校司書からはどのような意見が出されるであろうか。

学校司書から出される，学校図書館の機能的な使いやすさに関する意見は，尊重されるべきである。図書館の位置や出入りのつくりは，例えば書籍の運搬のしやすさを考慮してつくられる必要がある。図書館の仕事をしやすくするためには，ある程度の広さのバックヤードも備えるとよさそうである。カウンターの向きや大きさ，棚の深さ，電源やコーナーの配置場所には，専門職員だからこその意見があるだろう。蔵書数を確保するためには，書架は高くせざるを得ないが，子どもたちの使いやすさや安全性を考えると低書架が求められる。書架が低くなれば，面積が拡大する。書架の間隔は，車いすも想定すればかなりの広さが必要になるが，そこまで考慮することはなかなか難しい。

子どもたちが期待する学校図書館の設えと，学校司書が求めるそれとはときどき対立する。子どもたちは，光の入る明るい学校図書館を期待するが，明るさは本の日焼けに直結する。カーペット敷きの空間でごろごろしながら本を読みたい子どもがいるが，寝転がるというのが学校では支持されない。教員からも不評である。カーペット上に落ちた消しゴムの消しカスは掃除しにくい。衛生上の問題も生じやすく，傷みがくれば交換しなければならないというコストの問題もある。交流型の図書館ならおしゃべりすることもあり得るが，図書館は静かに本を読むところである，という感覚はまだ根強い。子どもたちは，大人の目からちょっと隠れ（て本を読み）たいが，図書館内には死角ができないようにしたい，という学校司書の強い希望がある。

学校図書館の重要性や書籍の充実のために，筆者らとしては少し広めの学校図書館を提案する傾向にあるが，大きな図書館は司書の業務量を増やすし，非常勤の司書では管理が難しくなることもあって，必ずしも歓迎されない。設計者が，吹き抜けやオープン方式の学校図書館を計画することがあるが，壁や扉の無い空間は，暑かったり寒かったり，冷暖房費が不当に高くなったり，音の巻き込み，児童生徒の通過が増えるといった問題を生む。デザイン性の高い施設設備が，機能的には不便を生む結果になっている例は多い。

## 5．学校図書館建設を契機とする新しい運営展開ー小中一貫，地域開放

筆者らの学校建設支援では，学校と地域の教育経営の新しい展開に資するような学校図書館の計画・設計にも取り組んでいる。建設を契機として運営改善を実行することで，よりよい施設整備ができる。

ある小中一貫校における学校図書館整備では，児童生徒が同時に利用し交流できる学校図書館を子どもの動線上に計画した。中学生が低学年児童向けの本を利用できる，小学生が少し難しい本に触れられる，児童生徒の交流が促進される，小中の学校司書が協力できるなどのメリットが考えられる。一方で，空間的な整備方法には検討の余地がある。小中の図書館を分けるのか，1か所にするのであれば書籍の配置や児童生徒の利用エリア・時間帯をどうするか，学習スペースの座席数や配置をどうするか，小学生向け／中学生向けの設えをどうするかなど，考えるべき課題は多い。

一般に，学校建築に対して教職員に意見聴取しようとすると，「それは開校後に考える」という対応になりがちであるが，計画段階で考えておいたほうがよさそうな点は多い。小中併設における意外に大きな障壁は，校時の不一致である。45分授業の小学校と，50分授業の中学校で児童生徒の動きがズレることで施設の共用は難しくなる。児童生徒の体格差は，準備する家具の大きさの判断を難しくする。

ある取り組みでは，スペースと書籍の有効利用を図るため，小学校図書館と公共図書館分館の統合を図った。学校の施設開放は地域連携の点から意味のあることであるが，不審者対策の意味もあって，学校としては時間中に外部と常時接触することは避けたい。先行事例においても，地域と学校の図書館スペースを分けたり，子どもの行き来を注視したり，利用時間帯を分けたりする対策を取っている。筆者らの取り組み例でも，現在のところ月～金は学校利用，土日が地域利用と棲み分けをして使用されている。

施設計画上は学校図書館を開放しやすい位置に置いて，教室棟との間で開放／非開放ラインを設定する。検討すべき点としては，学校と地域の書籍の混在をどう管理・整理するか，それぞれの書籍の貸し出し／利用の可否，職員の配置や職務範囲の確認，施設管理責任の棲み分けなどがある。

## 6．学校図書館の空間づくりの可能性

学校建築に関連するユーザーの意見を聞く機会はそれほど多くはない。結局「専門家」であるところの設計者や関連業者に任されることになりがちである。しかし，空間の構築は，活動の内容を再考する最良のきっかけでもある。どのような教育・学習活動を展開するかをユーザーの側で示し，これを最大限に展開できるような空間を設計者が考案し，教育委員会やアドバイザーが調整を図っていくことが期待される。

教職員の学校改築についての意見を聞くような方法を提案してそれが実現し，いざ意見を聞く段階になったら，校長先生から「あとはこちらでやりますから結構です」と言われて，コーディネーターの役割から追い出されかかったことがある。意見が合わなかったからかもしれない。

専門家で独占されると，他の関係者が関わる機会や，他の活動とつながっていく可能性が閉ざされるかもしれない。学校建設の機会は，運営を改善するチャンスである。学校図書館を物理的につくる過程を通して，教員に働きかけたり，児童生徒の活動を活性化させたり，教育委員会に働きかけて役所や公共図書館と連携したりする機会を得ることができる。当該学校図書館が完成したら終了なのではなく，そこを出発点として，また次のステップに進むことができる。

最近かかわった小中併設校の学校司書さんは，完成した雑誌コーナーのソファー空間で，生徒たちがごろごろしながら読んだり，楽しく集まっていたり，ソファーをテーブル代わりにして書き物をしていたりする自由な利用の姿を見て，これまでであれば眉をひそめてしまうような生徒の姿勢だが，悪くない様子だと思えるように自分たちも変化した，と教えてくれた。子どもたちの学校図書館の利用は，空間のつくりと運用が連動して促されていくのではないかと思う。

注

1）学校図書館などをつくる学校建築研究を，建築計画学の堀部篤樹と共同で行っている。学校図書館づくりについては，笠井尚「学校の活動を豊かにする学校図書館の環境整備」（『日本学習社会学会年報』18号，2022年）等を参照されたい。本研究はJSPS科研費JP23K02148の助成を受けた。

（かさい　ひさし：名城大学人間学部）

［NDC10：017　BSH：1.学校図書館　2.図書館建築］

特集★つなぎ手としての学校図書館ー情報活用能力育成のアスペクト

# ひとが集まる学校図書館のつくりかた

## ——本を読むだけの場所ではもったいないやん！ 児童生徒が集い活気にあふれる学校図書館を学校の‘ど真ん中’に！——

野村太郎

### はじめに

三重県学校図書館協議会司書部（以下，司書部）の「学校図書館白書2022年度版」によると，三重県の高校生一人あたりの年間貸出冊数は，2022（令和4）年度実績で3.1冊と寂しい状況となっており，新型コロナウイルス感染症が流行する前の2018（平成30）年度と比べると1.3冊減少している。

新型コロナウイルス感染症が感染拡大した2020（令和2）年度は，学校の休校に伴う学校図書館利用の制限によって急激に貸出冊数が減少し，制限が緩和された2021（令和3）年度以降も回復していない現状がある。

この結果から，総じて学校図書館が十分に利用されておらず，高校生の読書離れが懸念される。

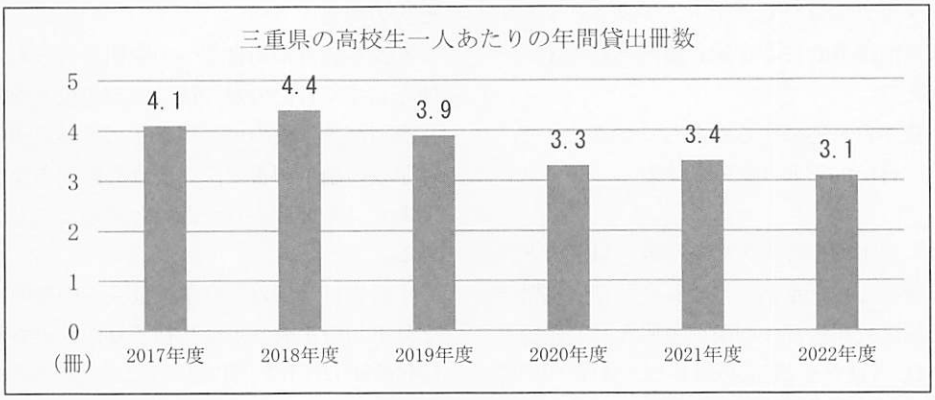
### 訪れたチャンス

これまで学校図書館で使える予算といえば，書籍購入や小規模な設備更新の費用ぐらいで，学校図書館の活性化にフォーカスしたものはなく，各校の学校司書が費用をかけずに頑張ってきた取り組み以外は，誤解を恐れずに言えば「放置」されてきたといっても過言ではない。

そのような中，三重県知事と教育長による意見交換の場で，知事から「子どもの自己肯定感とともに読書活動は大切である」とのコメントがあった。

このコメントは，読書活動推進への追い風，訪れたチャンスである。このチャンスを逃すことがないよう，学校図書館を活性化することで県立学校の児童生徒の読書活動を推進する取り組みを，注力する取り組み（重点事業）として，2023（令和5）年度の当初予算獲得に向けエントリーすることとした。

そして，具体的な内容が何も決まっていない事




典拠：「学校図書館白書2022年度版」（三重県学校図書館協議会司書部）

業を構築する担当として，指名されたのが学校教育分野ではなく社会教育分野を担当する私であった。

### 知らなさすぎる現場の状況

社会教育を担当する私が，学校教育の分野である学校図書館を舞台とする事業を構築するのには，いろいろな事情があったのだが，ここではオミットする。

そもそも現場の状況を全く把握しておらず，恥ずかしながら何一つ語ることができない状態であったため，当時の上村副教育長からの紹介で三重県立津高等学校の井戸本司書を頼るとともに，いくつかの学校図書館を訪問し学校司書と対話することで，まずは現場を知るところから始めた。

### 事業の構築

現場を見て，話を聞くことで，学校図書館に関する現状と課題は，学校種別や地域などによってさまざまであり，すべての学校が一律に実施するような事業は望んでおらず，効果的ではないことが分かった。

そのことをふまえ，実際に事業を構築するにあたり，上村副教育長を筆頭に，学校教育担当者と井戸本司書を交え検討した結果，以下の基本的な考え方を決定した。

- 学校司書が中心となり，児童生徒や保護者，地域の方が連携する
- トップダウンではなく，ボトムアップとする
- 学校図書館は静かに本を読む場所というイメージを変える
- モデル校が自ら応募するかたちにすることで，自主的・自発的な取り組みとする

その後，基本的な考え方に基づき，以下のとおり事業を構築し，三重県立学校長会及び三重県学校図書館協議会司書部への事前説明を経て確定とした。なお，(1)から(3)は必須とし，(4)については必要に応じ実施できるようにした。

**(1) 学校図書館リニューアルチームによる計画策定**

学校長のマネジメントのもと，学校司書が中心となり，児童生徒やPTA，学校評議会，OB会等の代表者による「学校図書館リニューアルチーム」を結成し，各学校に応じたリニューアル計画（ハード面とソフト面）をボトムアップで策定する。

**(2) 学校図書館のリニューアル**

探究型の授業ができるよう，可動式の机や椅子，ホワイトボードやプロジェクターを用意したり，思い思いのスタイル（リラックス型・集中型）で読書ができるスペースをつくったりするなど，リニューアル計画（ハード面）に基づき効果的なリニューアルを行う。

**(3) 学校図書館イベントの開催**

リニューアルされた居心地の良いスペースを活用し，リニューアル計画（ソフト面）に基づき「図書館カフェ」「車座トーク」などのイベントを実施することで，児童生徒や教職員が来館するきっかけづくりや，リピーターの定着を図る。

**(4) 図書館サポーターによる図書館運営協力**

保護者や地域住民による「図書館サポーター」に図書館運営に協力していただくことで，例えば学校図書館イベントをより充実したり，開館時間を19時ごろまで延長したりして，個々の児童生徒がニーズに応じて図書館を活用できるようにするなど，利用機会の拡充を図る。

### 七人の司書

2022年12月に司書部への説明を行った際に，質問をしてくれたのが，後にモデル校となる三重県立鳥羽高等学校の山下司書と三重県立伊賀白鳳高等学校の瀧本司書で，いずれも前向きな質問内容であり，とてもありがたいと感じたことを覚えている。

１月には，三重県立学校長会への説明を行い，２月下旬の平成５年度当初予算が公表されると同時に約500万円の予算を獲得できたことと，今後のスケジュールについて司書部に報告した。

モデル校の募集は，３月上旬と新体制となる４月上旬の２回実施し，応募があった７校について，県教育委員会内の審査会で審査した結果，７校すべてをモデル校として採択することとした。

三重県立いなべ総合学園高等学校の日紫喜梨香司書，三重県立津高等学校の井戸本吉紀司書，三重県立久居農林高等学校の榎本晃子司書，三重県立伊勢工業高等学校の浅生太香司書，三重県立鳥羽高等学校の山下知里司書，三重県立伊賀白鳳高等学校の瀧本志津代司書，三重県立木本高等学校の浅見智海司書，この七人の司書が，自らの思いで名乗りを上げてくれたことに，心の底から感謝している。

## 七つの取り組み事例

### (1) 三重県立いなべ総合学園高等学校（日紫喜梨香司書）

生徒，教職員，保護者，地域の方のすべてのアンケート回答に共通して座席等スペース拡充の希望があったため，間仕切りカーテンを設置するなど，長期間使用していない２階の活用にむけてリニューアルを実施した。

リニューアル後には，「いなてつ（いな総で哲学対話）」を実施。「いなてつ」とは，集まった人がテーマ（問い）について，あーだこーだ話したり，聞いて，考えたりするイベントで，１回目は「推し」ってどういう存在？（学内のみ），２回目は「ヤバい」ってどういうこと？（家庭・地域の方も参加）をテーマに考えを深めた。

▲「いなてつ」のようす

### (2) 三重県立津高等学校（井戸本吉紀司書）

三重県立津高等学校の「探究」推進部と連携し，Webページ上に「津高生の推し本」データベースを構築した。

「探究」推進部からの提案で，夏休みの課題「BookReview」（ノンフィクションを読んでレビューを提出する）を紙での提出からGoogleフォームによる提出に変更した。

また，コメントに「いいね」をつけられたらコメントした生徒のやる気にもつながるのではないかという提案をもらい，機能を追加した。図書館の仕組みを探究活動で活用する一つの例になったと考えている。

▲「津高生の推し本」データベース

### (3) 三重県立久居農林高等学校（榎本晃子司書）

住環境を学ぶ生徒のアイデアをもとにして，リラクゼーションスペースと１人席のスペースのリ

▲居心地がよいリラクゼーションスペース

ニューアルを実施した。

図書館カフェでは食生活を学ぶ生徒が作った焼菓子を提供し，ボードゲームスペースを運営するNPO法人と連携した。

図書館リニューアル後，生徒アンケートで「居心地がよくなった」と回答した割合は54%であった。その一方，「図書館には行かない（興味がない）」と回答した割合は19%であったため，今後も来館する機会づくりが必要である。

### (4) 三重県立伊勢工業高等学校（浅生太香司書）

生徒による「図書館改造計画案」をもとにして，ものづくりを通じて地域に貢献する「高校生工務店」の活動拠点でもあるコミュニケーションスペースづくりを行なった。

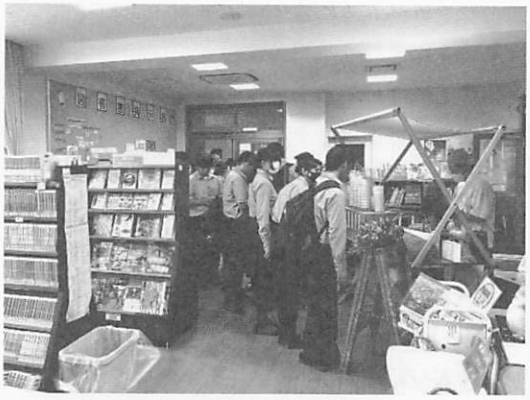
ゾーン分けの手法の一つとして制作の始まった「アイデアタワー（マグネットやテープ類不要の掲示板）」は，最終的に今回のリニューアルのシンボルになるという大きな成果を生み，スペースづくり全般にわたり工業高校らしさを活かした取り組みができた。

▲シンボルとなる「アイデアタワー」

### (5) 三重県立鳥羽高等学校（山下知里司書）

地域人材（理学療法士，大学生，他校司書）や地域機関（商工会議所，店舗，公共図書館）と連携し，地元鳥羽市とつながりの深い作家・江戸川乱歩の作家デビュー100周年にちなみ，江戸川乱歩をテーマにした図書館イベント「乱歩カフェ」などを企画・実施した。

図書館イベントをすることで図書館に行きやすくなったと回答した生徒の割合53%と，イベントを積極的に行うことで，生徒の図書館満足度や利用のしやすさにつながった。

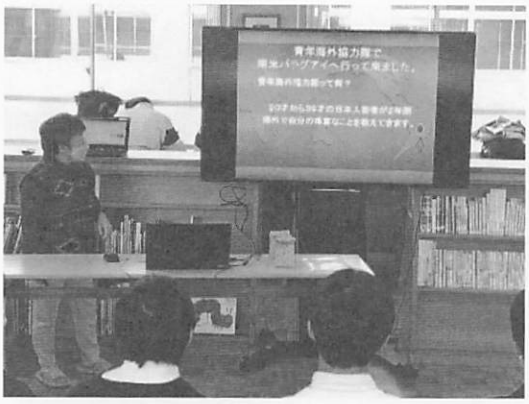


▲「乱歩カフェ」のようす

### (6) 三重県立伊賀白鳳高等学校（瀧本志津代司書）

NPO法人伊賀の伝丸と連携し，当初外国にルーツを持つ生徒が地域とつながることを目的にしていたが，結果的には日本語に不安のある生徒が，教科の授業や実習で困難な現状をふまえ，担任とともに日本語の補習を行う場として試行錯誤することとなった。

生徒の困り感に寄り添いつつも，参加者を集める難しさが課題となっている一方，生徒や教員にとっても図書館にとってもプラスになる連携を考えるいい機会となった。



▲「伊賀の伝丸の日」のようす

### (7) 三重県立木本高等学校（浅見智海司書）

開館時間を19時まで延長する「延長日」を設け学校図書館サポーターを配置することで，定時制生徒の利用時間を確保するとともに全日制生徒の利用拡大を促進した。1日平均の来館者数は目標数20人を超えた34人にまで増加している。

また，館内のレイアウトを変更し，授業・イベントなど幅広い利用ができる環境を整えた。リニューアル後の図書館では新たに三つのイベントを開催し，ボードゲームイベントでは本の新しい楽しみ方を発見することができた。

▲ボードゲーム体験のようす

### 県立学校図書館活性化指針の策定

七つの取り組み事例や活性化の方向性を取りまとめ，学校図書館をベースとした読書推進の取り組みをマニュアル化した「ひとが集まる学校図書館のつくりかた～県立学校図書館活性化指針～」を，司書部が中心となってボトムアップで策定し，すべての県立学校に配付するとともに，リニューアル等に取り組んでもらうよう働きかけた。

○県立学校図書館活性化指針：https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001140664.pdf

### 取り組みの成果

各モデル校からは，「学校図書館を知る機会となり，来館する生徒が増えた」「地域の団体やPTAなどと連携することで，書籍の貸し借りだけでなく，新たな取り組みが生まれた」などの成果が報告された。

また，モデル校の全体として，その年度に1回以上本を借りた児童生徒の割合を表す「貸出利用者率」は，2022年度の39.0%から2025年度は43.4%へと改善した。

さらに，積極的にプレスリリースを行い多数のメディアに33回取り上げられたことで，今回の取り組みが広く県民に認知され，保護者や地域の方からモデル校に称賛の声が届くなど，大きなパブリシティ効果があった。

### 今後の展開

今後は，策定した「ひとが集まる学校図書館のつくりかた～県立学校図書館活性化指針～」をもとに，児童生徒が誇れる素敵な学校図書館が県内に広がるよう，予算の有無にかかわらず継続して取り組むとともに，小中学校においても学校図書館リニューアルの取り組みが広がるよう働きかける。

また，企業や書店などを巻き込んで読書活動のムーブメントを起こす県民運動を展開する。

本を読むだけの場所ではもったいないやん！
児童生徒が集い活気にあふれる学校図書館を学校の‘ど真ん中’に！

（のむら　たろう：三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課）

［NDC 10：017　BSH：学校図書館－三重県］

★ ★

# 霞が関だより

▶第253回 ◉文部科学省

## 令和５年度「読書バリアフリーコンソーシアム」委託事業の取り組み事例について

文部科学省では，組織の枠を超えた関係者間の連携体制を構築し，読書バリアフリー基本計画に基づく施策を効率的かつ効果的に推進するため，地域等において，公立図書館，学校図書館，大学図書館，点字図書館等のさまざまな図書館や関係行政組織・団体等が連携した「読書バリアフリーコンソーシアム」を設置し，物的・人的資源の共有をはじめとしたさまざまな読書バリアフリーの取り組みを行う委託事業を実施しています。

今回は，障害者等の読書とテクノロジーに焦点を当て，読書バリアフリー推進の取り組みを行っている，筑波技術大学読書バリアフリーコンソーシアムテクノロジーハブ様にご執筆いただきました。

## 読みづらさをかかえる方へ ― 本にはいろんなアプローチがあります

筑波技術大学読書バリアフリーコンソーシアムテクノロジーハブ

### 1．テクノロジーハブとは

筑波技術大学では，令和５～６年度読書バリアフリーコンソーシアム事業を受託し，読書バリアフリーコンソーシアムテクノロジーハブ（以後，テクノロジーハブ）としての取り組みを行っています。

テクノロジーハブでは，読書のためのICTスキル習得支援に関する情報集約を行い，デジタルデバイド解消及びその先にある読書バリアフリーの達成へ向けた活動に取り組んでおります。テクノロジーが読みづらさを経験する皆様にとっての道具となるために必要なテクノロジーに関するアセスメント，フィッティング及び利用支援のハブ，つまり情報拠点となることを目指しています。

今回はこの場をお借りして，まず，ウェブサイトで発信している内容の概略についてご紹介いたします。続けて，図書館総合展での取り組みをご紹介します。

### 2．ウェブサイトでの発信

筑波技術大学読書バリアフリーコンソーシアムテクノロジーハブのウェブサイト（https://www.i.tsukuba-tech.ac.jp/techhub/）

本や新聞，雑誌，ネットの記事等を読む方法はたくさんあります。テクノロジーハブのウェブサイトでは，さまざまな読みづらさをかかえる方を対象に，いろいろな読書方法を提案し，その際に参考となる情報を集めておりますので，ぜひご覧ください。

#### 2.1 テクノロジーを活用して読む

**いろいろな読書方法**

もし，皆様の図書館の利用者で，視力や筋力の低下，ディスレクシア等により読書に困難を感じている方がおられましたら，いろいろな読書方法があることをお知らせください。

こちらのページには，拡大して読む，音で聞いて読む，点字で読む，電子化して読むといった，いろいろな読書方法を試すために必要な情報を載せています。

**困難別による傾向**

前述したような読書方法は，読みづらさに応じて選ぶことが考えられます。ここでは，目で読むことがつらい方，ディスレクシアの方，本を持つことやページをめくることがつらい方に対する情報提供を行っています。

**読書の目的もいろいろ**

一口に読書といっても，その実態は多様です。日常生活に関する情報を得るための読書，学校での成績や職場での評価に関わる読書，趣味としての読書と，同じ人で

も時と場合によって読み方が異なります。目的に合わせて読書方法や環境を整えることが重要です。

### 2.2 アクセシブルな本や機器の入手方法を知る

**アクセシブルな本を探す際に利用できるリソースの紹介**

ICTを使用して読書をする場合，そのテクノロジーに対応したフォーマットの書籍が必要になります。ここでは，そういったアクセシブルな書籍―主に障害者サービス用資料―を検索し，入手することができるリソースを紹介しています。障害者サービス用資料は，みなサーチやサピエ図書館等のリポジトリで検索し，図書館間相互貸借システムや，国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスを活用して相互利用することができます。図書館員の方は，ぜひご覧ください。

**電子書籍**

新刊の本が障害者サービス用資料に含まれることは，ほとんどありません。しかし，「リフロー型」と呼ばれるフォーマットで製作され，「電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン1.0」[1]に対応したビューアを用いる電子書籍ならば，発売時点から，行間や文字サイズを調整したり，音で聞いたりして読むことができる書籍になっています。

**読書の際に利用できるICTの紹介**

テクノロジーハブのページでは，目で読むことがつらい方，ディスレクシアの方，ページをめくることがつらい方，その他の方と項目を分けて，ICTを使用した読書について解説するサイトの情報を掲載しています。わかりやすい動画等で，詳しい方法を知ることができます。

加えて，今年度は読書の際に使用する機器に注目した取り組みを行っています。詳しくは，「3．図書館総合展への出展」でご紹介します。

### 2.3 相談する

**相談する**

ICTを活用した読書には，デバイス，アプリ，コンテンツに加え，その人のおかれている環境等，さまざまな要素が関わっています。こちらのページには，各要素に関する相談先情報が掲載されています。総合的に相談対応することができるのは，地域の点字図書館です。障害者ICTサポートセンターや，障害者リハビリテーションセンターも力になってくれるでしょう。

なお，読みづらさをかかえる方の多くは，窓口をたらい回しにされることが多いです。孤立無援になっていないかをご確認いただき，困っているようでしたら，こちらのページに掲載されている相談窓口を確認し，ご紹介ください。

### 2.4 テクノロジー×読書を支援しているみなさまへ

**支援者の方へ**

ICTを活用した読書については，まだまだ情報が不足しています。こちらのページでは，図書館員の方にとって参考になるであろうテクノロジー×読書に関する情報を列挙しております。まだまだ情報が不足していると思いますが，今後も皆様のバックアップとなる情報提供を進めていきたいと考えています。

## 3．図書館総合展への出展

以上に報告したウェブサイトでの情報発信に加え，令和6年度は，読書の際に使用する機器の貸与に関する実態を明らかにし，読みづらさを抱える方が気軽に機器を手に取り，多様な読書方法にチャレンジすることができる環境に向けた情報の整理を行っています。

その取り組みの一つが，2024年11月5～7日に開催された図書館総合展です。ここでは，障害者の読書を支援する組織が，館外貸出のために揃えておくとよい機器に関する情報提供を行いました。

具体的には，簡単操作機器セット，操作の説明や補助がいるが便利な機器セット，学校図書館向け機器セットのご提案をいたしました。操作方法，貸出方法，貸出時契約文書，メンテナンス等について情報提供しております。期間中はテクノロジーハブ関係者協議会の委員も来場し，機器に関する相談にも対応しました。

図書館総合展における出展内容は，テクノロジーハブのウェブサイトにも掲載する予定です。2025年1月中には公表いたしますので，ぜひご覧ください。

## 4．おわりに

ICTを活用した読書には，デバイス，アプリ，コンテンツに加え，その人のおかれている環境等，さまざまな要素が関わっています。しかし，コンテンツについては著作権法第37条が障害者手帳所有者以外にも対応する一方，読書支援機器の購入補助は手帳所有者に限定されることが多い等，制度の間で悩むことも多いと思います。

そんな時は一人で悩まず，地域の点字図書館や障害者ICTサポートセンター，障害者リハビリテーションセンター，そしてテクノロジーハブと連携しましょう。そして，いろいろな形の読書を広げていきましょう。テクノロジーハブは，図書館の皆様の活動を応援しています！

**文献**

1）国立国会図書館 2023「電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン1.0」 https://www.ndl.go.jp/jp/support/guideline.html

〔NDC10：015.97 BSH：1.障害者サービス 2.読書〕

# ブリスベンで開催された「IFLA情報未来サミット」

長塚　隆

## 1．開催の経緯

国際図書館連盟（IFLA）は，2023年６月にアラブ首長国連邦（UAE）の首都ドバイで2024年のIFLA年次大会を開催すると発表した[1]。その後，多くの議論の結果，2023年10月になってからドバイでの2024年IFLA年次大会の開催の中止が発表された[2]。そのため，2024年はIFLA年次大会の開催そのものがなくなることになった。

その後，IFLA理事会を中心にさまざまな検討が行われ，2024年９月30日－10月２日までの会期で，図書館員と図書館に関係する専門家が集まる新たな形式の国際的なイベント「IFLA情報未来サミット（以下本サミット）」の開催が決定された[3]。

短い準備期間ではあったが本サミットは，オーストラリアのブリスベンで９月30日から世界70か国から770名が参加して開催され，筆者も参加した[4]。

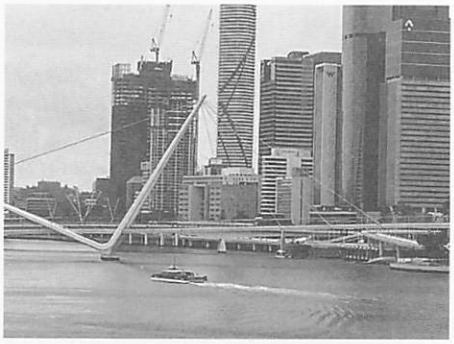


写真１．サミット会場から見たブリスベンの中心街

ブリスベンはオーストラリアのクイーンズランド州の州都であり，シドニー，メルボルンに次ぐ人口200万を超えるオーストラリア第三の都市で，IFLA会長ビッキー・マクドナルドが館長を務めるクイーンズランド州立図書館の所在地でもある（写真１）。

## 2．プログラムの特徴

例年，2,000名から4,000名以上が参加して開催される年次大会に比べると，一回り小さな規模であった。しかし，70か国から770名の参加があり，本サミットの開催中，相互に活発な議論が交わされた。

例年の年次大会と比較して異なる点は，次のように整理できるであろう。

①例年の年次大会で大きな比重を占めている図書館員や研究者によるポスターセッションが準備期間の関係で実施されなかった。

②例年の年次大会では40を越える分野別専門委員会（セクション）が企画するオープンセッション（口頭発表）が大会の中心であったが，準備期間の関係で実施されなかった。

③ポスターセッションやオープンセッションの代わりに，本サミットでは個人の発表として「イグナイトトーク」が新設された[5]。

イグナイトトークは，ポスターセッションやオープンセッションの代わりに，世界中の図書館員や研究者による７分間という短時間での多様な発表からアイデアや経験を共有できるようにとの意図で企画された。

３日間のサミットで19か国からの発表者による40以上の発表が行われた。これらの発表のトピッ

写真２．イグナイトトークでの発表の様子

クは，図書館でのAIや生成AIの活用，情報弱者への対応，すべての人のデジタル情報へのアクセスを可能にするデジタル・インクルージョン，先住民に関する課題，オープンアクセス，未来の図書館での業務内容など，サミットのテーマと一致する発表が多く見られた[6]。

## 3．開会にあたって

開会にあたって，歌手のバリンガ・バラムバ・ミーアンジンさんから歓迎の歌と伝統的な歓迎挨拶があった。その後，IFLA会長ビッキー・マクドナルドから2024年の年次大会が中止せざるを得ない状況の中で，急遽開催が決まった本サミットに多くの国から参加があったことに感謝の言葉が述べられ，現在のAIや生成AIの急速な発展の中で国際的な図書館員の交流の場が大切であることが強調された[7]。

また，シャロン・メミス事務局長は社会の持続可能性，リーダーシップ，パートナーシップなどの視点から図書館の役割や業務を見直していくことの大切さを強調し，それらを達成するためのヒントやアイデアを紹介した[7]。

写真3．サミットの開会式で挨拶するIFLA会長

## 4．生成AIと図書館に関連する発表

本サミットではAIや生成AIと図書館に関連する複数の基調講演やパネルセッションが企画されたことからも，現在の世界と図書館界での生成AIへの関心の高さがよく分かる。

実際のプログラムは，①基調講演「AIとデジタル・ミニオンズの台頭」，②パネルセッション「AIとわたし」，③EBSCOシンポジウム「データグラフ，生成AIと書誌記述」，④基調講演「ソーシャルメディアから生成AIへ：いかにしたら社会を一定の範囲内に留めることが出来るか」の4種類で構成されていた。

この他に，個人発表「イグナイトトーク」40件のうち，7件がAIや生成AIの関連発表で，現時点における図書館員や研究者の関心の高さがうかがえる[6]。

1日目のマレク・コワルキェヴィッチ教授による基調講演では「AIとデジタル・ミニオンズの台頭」のタイトルで，現代におけるAIがもたらす課題についてユニークな視点からの指摘があった[7]。AIという強力ではあるが，不完全な存在を3Dコンピュータアニメーションの主人公「ミニオン」にたとえて考察され，非人間のエージェントが経済と社会を変化させている現代で，AIといかにバランスのとれた関係を育めるかが大切であることを強調された（写真4）。

パネルセッション「AIとわたし」では，それぞれパネラーがAIや生成AIの普及の中で，どのように対応しているかが紹介された。筆者も日本での生成AIの活用の状況について紹介した（写真5）。

写真4．基調講演「AIとデジタル・ミニオンズの台頭」

写真5．それぞれが直面するAIに関するパネル

## 5．IFLA トレンドレポート

IFLA では，世界の図書館が将来の方向を検討するための資料として「トレンドレポート」を公表してきた。最初のトレンドレポートは2013年に発表され，改訂を繰り返して活用されてきた。しかし，この10年間の図書館を巡る社会の変化は非常に大きいことから，2023年に全面改定を目指して準備が開始された。

本サミット１日目の９月30日に，トレンドレポート2024の最新版が発表された[8]。今回のトレンドレポートは，単に情報を提供するだけでなく，図書館での実践に活用できるものとして作成され，世界の各地で参考になる多くの実践例が紹介されている[9]。

本サミットでは，１日目にトレンドレポート作成プロセスと概要を紹介した「トレンドレポート2024の発表」とトレンドレポート2024のトピックを踏まえた「オープンパネル：トレンドレポート2024」の２セッションが開催された。

特に，強調されたのは，内容を自分の図書館で活用するためのセットがあり個人，グループ，図書館協会がトレンドやシナリオを図書館で活用するためのアイデアが掲載されている点である。

本サミットの２，３日目に個人，グループ，図書館協会などのレベル別を意識した「トレンドから実践へ：相互の協働」，「トレンドから実践へ：パートナーとの協働」，「トレンドから実践へ：社会との協働」の三つのセッションが開催された。

写真６．トレンドレポート2024のパネルセッション

## 6．IFLA 戦略2024-2029

本サミット２日目の10月１日に，今後５年間の行動計画である「IFLA 戦略2024-2029」が発表された[10]。この５年間は，2027年のIFLA 創立100周年と国連の「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」[11]の終了までを見据えた期間となっている。

この戦略は，世界中の図書館から提供された意見と一連の調査やワークショップの成果に基づいて作成され，「知識と情報を通じてすべての人々に持続可能な未来を」の新たなビジョンでまとめられており，図書館員や図書館協会が採用しやすいものになっている[12]。

## 7．展示場と交流会

本サミットでは，受付から講演会場に行く途中に企業や図書館協会などが出展する展示場が設置され参加者で賑わった。１日目の会議終了後には，展示場とその周辺を会場に交流会が開催され，多くの参加者で話が尽きないようであった。

## 8．ブリスベン宣言を発表

2024年10月２日の会議最終日に本サミットでの議論をまとめた「ブリスベン宣言（以下本宣言）」－情報へのアクセスは強く，包括的で持続可能な社会のための不可欠な要件である－を発表した[13]。

今年は，2014年８月にフランスのリヨンで開催された年次大会最終日に発表された「情報へのアクセスと発展のためのリヨン宣言」[14]から10年目にあたる。そのため，本宣言ではこの10年間における知識と情報環境の大きな変化を反映した大幅な見直しを行っている。

本宣言では社会に有益な未来をどのように創造するかについて，技術変化，社会正義，障壁のないアクセスに注目して分析し，記述している。本宣言では，トレンドレポート2024，国連の未来への誓約[15]，ブリスベンでの基調講演や議論セッション，世界の図書館員，情報専門家や関係者の寄与など10項目に焦点を絞っている。以下に簡潔に紹介したが，詳しくは原資料を参照いただきたい。

①リヨン宣言を再確認し，知識と情報にアクセスし，理解し，使用し，創造し，共有する能力をすべての人々に確保することへの取り組みを求める。

②公正で，環境に優しく，健康的で，公平な社会をめざす「国連の未来への誓約」を歓迎し，これを可能にする図書館の役割を強く支持する。

③公正なオープンサイエンス，専門知識と革新の拠所として，学際的および国際的協力を促進する。

④技術の発展が，情報と知識にアクセスし，創造し，関与する機会をより提供すると認識している。
⑤すべての人の情報と知識へのアクセスを可能とするには，確信と技術が重要である。
⑥SDGsのための国連2030宣言の「誰一人取り残さない」に賛同し，知識と情報環境に適合できるようにする。
⑦気候変動における役割を認識し，環境情報へのアクセスを促進する。
⑧知識と情報にアクセスし，利用や創造を可能とする社会への図書館の可能性を認識する。
⑨図書館の役割を強調し，政府に図書館を主要なパートナーと認識し，専門職の仕事をサポートするよう要請する。
⑩持続可能な開発と人権の実現と情報へのアクセスを促進する環境の元で，図書館への支援が実施されることを求める。

写真7．IFLA会長と事務局長

## 9．カザフスタンでの2025年年次大会

来年（2025年）8月18－22日にカザフスタンの首都アスタナで開催予定の年次大会について，本サミット3日目の閉会式で，カザフスタンからの代表者と参加者が登壇し紹介された。カザフスタンの紹介ビデオが上映され，代表者からは来年の夏のIFLA年次大会に世界の多くの国からの参加者を迎え入れられるように準備に励んでいるところであり，ぜひ，多くの方に参加していただきたいとの挨拶があり，サミットの参加者から大きな拍手が巻き起こった。

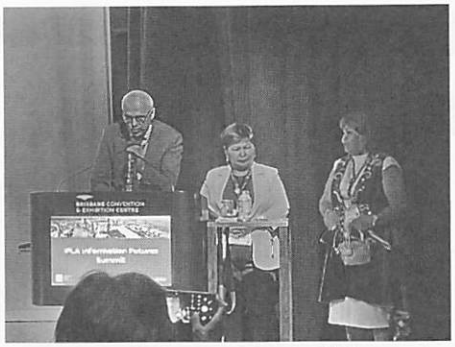


写真8．2025年年次大会開催国からの挨拶

参考資料


1）IFLA2024年年次大会をドバイで開催（Dubai to host IFLA WLIC 2024 19 June 2023）．https://www.ifla.org/news/dubai-2024/
2）ドバイでのIFLA2024年年次大会の開催を中止（Invitation to host IFLA WLIC 2024 in Dubai withdrawn 03 October 2023）．https://www.ifla.org/news/wlic-2024-withdrawn/
3）IFLA情報未来サミットの開催を発表（IFLA Information Futures Summit: Save the Date! 29 January 2024）https://www.ifla.org/news/iifs-2024/
4）IFLA情報未来サミット（IFLA Information Futures Summit）．https://2024.ifla.org/
5）IFLA情報未来サミットプログラム．https://2024.ifla.org/programme/
6）イグナイトトーク．https://2024.ifla.org/ignite-talks/
7）IFLA情報未来サミット：1日目．（YouTube） https://www.youtube.com/watch?v=l4ifoqXibbQ&t=1656s
8）IFLAトレンドレポート．https://www.ifla.org/trend-report/
9）IFLAトレンドレポート2024：確信を持って情報の未来に向き合おう（IFLA Trend Report 2024：Facing the future of information with confidence）https://repository.ifla.org/handle/20.500.14598/3496
10）IFLA戦略2024-2029（IFLA Strategy 2024-2029） https://www.ifla.org/units/strategy/
11）我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ（Transforming our world：the 2030 Agenda for Sustainable Development） https://sdgs.un.org/2030agenda
12）IFLA戦略2024-2029本文PDF版（IFLA Strategy 2024-2029 PDF version） https://repository.ifla.org/handle/20.500.14598/3497）
13）ブリスベン宣言（The Brisbane Declaration） https://repository.ifla.org/server/api/core/bitstreams/c809995e-84fe-4be4-836c-01aca3030cab/content
14）情報へのアクセスと発展のためのリヨン宣言（Lyon Declaration on Access to Information and Development） https://www.lyondeclaration.org/
15）未来のための協定：世界のリーダーが平和と持続可能な発展に向けた行動を誓う（Pact for the Future: World leaders pledge action for peace, sustainable development） https://news.un.org/en/story/2024/09/1154671


（以上のURLはすべて2024年10月28日参照）

（ながつか　たかし：鶴見大学名誉教授）

［NDC10：010.6　BSH：国際図書館連盟］

学校図書館建築見学報告①

# 北茨城市立磯原中学校、牛久市立ひたち野うしく中学校

佐藤千春・中村　崇・長谷川優子

日本図書館協会学校図書館部会では，JLA Booklet（以下「ブックレット」）として，『学校図書館施設設備基準　第２版』（2019年制定，2022年改訂，以下「施設設備基準」）の出版を予定しています。出版にあたり，この基準に合致する学校図書館の見学を担当幹事で行うこととし，日本図書館協会図書館施設委員会の中井孝幸愛知工業大学教授のご協力のもと，雑誌『近代建築』掲載校などから候補をピックアップして訪問・見学を行いました。

近年，学校の中心に探究学習の拠点として多機能に整備される学校図書館の事例が増えています。訪問した学校図書館も学校の中心に位置し，児童生徒の活用が企図されているのが印象的でした。ブックレットでは紙幅の都合により一部の学校のごく簡単な紹介に留めざるを得ないため，訪問した各校の建築上の特色や活用状況の詳細を，本誌にてご報告いたします。

## １．北茨城市立磯原中学校

### 1.1　学校概要

所在地：茨城県北茨城市磯原町豊田979-1

生徒数・学級数（2023年５月１日現在）：369名，通常級11・特別支援級３

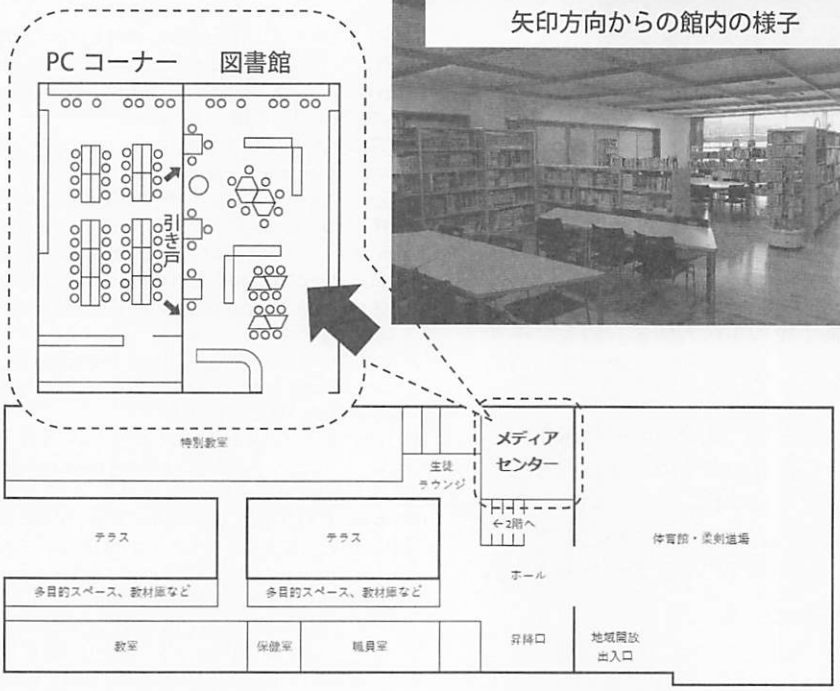
旧磯原中学校と華川中学校の統合のため新築され，2021年９月に利用が開始された校舎で，雑誌『近代建築』2022年７月号で紹介された。2022年度グッドデザイン賞を受賞するなど，設計思想やデザインが高く評価され，体育館の配置等，地域開放にも配慮された設計となっている。

校舎は２階建てで，校舎内は天井，床，教室のドア枠，生徒用ロッカーなども木製で統一され，温もりのある雰囲気である。

### 1.2　学校図書館見学

・位置：生徒昇降口正面

・形状：吹抜なし・壁ドア有，長方形，施錠可能



・司書室・閉架スペース：PCコーナー準備室（図書館側出入口なし）を使用
・書架：スチール（側板は木製），背板なし（棚に背当てあり），棚可動式
・閲覧机：木製天板，キャスター付きスチール脚
・椅子：スチールフレーム，背と座面は樹脂製
・座席数：図書室35席，PCコーナー47席
・蔵書数：約10,000冊

2023年８月17日に中井教授と幹事３名が訪問し，岡本教頭と島崎司書がご対応くださった。お二方とも2021年度の着任で，校舎竣工後の移転作業から関わられている。

図書館は１階の生徒教職員昇降口の正面に位置し，校舎の中心部，生徒の動線上にある理想的な配置である。昇降口ホールには美しい木組みが印象的な吹き抜けと，２階の教室に向かう大階段がある。

図書館入口に向かって左手西側には，隣接して１クラス着席可能なPCコーナーがあり，間を隔てる引き戸を開放すると２室一体として使用可能な「メディアセンター」として構想されている。面積は，図書館とPCコーナーがそれぞれ１教室程度である。図書館（メディアセンター）の看板がPCコーナー入口にあるため，図書館入口が目立たず，生徒は昇降口から大階段へと素通りしてしまいがちなのが悩ましいとのことであった。

入口のガラス引き戸を開けると左手にロータイプのカウンター（市立図書館から移設）がある。奥の北側一面は腰高窓とカウンター席になっており，窓外の田園風景を一望できる。

書架の最下段が床から15cmほど上がっており，書架下は素通しとなっている。東側壁面は６段書架，フロアはL字につなげた４段書架である。L字の接続部分は通り抜けができず，動線がよくないために配置の変更を希望したが，叶わなかったとのことである。PCコーナーの準備室は図書館と直接はつながっておらず，準備室内から図書館は見えない。

照明は，天井格子のうち入口と水平方向の辺の裏側に設置され，入口から蛍光灯の光が直接目に入らないよう配慮されたデザインである。室内は十分に明るいが，照明が格子の影となる壁面書架やカウンター付近は，若干暗く感じた。

学校司書は週２日勤務（２校兼任）の会計年度任用職員である。不在の日も解錠はされており，図書委員が貸出・返却を行っている。生徒の動線上にはあるものの，時間割や行事の都合で生徒が図書館でゆっくり過ごす時間を取りにくく，生徒をいかに図書館に呼び込むかが課題とのことであった。

生徒一人に１台タブレット端末が整備されたため，隣接するPCコーナーのデスクトップ端末は撤去され，今後の活用方法を検討中とのことであった。ウェブ配信機器等も備えており，図書館と一体的に活用することで活用の幅が広がりそうである。

## ２．牛久市立ひたち野うしく中学校

### 2.1　学校概要

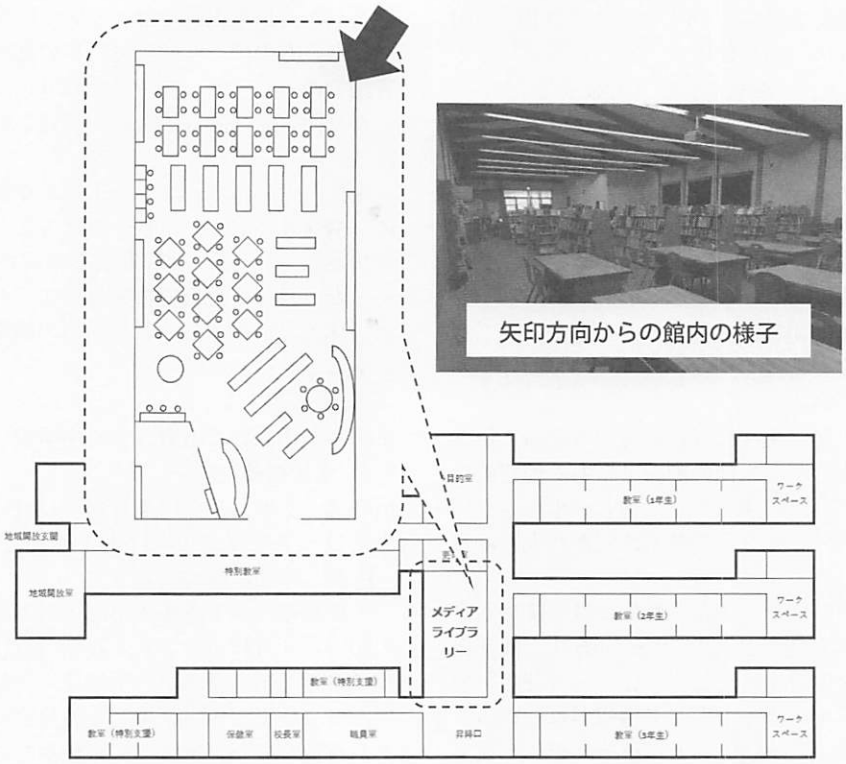
所在地：茨城県牛久市東猯穴町1341-1
生徒数・学級数（2023年５月１日現在）：478名，17学級（特別支援級含む）

生徒数増加による牛久市立下根中学校分割のため2020年４月に新設され，雑誌『近代建築』2021年７月号で紹介された，平屋建て・総木造の校舎である。教室がある東棟と，職員室や特別教室がある西棟をつなぐ位置に図書館がある。校舎は将来の老人養護施設への転用を視野に設計され，廊下幅が広く，段差のないバリアフリー仕様となっている。なお，隣接する小学校は，学校図書館を中核に企図された校舎である（高野裕行『わたしたちの想いをかたちに　ひたち野うしく小学校－学校づくりの軌跡　設計から開校，そして今を記録』ボイックス発行，2016年）。

### 2.2　学校図書館見学

・位置：生徒昇降口～教室棟近く
・形状：吹抜なし・壁ドア有，長方形，施錠可能
・司書室・閉架スペース：カウンター裏にドアで仕切られた司書室あり
・書架：木製，棚固定式（平湯モデル）※平湯モデルについてはウェブサイト：https://www.hirayumodel.comを参照
・閲覧机：木製
・椅子：木製，座面布張り
・座席数：90席
・蔵書数：約14,000冊

2023年８月18日に中井教授と幹事３名が訪問し，岡野教頭と太田司書がご対応くださった。太田司書は2023年度の着任で，館内の配置や機器導入等は前任者が担当されたとのことである。




校舎１階中心部の生徒昇降口正面に位置し，図書館入口に向かって右手東側が教室棟で，生徒の動線上にある理想的な配置である。面積は３教室程度で，天井が適度に高く開放感があり，明るく快適な印象である。廊下側は一部が腰高窓となっており，廊下から館内が見える。

入口のガラス引き戸を開けると，左手にロータイプのカウンターがあり，カウンター裏に司書室がある。窓がないため，司書室内から図書館は見えない。館内奥の北側には大型スクリーンと天井付のプロジェクターが設置され，オンライン授業やイベントに活用されている。

書架はすべて平湯モデルの棚板固定タイプで，入口付近の斜めに配置された４段書架には９類図書が，中央付近の５段書架には学習用資料が配架されている。北側の窓のない壁面には６段書架が設置されている。入口を入って右手には新聞架が置かれ，右手廊下に面した腰高窓下には曲面の絵本架がある。壁面書架以外は天板がないため，見通しは良い。中央付近の５段書架を境に，手前には正方形の小テーブルや円形のベンチ，展示架が配置されたリラックスできる空間，奥は１クラス着席可能な閲覧席と教員用の小カウンターが配置された学びの空間，と緩やかに分けられている。

照明は入口と平行に等間隔に設けられた梁の下に設置されており，書架にも十分に光が当たっていた。

新設校のため，蔵書のほとんどは開校時に新規購入されたものとのことである。牛久市の学校図書館予算は県内他市の２倍の規模となっており，引き続き蔵書の充実に努めつつ，今後書架が満杯になった場合に備えて除籍の検討も始めるとのことである。

学校司書は専任で週５日勤務の会計年度職員で，朝から夕方まで開館している。貸出・返却・返本は図書委員が行うため，司書は生徒対応や選書に時間を回すことができているとのことである。また，勤務時間内に月１回の市内学校司書会があり，他校司書との情報交換や研修の機会が確保されている等，学校司書の専門性発揮に配慮された勤務環境となっている。

（さとう　ちはる，なかむら　たかし，はせがわ　ゆうこ：
JLA 学校図書館部会幹事）

［NDC10：017　BSH：1. 学校図書館　2. 図書館建築］

小規模図書館奮戦記 その315

東京都消費生活総合センター
図書資料室

# 消費生活にかかわる知識と情報を発信する専門施設

木村俊雄

東京都消費生活総合センター（以下「消費生活総合センター」という。）の図書資料室は，消費生活に関わる情報をワンストップで入手できる専門性の高い施設として，消費者のみならず行政職員や教員等，幅広く利用されています。

## 消費者が必要な知識得る施設

消費生活総合センターは，前身の東京都消費者センターを再編整備し，1997（平成9）年4月に発足しました。

消費生活相談，商品テスト，消費生活情報の提供，消費者教育の推進，消費者活動の支援・協働等の事業により，都民の主体的かつ合理的な消費生活を支援しています。

また，都全体に及ぶ広域的な事業を展開すると共に，区市町村の消費者行政を支援し，連携して「センター・オブ・センターズ」の役割を果たしています。

図書資料室はその歴史は古く，東京都消費生活条例にある消費者の六つの権利のうち，「消費生活を営むために必要な情報を速やかに提供される権利」に基づき1969（昭和44）年度に開設しました。

図書資料室は，今回紹介する消費生活総合センター（飯田橋）と，多摩消費生活センター（立川）に設置され，消費生活に関する行政資料，団体資料，図書，雑誌，DVD等を総合的に収集し，閲覧や貸出しを行っています。

消費生活総合センターの図書資料室は，開架システムにより自由閲覧の環境を整え，DVD等を視聴できるコーナーの他，インターネットにより消費者情報を閲覧できるよう，来所者用パソコンも設置しています。

また，金曜日夜間および土曜日にも開室し，インターネットによる図書資料・DVD等のレファレンスサービス（検索サービス。金曜日夜間および土曜日は除く。）を提供する等，利用者の利便性向上を図っています。

このレファレンスサービスは，電話による照会を含め，担当者が利用者の希望を聞き，適当な図書資料等を案内するサービスで，タイトル指定による蔵書検索や希望内容に応じた提案等を行っています。

併設する展示コーナーを含めた2023（令和5）年度の年間利用者数は約34,000人，うち金曜夜間および土曜日の利用者は約6,000人となっています。

## 専門的な蔵書と展示で魅力高める

消費生活総合センターの図書資料室の特色の一つは，蔵書における専門性の高さです。

主なカテゴリーは，①消費生活関連図書（消費生活の基礎知識や商品知識，法律等）の他，②消費者団体・事業者団体資料（発行資料，活動記録等），③東京都関連資料（消費生活総合センターや生活文化スポーツ局消費生活部発行資料，商品テスト結果等），④行政資料（消費者庁や国民生活センター等，国・道府県・区市町村が発行する消費生活に関する資料，事業報告等），⑤都内自治体・消費者センター広報誌，⑥消費生活に関する雑誌等，六つからなり，DVDを含めた総点数は26,000冊（2024（令和6）年3月末現在）あまりとなっています。

当資料室の特色としては，新聞は日刊紙と消費生活専門紙を揃えており，配架の他，消費生活関連の新聞記事を項目別にファイルした資料を用意し，希望テーマで記事検索できるようにしています。

また，都内自治体や23区および多摩地域の消費生活センター，道府県の消費生活センター，消費者団体発行の広報誌1年分を取り揃え，自治体・団体の時々の取り組みが分かるようになっています。

当資料室のもう一つの特色は，併設するパンフレットコーナーと展示コーナーです。

パンフレットコーナーは，当センターの他，都，国，事業者団体等が発行する，悪質商法被害防止等，消費生活に関するパンフレット約200種類を揃え都民等に提供しています。

展示コーナーは，日々の暮らしの中の危険をテーマに，東京都実施の商品テストのサンプル品等を展示しています。

図書資料室は，消費生活にかかわる豊富な蔵書に加え，さまざまな情報を発信する施設として，その魅力を高めています。

**■東京都消費生活総合センター図書資料室**

所在地：新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ15階
利用時間：月～木曜日　9:00～17:00
金曜日　9:00～20:00
土曜日　10:00～17:00
休室日：日曜・祝祭日・年末年始・蔵書点検期間

（きむら　としお：
東京都消費生活総合センター）

［NDC10：018.365
BSH：東京都消費生活総合センター
図書資料室］

れふぁれんす 三題噺 連載その三百十五 甲南小学校図書館の巻

# 児童の心を大切にするレファレンス

◆

田代弘子

兵庫県神戸市，六甲山の麓にたたずむ学校法人甲南学園甲南小学校は，1912（明治45）年に創立された，児童数約360名の歴史と伝統のある学校です。谷崎潤一郎の小説『細雪』にも描かれたことから，敷地内に石碑も建立されています。

学校図書館は，100周年記念事業の一環として，校舎と共にリニューアルされ，児童玄関の目の前という，児童が利用しやすい絶好のロケーションとなりました。以前から文学の良書がある図書館でしたが，約２万冊の蔵書を備え，調べ学習でも使いやすい図書館へと生まれ変わりました。奥には小さなシアター状の読み聞かせコーナーがあり，本の世界にどっぷりと浸ることができます。

毎朝，新聞を整理し，お知らせしていると，「おはよう」の声が靴箱から聞こえてきます。図書館に時々面白いものが持ち込まれることがあります。例えば，四季折々の花，木の実，氷などをはじめ，カヤネズミの巣などです。「その２」でもご紹介しようと思います。さらに，好きなテレビの話，昨日の野球の話，お稽古の話，病気でつらかった話，ママに怒られた話など朝からにぎやかです。私は児童の朝の言葉を大切にしています。そこには伝えたいことが詰まっていると思うからです。

そんな児童の朝のレファレンスからご紹介したいと思います。

その１

東京で有名な動物の本が読みたいんです。

まずは，レファレンスの答えが児童の心の中にあった事例です。

読書朝会のための本を借りようと，多くの児童が列を作っているときのこと。２年生が「東京で一番有名な動物って，何？」と，飛び込んできました。がやがやとしていた図書館がシーンとなりました。「うーん。ゆりかもめかな？　東京都の鳥だよね」どうやら違うようです。「じゃあ，パンダ？」それも違うようです。みんなも頭をひねっています。当時はパンダのタンタンが神戸にもいたからです。

そのとき，私は急にひらめいて，「もしかして，ハチ公？」と尋ねてみると，「そうです，そうです。ハチのお話が読みたかったんです！」と２年生の笑顔がはじけました。図書委員が『いとしの犬ハチ』（いもとようこ作・絵　講談社　2009年）などの本を取りに行ってくれ，手渡しました。

次の日その児童は「わたしの心はハチでいっぱいです」と伝えに来てくれました。

このレファレンスは，朝日新聞に掲載されましたが，それは奇しくもハチの生誕100周年の時期でした。この後，児童はハチの像に会いに行ったと報告してくれました。これを期に『ハチ公ものがたり』（綾野まさる著，木内達朗絵　ハート出版　2023年），『東大ハチ公物語　上野博士とハチ，そして人と犬のつながり』（一ノ瀬正樹，正木春彦編　東京大学出版会　2015年）を排架しました。２年生には難しい資料ですが，将来手に取ってくれることを願っています。

その２

昼休みに，校庭で葉っぱの上に赤いクワガタのような虫を見つけました。見たことがない虫なのですが，珍しい虫でしょうか？　この虫の名前と特徴について知りたいです。また，飼うことができますか？

2021年７月の昼休みに６年生の３人組が興奮気味に赤い虫を持って駆け込んで来ました。頭部に小さな「大あご」を持っています。

そこで，写真を見ながら蔵書検索画面で，キーワード「甲虫」「赤いクワガタ」を入力しました。それと並行して書架をブラウジングし，甲虫類を調べました。すると，『世界文化生物大図鑑　昆虫Ⅱ　甲虫』（世界文化社　2004年）等で，高知県によく生息する「トサヒラズゲンセイ」であることが判明しました。「赤いクワガタ」と呼ばれることもありますが，ツチハンミョウの仲間です。クマバチの巣に寄生し，遠くに移動することはありません。熱帯性で，局所的に生息する希少種だとわかりました。体長は18～30mmです。児童がつかまえたのは，大あごが大きいので雄だと考えられます。また，ツチハンミョウの仲間の多くは毒性を持った体液を持っていることから『学研の図鑑LIVE８　危険生物』（今泉忠明監修　学研教育出版　2015年）等も参考にしました。刺激すると体液を出すことがあり，皮膚につくとはれや水ぶくれができることがあるので注意が必要です。

さらに，CiNii Articles（現・CiNii Research）で論文検索すると，「ヒラズゲンセイ」に関する論文が見つかりました。「米野々森林研究センターにおける珍虫“ヒラズゲンセイ”の採集報告」（山迫淳介，高松陽一郎　『愛媛大学農学部演習林報告』(51)，p.29-30，2012-03）によると，高知県で発見された虫ですが，近年になって，九州や関西地方にまで急激に分布を広げており，地球規模の温暖化との関連が示唆されていることが分かりました。

ハンミョウ類の飼育は，直径30cmくらいの容器を用います。そこに適度に湿った土を５～10cmの厚さに入れます。エサはミミズを短く切ったものを入れ食べ残しは捨てると良いそうです。

小さな虫，美しい葉っぱや木の実，時には大きな氷などが児童によって持ち込まれることもある小学校図書館ですが，「ヒラズゲンセイ」はインパクトがあります。昨年，４年生が数人で「赤い虫見つけた！」と，図書館に持って来ました。レファレンス協同データベースの該当ページを渡すと，「ぼくらだって，すごいやろ。４年生も見つけましたよって書いといて！」と悔しがっていました。この誌面に紹介することで約束を果たせたでしょうか。

このレファレンスでは，論文検索により一匹の昆虫から地球温暖化の影響を考えさせられました。

**その３**

**天然痘のワクチンを開発した，エドワード・ジェンナーの「雨の兆し」という詩の全文が知りたい。**

国語科の授業時間のこと，好きな詩を見つける際に詩の棚に行かず，まっすぐやって来る５年生がいました。「ジェンナーの詩の全文が知りたいんです。日本語で」と。そんな詩人がいたか？　と思案していると，「天然痘のワクチンを開発した人です」と言います。イギリスの医師で自然科学者のエドワード・ジェンナーのことでした。コミック版世界の伝記『ジェンナー』（十常アキ漫画，岡田晴恵監修　ポプラ社　2021年）の冒頭に掲載されているとのこと。確認してみると，「雨の兆し」という詩が途中まで掲載されていました。巻末を見ると『小酒井不木全集』第７巻（改造社　1929年）が参考文献として挙げられています。本校では所蔵していなかったので，国立国会図書館サーチで検索すると，国立国会図書館デジタルコレクションで資料を閲覧できましたが，原文（英文）と日本語の意味のみでした。

そのため，ポプラ社に問い合わせたところ，「該当ページの訳文は，『小酒井不木全集』に載っている原文『Signs of Rain』（英文）を著者が自分で訳したもの」ということでした。「少なくとも，事前に編集部でできる限り調べて準備した資料の中に，邦訳した資料や書籍はなかった」との回答を得ました。

その児童に，該当部分を複写して手渡しました。授業では日本語の意味の部分を使用し，発表したそうです。「ジェンナーの偉大さに感動するわ」と語っていました。

このレファレンスでは，児童用の漫画の冒頭が，まだ邦訳されていない詩で始まることに驚かされました。ジェンナーの詩が邦訳されることを児童と心待ちにしています。

（たしろ　ひろこ：甲南小学校）

［NDC10：015.2　BSH：レファレンス　ワーク］

ウチの図書館 お宝紹介！ 第243回 敦賀市立図書館

# 「浦潮日報」

敦賀市立図書館

## 1．はじめに

敦賀市は，福井県の中央に位置し，日本海に面した港町です。日本三大松原に数えられる気比の松原や，日本三大木造大鳥居を有する氣比神宮が有名です。

敦賀の地名は『日本書紀』によると，崇神天皇の時代に朝鮮から「都怒我阿羅斯等（ツヌガアラシト）」が渡来したことに由来し，古くから大陸との玄関口として，日本海側の要衝となり栄えてきました。

明治～昭和初期にかけて敦賀港には，ロシア・ウラジオストクとの直通定期航路が開設され，東京とパリを結ぶ欧亜国際連絡列車の中継地として，大変にぎわいました。ポーランド孤児やユダヤ難民の人々を迎え入れたことから「人道の港」とも呼ばれています。

また，令和６年春に北陸新幹線が敦賀市まで延伸し，JR敦賀駅は北陸新幹線の新しい終着駅となり，敦賀市内もにぎわいをみせています。

▲現在の敦賀市立図書館の外観

## 2．敦賀市立図書館の沿革

敦賀市立図書館は昭和17年に開館しました。現在の建物は，平成３年８月に建ち，33年となります。

市民の学習，情報提供の拠点施設として，１階は一般書コーナー，郷土資料コーナー，２階は児童書コーナー，参考室，特別資料室があり，約28万冊を所蔵しています。令和５年度は約14万人の利用があり，連日多くの子どもたちや読書愛好家に親しまれています。

## 3．「浦潮日報」の意義と所蔵経緯について

「浦潮日報」は，大正時代の初頭にウラジオストクに居留していた日本人たちに，日々刻々と変化する社会情勢をどう伝えるかを慮り，和泉良之助氏が尽力して創刊されたものです。あくまで，政論紙ではなく商業紙として，大正６年12月９日の創刊から約3,500号発刊されました。「浦潮日報」の発刊の辞から，日露親善唯一の機関を目指し，また両国にとっての情報源として大変重要な役割を果たしたことがわかります。

その貴重な日報が，敦賀市立図書館に所蔵されることになった経緯は残されていませんが，当時敦賀とウラジオストクを結ぶ連絡船が週１便あり，浦潮日報社の日本国内唯一の支局が敦賀市に存在

◀「浦潮日報」創刊号

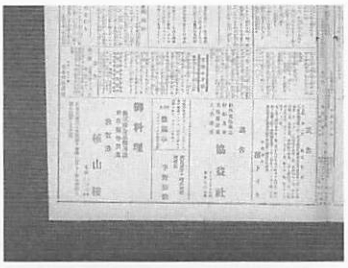
していました。さらに日報のオリジナルには，「支局　敦賀港大島町　上田貞聚」となっており，手書きで「上田」と記されていることから，推測ですが，その本人か家族が寄贈したのではないかと思われます。現在，敦賀市立図書館では，記念すべき創刊号から第56号まで所蔵しています（一部欠号有り）。

## 4．「浦潮日報」の記事より

「浦潮日報」の第３号には社員創刊記念として，関係者の写真が掲載されており，どんな人がこの新聞を作っていたかがよくわかります。

▲「浦潮日報」の第３号に掲載された関係者の写真

ところで新聞といえば広告が付きものですが，「御料理　敦賀港　植山樓」の広告を見るだけでも，敦賀と浦潮に行き来があったことがわかります。また，敦賀には海軍御用達の料理屋があり，「玉突の設備も有」と記載されていることから，玉突（ビリヤード）が流行っていたのではないでしょうか。同じページに占いも載っており，現在の占いは12星座や十二支が多いですが，当時は九星の占いが人気だったのかな？と伺われます。



▲新聞広告の紙面

その他の記事に「浦潮のお正月」というものがあり，日本人のお正月（太陽暦），露西亜人のお正月（ロシア暦），支那人のお正月（太陰暦）と三度あるそうです（原文より）。異国の地でロシア，中国，日本の文化が入り混じり，お料理は和漢洋の混合で，お酒は３国３種のものでした。記事によると，日本人のお正月は長崎式で「それはそれはコツタもんだ先づ鯛の姿焼鳥の生造り豚の角煮等」とあるように豪華だったようです。その記事の最後に「新年を迎ふる毎に偲るゝものは故国の春である」とあることから，華やかなお正月を過ごす中で，心は日本に思いを馳せていたようです。このように，当時の日本人の生活の一端や心情，文化が垣間見られる興味深い記事です。

▲「浦潮のお正月」の記事の紙面

## 5．おわりに

「浦潮日報」は，当時ロシアのウラジオストクに住んでいた日本人向けの邦字新聞で，現在図書館では，国立国会図書館等が所蔵する貴重な新聞であり，極東ロシアとの交流を語る貴重な資料となっています。

特に創刊号からのものについては，敦賀市立図書館のみが現物を所蔵しており，紙面数182面は，平成27年にデジタル化し，一般の方も閲覧できるようになりました。

また当館では，地元の「敦賀新聞」や「北陸日報」等，明治から昭和にかけての新聞約3,000面もデジタル化しました。

今後も貴重な資料の収集と保存に努めていきます。

【参考】
・『和泉良之助　「浦潮日報」創立者』
（桧山邦祐著　サンケイ新聞生活情報センター　1981年）
・敦賀市ホームページ
・敦賀観光協会ホームページ

［NDC10：090　BSH：1. 稀書　2. 敦賀市立図書館］

# 図書館員のおすすめ本⑯

## 実践アニメ療法　臨床で役立つ物語の処方箋

パントー・フランチェスコ著　中外医学社　2024　¥3,400（税別）

読者の皆様はお気に入りのアニメ作品がおありだろうか。作品や登場人物に共感し，明日への活力にするという方も多いだろう。

本書は「アニメを臨床的な精神・心理カウンセリングの中で活用する手法を書いた，本邦初の専門書」（出版社ウェブサイトより）である。著者のパントー氏はイタリア人医師であり，日本で医師免許と医学博士号を取得し精神科臨床医として活躍されている。著者自身も「アニメオタク」を自称しアニメで日本語を習得されたという。

文化精神医学の領域において，引きこもりや対人恐怖症という社会的現象は日本に特有であると言われる。本書では「第Ⅰ章　アニメ療法の一般論」で「物語る」ことと精神的治療の関係について医学的な総論の解説がなされ，「第Ⅲ章　アニメ療法カウンセリングの実例」において具体的な事例が医師と患者の会話形式で描かれている。患者自らが選んだ作品のストーリーラインや登場人物の心理を医師と共に読み解きながら，患者が次第に自らの課題を客観視していく様子は，さながらドラマを見ているような臨場感がある。

中外医学社は医書出版協会に属し専門書を多く刊行する出版社である。本書はエビデンス（科学的根拠）を踏まえつつ，専門用語も少なく表紙も親しみやすいイラストで，一般の方にも読みやすい体裁となっている。メンタルヘルスコーナーを設置する図書館も増えていることから，コレクションに加えると多くの利用者に関心をもたれることだろう。興味をお持ちの方は，著者による以下の文献もぜひご一読いただきたい。

・「連載　心の不調に対する『アニメ療法』の可能性」『週刊医学界新聞』　2023.07-2024.06
・『アニメ療法（セラピー）　心をケアするエンターテインメント』　光文社　2022

（佐藤正恵（さとうまさえ）：千葉県済生会習志野病院医学図書室・患者図書室司書，ヘルスサイエンス情報専門員）

## 広島の被爆と福島の被曝　両者は本質的に同じものか似て非なるものか

齋藤紀著　かもがわ出版　2018　¥2,000（税別）

原発事故に関わる報道は今もいろいろある。がマスメディアで伝えられる内容には，福島で生活している私にとって何か違和感を覚えてしまうものも多い。原発事故が引き起こした問題は放射線量だけではない。度重なる避難，家族離散，生きがいや生業の喪失，震災関連死など，ベクレルやシーベルトでは測ることのできない困難が今も続いている。しかし，メディアで取り上げられるのは，処理水，廃炉，裁判。それらはもちろん大事な問題ではあるが，事故を経て福島での生活を営む一人ひとりが直面している課題はもっと多様で，もっと根深い。視聴者は見たいものしか見ないし，メディアは報道したいものしか報道しない。

著者の齋藤紀医師は，2009年に広島市の病院を退職し福島市へ戻ってきた。広島で長年被爆医療に関わってきた齋藤医師が，事故当時福島にいたことは，僥倖というしかないだろう。現場へ赴き放射線の状況を見極めながら，行政や医師会の相談役となり，また住民一人ひとりの心に寄り添いながら，放射線への理解と対応を模索してきた7年間の記録が本書の第二部である。では第一部はというと，広島の被爆者の方々との話が語られている。著者は，広島の被爆者の集団訴訟で，個別原告の医師意見書を作成した。それは，「被爆者一人ひとりの疾病史を原爆被害の総体のなかにとらえる作業」（p.128）であり，「全体の原爆被害を個別被爆者の肉声で支えること」（同上）だったという。原爆に関する本や文学，映画などは多くあるが，しかしそれは「原爆で命を奪われた人々」についての作品がほとんどで，本書のように原爆を生き抜いた人々がどのように70余年を歩んできたのかについて描かれたものは多くない。

広島・長崎の被爆者のたたかいは今なお続いている。原爆と原発事故とは何なのか，あらためて問い直したくなる1冊だ。

（藤田理穂（ふじたりほ）：福島県大玉村教育委員会学校司書）

# 図書館員のおすすめ本⑨⑥

## 寄生虫を守りたい

佐々木瑞希著　dZERO　2023　¥2,200（税別）

この頃では，やさしい語り口の研究者の執筆書がいろいろ出ていて，面白い。正しい知識を盛り込みつつ，素人にも新たな興味を起こさせてくれる。本書はその中でも，特にマニアックな分野かもしれないけれど。

「寄生虫」と言われてピンと来なくても「アニサキス」と言えば，ほとんどの人は聞いたことがあるだろう。そんな身近な寄生虫が実は，成虫ではなく幼虫なのだと，私はこの本で初めて知った。しかも，最終的にクジラやイルカに行き着いたものだけが，その胃の中で成虫になれるのだそうだ。刺身好きを七転八倒させるアニサキスは，寄生していた魚が彼の思惑を外れ，人間に食べられてしまったばかりにその一生を全うできなかったのである。

だが，そんなふうに成虫になれない寄生虫は珍しくもないらしい。本書では，大の寄生虫好き著者が多種多様な推しの寄生虫をそれはもう，楽しそうに紹介してくれる。感染されたことで変な目になってしまったオカモノアラガイ（北海道のカタツムリで，私も感染個体を見たことがある！）の姿や「ウドンムシ」をもつ著者など，多数の写真をパラパラと見るだけでも驚いてしまうし，何なら家庭で魚料理のついでにできる寄生虫の採集と観察，標本の作り方まで教えてくれる。

そのうえで著者は私たちに語りかける。「寄生虫を見つけるとうれしいのか怖いのか分からないけれどゾクゾクします。」「物事に対してそんな興味の持ち方をする子供（もう大人ですが）もいるということを世の親御さんたちに伝えたいです。」（p.253-254）

まあ，虫自体が苦手な方もいるだろうけれど，そういう人は著者同様，虫が苦手だからこそのゾクゾクを味わえる。そしてその醍醐味がわかると，より興味をかき立てられ，沼にはまるのだろう。

（佐藤里恵：北海道利尻町交流促進施設どんと郷土資料室（図書室））

## なぜか買いたくなる“もちもち”の秘密

藤野良孝著　青春出版社　2024　¥1,100（税別）

勤務校の中学校図書館は，残念なことに来館者はほとんどなく，本の貸出冊数も少ない。そこで２学期１回目の委員会で，ポスター掲示をして図書館をアピールすることになった。どのような呼び込み文句を書くか悩む委員にこの本を紹介した。

多くの人に注目してもらうために，キャッチコピーは重要だ。この本の第１章では，パワーワード＝オノマトペと定義し，オノマトペとは何かを解説する。また，商品やCMなどでパワーワードがいかに威力を発揮しているかを述べている。TikTokなどのSNSでは，短いワードのオノマトペが生きてくる。今の人たちには長い説明ではなく，パワーワードでストレートに伝える方が効果的なのだ。食品界では「じゅわっとジューシー」，美容界では「髪サラサラ」など，世にはパワーワードがあふれている。さらにパワーワードは商品の特徴や違いを短い言葉で端的に伝えられるため，パッケージやポスターにも多く使われている。

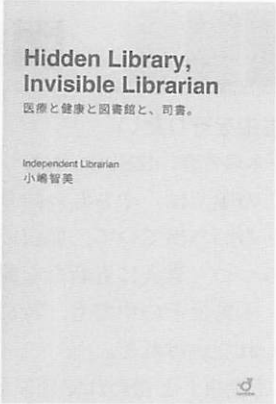
第２章からはパワーワードの作り方や使い方，チラシやポスターの文字の配置などを，実際の商品写真を使って見せてくれる。パワーワードの表記をひらがなにするかカタカナにするか，またフォントの違い，文字の配列や色彩の選択で大きく印象が変わる。清音・濁音などの言葉選びも大切な要素になる。

ただ，読んでいてちょっと心配になった。パワーワードは確かにキャッチーだが，短い言葉は感覚的に伝えるため誤解も生まれやすい。商品やおすすめの詳細説明を，タイパが悪いなどと言って面倒くさがらず，しっかり読めるようにもなってほしい。ところでこの便利なパワーワード。いくつも列挙すればいいわけではなく「ルール・オブ・スリーの法則」で多くても３つまで。委員はどんなパワーワードを使ったキャッチコピーを考えてくれるだろう。とても楽しみだ。

（中塚ゆり子：相模原市立相模台中学校）

［NDC10：019.9　BSH：書評］

# 図書館員の本棚




Hidden library, invisible librarian
医療と健康と図書館と，司書。
小嶋智美著
東京 ： 郵研社
2024. － 227p ： 19cm
ISBN ： 978-4-907126-67-4 ： ¥1,800（税別）
NDC10：018.49
BSH：医学図書館：図書館員

本書の著者は長年，日本医学図書館協会や医学情報サービス研究大会等で活躍しており，多くの論文も執筆している。大学図書館・病院図書館に勤務経験がある。2012年頃より，“Independent Librarian”を名乗る。所属を名乗らないということ，図書館や所属にこだわらないということは，著者は個としての「司書」に強い思い入れがあると思う。

“Independent Librarian”とは？小嶋智美氏に直接お聞きしたことがないので，正確にはわからない。おそらく彼女以外にこれを公に表している司書はいないのではないか。

本書は，病院図書館に一人勤務の，ある司書の日常を綴ったものである。日々の出来事について呟いたエッセイともいえる。郵研社のウェブサイトに2020年９月から2023年３月まで連載していたものに加筆修正したとのことである。

彼女が過ごしてきた病院の中での司書生活を，楽しくもちょっぴり緊張しながらそして，日々新しい関心事について学び続け考え続け，情報を獲得して仕事に活かしていく真摯な姿がカッコ良く，応援したくなる。彼女自身，これはフィクションだと書いているのだが。

それぞれのエピソードについて，同様の経験のある筆者には「こんなことあった，あった！」とまるでデジャブのように脳裏によみがえり，あっという間に読み終えてしまった。

本文は33のショートストーリーからなり，まるでドラマのよう。病院司書の日常業務，利用者である医師や看護師，理学療法士，事務職員等と徐々に距離を縮め，これらのスタッフに何をどのようにサービスしていくか。

なぜ，さまざまな問いに対してこんなにもとことん調べ応えていくのか，そこには患者さんの存在があるから。常に患者さんやご家族のために少しでも役に立てれば，間接的にでも思いが少しでも伝われば，それが一番の願いで，私たち病院司書の喜びでもあると思う。

ショートストーリー15.（「書」の先）の中にあった一部を引用する。

> 「司書」は，「書」を「司る」仕事。確かに，基本的には，そうかもしれない。でも，仮にそうだとしても，「書」だけではなく，「書」の先にある，さまざまな思いやつながりも意識しながら，司書としての仕事を続けていけたらいいな（p.99）

また，本書には19のコラムが挿入されている。「『病院図書館』とは」から始まって，医学・病院図書館が日常的に扱う医療情報についての解説などもあり，背景がわかる。さらに巻末に参考文献のURLリストがあり，QRコードが付与されている。

書名についてだが，“Hidden Library”と“Invisible Librarian”という言葉はあまり馴染みがないのではないか。通常なら隠された貴重な本の並んだ図書館，隠れ家的な図書館を思い浮かべるだろうか。ここでは「隠された図書館」，「見えない司書」という意味で使っている。確かに医療スタッフのための病院図書館は，ほとんど知られていない。「司書」も見えない存在に近い。インターネット時代では，ますます司書は見えづらくなり，誰かが「何でもインターネットにあるから」と言っているのを何回聞いたことか。

かろうじて患者図書館が設置されている病院が増え，病院図書館，患者図書館の両方を兼ねた図書館もある。いずれにしてもそこに見え隠れする「司書」がいて始めて，その機能が発揮されるのではないか。

この書名に関していえば，一般には少しわかりにくいかもしれない。副書名に「医療と健康と図書館と，司書。」とあってようやく納得。本の装丁デザインも隠れてしまいそうに控えめでシンプルである。

医療は誰にでも関わることであり，もしあなたが黒いベレー帽にまん丸黒縁メガネがトレードマークの彼女に会ったら，ぜひ，声をかけてみてください。彼女がきっと新しい扉を開けてくれるでしょう。

（奥出麻里（おくでまり）：千葉県がんセンター
患者図書館「にとな文庫」）

# 『図書館雑誌』バックナンバーのご案内

（定価は税込み。各号の在庫状況については，出版販売係 ☎03-3523-0812に直接お問い合わせください）

◆2020年１月号（Vol.114 No.１）特集＝トピックスで追う図書館とその周辺 …… 1,026円
◆2020年２月号（Vol.114 No.２）令和元年度（第105回）全国図書館大会ハイライト …… 1,026円
◆2020年３月号（Vol.114 No.３）特集＝災害から考える図書館 …… 1,026円
◆2020年４月号（Vol.114 No.４）特集＝読書バリアフリー法と図書館－一歩を踏み出す前に …… 1,026円
◆2020年５月号（Vol.114 No.５）特集＝図書館とオリンピック …… 1,362円
◆2020年６月号（Vol.114 No.６）特集＝児童・生徒の学びをサポート！博物館図書室 …… 1,026円
◆2020年７月号（Vol.114 No.７）特集＝図書館の話題アラカルト …… 1,026円
◆2020年８月号（Vol.114 No.８）小特集＝AIを活かす図書館 …… 1,362円
◆2020年９月号（Vol.114 No.９）特集＝コロナ禍における図書館の現在 …… 1,026円
◆2020年10月号（Vol.114 No.10）令和２年度（第106回）全国図書館大会和歌山大会への招待 …… 1,026円
◆2020年11月号（Vol.114 No.11）特集＝新型コロナウイルス流行下における大学図書館の非来館型サービス …… 1,026円
◆2020年12月号（Vol.114 No.12）特集＝電子メディアと学校図書館－コロナ禍は，学校図書館の「電子書籍元年」をもたらすか …… 1,362円

＊

◆2021年１月号（Vol.115 No.１）特集＝トピックスで追う図書館とその周辺 …… 1,026円
◆2021年２月号（Vol.115 No.２）令和２年度（第106回）全国図書館大会和歌山大会ハイライト …… 1,026円
◆2021年３月号（Vol.115 No.３）特集＝東日本大震災から10年 …… 1,026円
◆2021年４月号（Vol.115 No.４）特集＝SDGsと図書館 …… 1,026円
◆2021年５月号（Vol.115 No.５）特集＝図書館員養成100周年 …… 1,362円
◆2021年６月号（Vol.115 No.６）特集＝図書館と公民館との連携を考える …… 1,026円
◆2021年７月号（Vol.115 No.７）特集＝健康・医療情報のリテラシー …… 1,026円
◆2021年８月号（Vol.115 No.８）特集＝図書館の話題アラカルト …… 1,362円
◆2021年９月号（Vol.115 No.９）特集＝地域資料のいまとこれから …… 1,026円
◆2021年10月号（Vol.115 No.10）令和３年度（第107回）全国図書館大会山梨大会への招待 …… 1,026円
◆2021年11月号（Vol.115 No.11）特集＝国立国会図書館のデジタルシフト …… 1,026円
◆2021年12月号（Vol.115 No.12）特集＝コロナ後の学校図書館へ／小特集＝IFLA2021オンライン大会レポート …… 1,362円

＊

◆2022年１月号（Vol.116 No.１）特集＝トピックスで追う図書館とその周辺 …… 1,026円

◆2022年２月号（Vol.116 No.２）令和３年度（第107回）全国図書館大会山梨大会ハイライト ……1,026円
◆2022年３月号（Vol.116 No.３）特集＝図書館と命名権（ネーミングライツ）……1,026円
◆2022年４月号（Vol.116 No.４）特集＝広がる広げる 子どもの読書環境としての公共図書館の今 ……1,026円
◆2022年５月号（Vol.116 No.５）特集＝電子書籍と公共図書館－非来館型サービスとしての電子図書館 …1,362円
◆2022年６月号（Vol.116 No.６）特集＝図書館の広報を考える ……1,026円
◆2022年７月号（Vol.116 No.７）特集＝図書館の話題アラカルト ……1,026円
◆2022年８月号（Vol.116 No.８）特集＝認知症にやさしい図書館を目指して ……1,362円
◆2022年９月号（Vol.116 No.９）令和４年度（第108回）全国図書館大会群馬大会への招待 ……1,026円
◆2022年10月号（Vol.116 No.10）特集＝大学にある児童図書館（室）……1,026円
◆2022年11月号（Vol.116 No.11）特集＝図書館と個人文庫・文学館 ……1,026円
◆2022年12月号（Vol.116 No.12）特集＝「情報活用能力」－学校教育と図書館の未来をつなぐ／
小特集＝IFLAダブリン大会レポート ……1,362円

＊

◆2023年１月号（Vol.117 No.１）令和４年度（第108回）全国図書館大会群馬大会ハイライト ……1,026円
◆2023年２月号（Vol.117 No.２）特集＝トピックスで追う図書館とその周辺 ……1,026円
◆2023年３月号（Vol.117 No.３）特集＝図書館の空間をデザインする ……1,026円
◆2023年４月号（Vol.117 No.４）特集＝コロナ後の図書館員の学び・交流 ……1,026円
◆2023年５月号（Vol.117 No.５）特集＝県立図書館は今 ……1,362円
◆2023年６月号（Vol.117 No.６）特集＝既存図書館のリニューアル ……1,026円
◆2023年７月号（Vol.117 No.７）特集＝図書館の話題アラカルト ……1,026円
◆2023年８月号（Vol.117 No.８）特集＝図書館と展示－資料から広がる世界 ……1,362円
◆2023年９月号（Vol.117 No.９）特集＝図書館のビジュアルアイデンティティ ……1,026円
◆2023年10月号（Vol.117 No.10）令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 ……1,026円
◆2023年11月号（Vol.117 No.11）特集＝表現する図書館員－書くことのすすめ ……1,026円
◆2023年12月号（Vol.117 No.12）特集＝2023年学校図書館の今　そしてこれから／
小特集＝IFLAロッテルダム大会レポート ……1,362円

＊

◆2024年１月号（Vol.118 No.１）特集＝トピックスで追う図書館とその周辺 ……1,026円
◆2024年２月号（Vol.118 No.２）令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト ……1,026円
◆2024年３月号（Vol.118 No.３）特集＝書店×図書館の可能性 ……1,026円
◆2024年４月号（Vol.118 No.４）特集＝移動図書館のいま ……1,026円
◆2024年５月号（Vol.118 No.５）小特集＝図書館は生成AIをどのように活用できるか ……1,362円
◆2024年６月号（Vol.118 No.６）特集＝座談会　中堅図書館員しごとを語る
－あらたに図書館員になった方たちへ ……1,026円
◆2024年７月号（Vol.118 No.７）特集＝図書館の話題アラカルト ……1,026円
◆2024年８月号（Vol.118 No.８）特集＝図書館における「ゲーム」 ……1,362円
◆2024年９月号（Vol.118 No.９）特集＝まちライブラリーの今 ……1,026円
◆2024年10月号（Vol.118 No.10）令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待 ……1,026円
◆2024年11月号（Vol.118 No.11）特集＝シン・デジタル・ライブラリー－オープンサイエンス時代の
大学図書館 ……1,026円

公益社団法人日本図書館協会

# 2024年度通算第２回（定時第２回）理事会議事録

**日時**：2024年９月26日（木）
13:30～16:00
**場所**：日本図書館協会会館504会議室，Web会議
**理事現員数**：20名
**出席理事**：19名
**日本図書館協会会館504会議室**　15名：植松貞夫（理事長），鈴木隆（副理事長），海老根裕（専務理事），岡部幸祐（専務理事兼事務局長兼出版部長），植村八潮（常務理事），杉本重雄（常務理事），曽木聡子（常務理事兼総務部長），成瀬雅人（常務理事），平形ひろみ（理事）（以下同じ），山本昭和，巽照子，小川俊緒，角田裕之，高橋恵美子，関根美穂
**Web参加**　４名：末次健太郎（理事）（以下同じ），田村俊作，斎藤未夏，深水浩司
**欠席理事**：１名　久野高志
**監事現員数**：３名
**出席監事**：２名
**日本図書館協会会館504会議室**　１名：中山勝文
**Web参加**　１名：松本香
**欠席監事**　１名：中山司朗

＊

**１．開会宣言**

岡部専務理事兼事務局長兼出版部長（以下「事務局長」という）より，開会が宣せられた。

**２．会議成立要件の確認**

事務局長より，会場及びオンライン上の画面で本人の出席を確認し，開会時点で理事20名中19名（うちWeb参加４名）が出席しているとの発言があり，定款第43条に基づく定足数を満たしているため，会議の成立が確認された。

**３．理事長挨拶**

植松理事長（以下「理事長」という）より，挨拶があった。

議事に先立ち，理事就任後初の理事会となる田村理事，斎藤理事の紹介と挨拶があった。

**４．議事録署名人の選出**

定款第46条第２項に基づき，出席理事のうち深水浩司理事を議事録署名人として選出したい旨提案があり，同理事を異議なく選出した。

その後，理事長より，松本監事の都合により報告３から取り扱うとの発言があった。

＊

**■報告**

**報告３　2023年度決算の財務分析報告について**

事務局長より，資料に基づき以下の報告があった。財務分析にあたっては，公益法人の一つである学校法人を対象とした「私立学校運営の手引き」を参考としている。財務分析の指標は，(1)流動比率，(2)経常収支差額比率，(3)人件比率，(4)外部資金依存率を分析している。

流動比率は，一年以内に支払うべき債務を支払う財源を確保しているかを表し，100％以上である必要があるが，本法人の流動比率（棚卸資産を除く）は2023年度が123％で前年度から５％の減であった。２年連続で悪化しているものの，まだ100％は超えており，当面の安全性は確保できていると言える。このまま毎年数％ずつ悪化していくと，数年後には100％を切ることも考えられる。

経常収支差額比率は，単年度の収支状況の指標である。2023年度の経常収支差額比率は，▲6.1％であった。経常収益と経常費用の比率を見るもので，マイナス赤字決算になる。前年度は▲1.3％であり，２年連続で悪化している。

人件費率は，これまでは人件費依存率として，会費収入及び事業収入に対して人件費がどの程度依存しているかを示してきたが，昨年度から経常収益に対する人件費率も含めて算出をしている。会費に対する人件費依存率は100.7％，事業収入に対する人件費依存率は95.7％であり，事業収入では人件費は賄なえない。また，経常収益に対する人件費の比率は43.4％となる。参考としている「私立学校運営の手引き」によると，「50％未満を維持することを目標達成値とし，60％を上限」とされており，本法人の基準は満たしている。この水準を維持していきたいが，現在の職員の給与水準，賞与等は一般に比べて低く，処遇改善もしていきたいため，さらなる収益の確保が望まれ

る。

外部資金依存率は55.7％であり，前年度の65％から，少し数値は改善している。長期借入金の返済計画については，2025年度407万円の返済を行えば完済する見込みである。

次に，主な事業の財務分析結果について，収益事業の分析，公益事業比率の分析を記載している。公益事業比率の分析では，基本的な公益法人として満たすべき水準を満たしている。

次に，公益事業の収支分析では，まず研修事業について，新型コロナウイルスによる制限もなくなり，対面及びリモートで実施している。実施件数は前年度に比べて少し減っているが，参加者数は６割増加している。ただし収支差額については，前年度に比べてマイナスになっている。対面での開催により費用も増加したと考えられる。

出版事業については，2023年度の出版点数及び収益ともに前年度に比べてマイナスとなった。収支差額は3782万３千円で，2022年度に比較して430万円の減収となった。出版事業のテコ入れは急務である。

地域図書館団体活動費は，前年度の配分率のままキープして実施している。各委員会旅費は基本的に支給の形だが，対面での開催が増加し，徐々に負担も厳しくなっている。オンラインの委員会開催を進める等，経費削減の工夫は必要である。

公益事業の収支分析としてまとめると，職員育成にあたる研修と全国図書館大会の増減額は，研修は120万７千円の収益が上がった。大会は▲500万円となった。出版については，3782万３千円の収益，図書館振興は▲243万円，災害助成等についてはプラスマイナス０で，最終的に公益事業全体の収支は3157万２千円であった。

管理費の会議費については，代議員総会での業者委託を取りやめ，自力で開催をして経費の削減に努めた。今後も契約方法の見直しも含め管理費の削減に継続して努めていく。

しかしながら，今後建物の維持管理において，屋上防水の工事，高圧ケーブルの更新，外壁の改修，非常灯の改修，エレベーターの改修，LED照明の更新等，経費が必要になるため，今年度策定をする中長期財務計画に基づいて適切に予算措置を行い，実施に努めていきたい。

分析結果の総括としては，経常収益については前年度99万２千円の減であった。主に出版事業収益の減少であり，既刊本も含めた販売力の強化，図書館ハンドブック等の本法人の定番となる書籍を定期的に改訂できる体制を作る等，中長期的な出版計画の策定が必要である。

会費については，124万５千円の減で，減少傾向に歯止めがかかっておらず，会員確保の方策を講ずるとともに会費の値上げも検討する必要があるのではないかと考える。

費用については，前年度より970万３千円増であった。対面での活動が増えたこと，諸物価の値上がり等の影響が出ている。

正味財産増減計算書は赤字決算である。流動資産を見ると現金預金の減，棚卸資産の減により流動資産は前年度より減少しているものの，最低限の流動比，当面の安全性は確保できている。

正味財産の合計も前年度比488万２千円減ではあるが，棚卸資産が575万１千円の減であることも影響している。

長期借入金については来年度９月末で完済となるが，空調のリースは継続している。

協会の事業規模を維持するためには，収益の確保が必要であり，引き続き基盤の確立に向けて，外部資金や寄附金の獲得等に努め，事業の見直しによる収益構造の再編が必要である。

課題として，(1)会員の減少，(2)出版事業の見直し，(3)存在感を高める法人運営の三つを挙げた。会員の減少については，個人会員Ａは84万円の減であるが，個人会員Ｂは24万６千円の増であり，図書館職員の非正規化が進んでいる影響が見られる。また，施設会員についても施設会員Ａが55万円の減，施設会員Ｃも13万８千円の減となっている。分館だけでなく中央館の退会も増えてきている。会員増は喫緊の課題だが，20年以上据え置かれている会費の値上げについても検討をせざるを得ない。

出版事業の見直しについては，安定的に収益を上げる戦略を考えるべきである。また，Amazon等のネット書店での入手可能性の向上，協会でもオンラインストアを立ち上げ，会員への直接の販売等，販売力の強化にも力を入れたい。出版部と出版委員会，理事会が連携して出版事業のてこ入れを進めていきたい。

存在感を高める法人運営についてだが，基本的に公益法人の経営は収益に見合う事業を行う形になる。収益が減ればそれに合わせて事業規模も縮小していかなければならない。そうすると，協会のアウトプット・アウトカムも低下し，協会の存在意義が問われることにもなりかねない。財務における中長期計画を策定し，今後必要となる経費を踏まえた上で収益増に努め，最終的にアウトカムを高めるような積極的な事業展開も考えていかなければならない。協会の存在感を高め，会員も増えていくプラスのスパイラルになるような戦略・サービスが求められる。

〈主な意見など〉

**松本監事**：分析全体としては適正な分析であると考える。今年度赤字決算となったため，いろいろな比率が少しずつ悪化している。長期借入金の返済計画によると，2025年度で借入金の返済が終わるので，本来はこの借入金の返済が終わった後に設備のリースが開始する方が望ましいが，設備の老朽化により，長期借入金の返済と数年間被り，資金的にかなり負担がある。借入金の返済が終わっても，建物の老朽化による改修等が待ったなしであり，金額によってはまたリースになる。リースは事実上の借入金であり，これからしばらく続いていかざるを得ない。

出版事業はネット社会の中で困難ということで，ある程度やむを得ないと思うが，それに適応した事業の見直しができるとよい。基本的には収益の範囲内でしか事業は行われないというのが現実である。

貸借対照表を見ると，現金預金が約２千万円残ったが，年間の事業費がおよそ２億４千万円であるので，約１か月分のキャッシュがあるということになる。これはキャッシュとしてはかなり厳しいところに来ている。

**末次**：「存在感を高める法人運営」の最後に「プラスのスパイラルになるよう戦略策定を行っていきたい」と書いてあるが，何か具体的なプランは立案されているか。

**理事長**：執行部では協会の運営の進め方，全国図書館大会のあり方等，協会の組織と運営について根本的に見直す必要があり，集中的に協議を進めてきている。一部についてはプロジクトチームを起こす，あるいは業務執行理事でもう少し戦略を練る等，現在整理をしている。財務を中心とした中長期計画がもう少しで出来上がるため，それに合わせ活動についての見直しを行っていくことになる。基本は協会としての存在感を高め会員を増やし，出版や研修での収益を増やすことを目指すことになる。

**末次**：一部現在進行中ということで承知した。

## 議　事

**第１号議案　図書館関係地方交付税についての要望の見直しについて**

理事長より以下の説明があった。本法人では，これまで８月１日付で文部科学大臣，総務大臣，図書議員連盟，学校図書館議員連盟宛てに「令和６（2024）年度予算における図書館関係地方交付税について（要望）」等を提出してきた。これは，図書館の存在意義を確認するとともに非正規雇用職員の増加等の課題を挙げ，図書館関係予算を増額してほしい旨の要求である。公共図書館，学校図書館に対する要望として，一定程度の目的は果たしてきたと思われる。しかし地方交付税の算定，地方財政計画がもっと早い時期に策定されることもあり，そのタイミングでの提出はあまり効果的ではない。

また，内容についても，もう少し絞ってより効果的に戦略の再構築を行いたいと考えた。文部科学省（以下，「文科省」という）や総務省等との意見交換も必要であり，今年度は８月１日付の要望を発出しないこととした。

続いて，資料に基づき事務局長より以下の説明があった。昨年度の要望事項等は，「１　会計年度任用職員等の非正規職員の適正な任用等について」，「２　デジタルによる図書館の環境整備の充実について」，「３　公立図書館関係経費の改善」，「3.1　地方交付税における基準財政需要額の充実」，「3.2　公立図書館への正規の専門職員の配置」，「3.3　図書館協議会経費の充実」，「3.4　図書館への指定管理者制度の導入の是正」，「3.5　視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る経費の新設」，「４　学校図書館関係費の改善」，「4.1　学校図書館図書費の措置」，「4.2　特別支援学校の学校図書館の整備」，「4.3　学校司書配置の改善」となっており，地方交付税とは直接関係のないような事項も含まれていた。

今回見直しを行いたい点としては，まず提出のタイミング，提出先と要望すべき事項の精査である。提出先ごとにふさわしい要望事項として，これまで提出していなかった地方自治体にも新たに要望を提出する検討も必要となる。提出のタイミングについては，地方交付税に関しては，当該年度の地方財政計画が前年度２月に公表され，それを受けて基準財政需要額の単位費用が改訂される。総務省は，当該年度の普通交付税の交付額を７月中（2023年度は７月28日）に決定している。

地方自治体の翌年度の予算編成は，通常10月から行われる。よって，これまで８月に提出していたタイミングを検討する。また，これまで同一内容で４箇所に提出してきたが，その提出先と要望事項が合致しているかを精査する必要もある。加えて，これまで地方自治体への要望はしてこなかったが，最終的に図書館の予算を決めるのは地方自治体である。自治体への要望も必要かと考える。図書館資料と地方交付税に関連して要望する事項，会計年度任用職員制度，指定管理者制度等の課題を適切に分けて要望することも検討する。

見直しを進めるにあたり，地方交付税制度の概要等について知識を深める必要があるため，勉強会を開催したい。まずは理事を対象に，できれば10月中で，講師として総務省の地方交付税担当の総務省自治財政局

交付税課交付税第二係の方に依頼をしているところである。

令和６年度の地方交付税の図書館関係事項算定額については，市の小学校の場合，需用費等の中に学校図書館図書として70万４千円が計上されている。報酬の中に学校司書（会計年度任用職員に該当する職種）として，133万６千円となっている。中学校も同様に需用費等の中に学校図書館図書91万６千円，また，報酬の中に学校司書127万９千円の記載がある。図書館費の需用費等では，図書，視聴覚資料購入費等として3313万８千円が算定されている。これらの金額がこのまま地方交付税として配付されるわけではなく，実際に自治体でどれだけ予算化がなされるかは，自治体によってまちまちである。

これらの地方交付税制度について，十分に承知した上で効果的な要望を行っていくため，今年度その検討を行いたい。

質疑や意見の確認の後，全員の賛成により異議なく承認された。

〈主な意見など〉

**高橋**：資料の学校経費の新聞配備経費は学校図書館に関わるものなのか。

**事務局長**：定かではないが，ここに項目立てされているということは，整備基本計画に基づいた予算措置であると思われるが，確認しないとわからない。

**巽**：新聞を一校に二紙配付するのが望ましいと出ている。

**理事長**：それは，「学校図書館図書整備等５か年計画」（以下「５か年計画」という）が第６次で新聞の複数配備が強化項目になっており，別枠として配られている。そのため，地方交付税の中に算入されているのかも正確にはわからない。５か年計画は第６次もやっており，定常状態になっている。特別に予算がついている認識がなく，使用率が50％にも満たない。自治体の別の懐に入ってしまっていることが，大きな問題の一つではある。

**巽**：堺市の場合は図書については地方交付税で下りてくるものはそのとおりに使っている。

**事務局長**：文科省の整備計画で予算化したとされているが，どういう形で配分されているのか，おそらく紐付き予算という形ではなく，地方交付税の中に含まれているのではないかと考えられる。文科省も実際にどれぐらい使われているか調査をしているということもある。そのあたりも含めて情報を集めた上で，どのような要望をしていくのがいいのか，もう一度一から考えないと効果がない。

**高橋**：７月22日の常任理事会で初めて聞いて驚いた。ずっと５か年計画を根拠に考えていたが，この地方交付税の算定額の中では，学校司書が会計年度任用職員として規定されていると初めて知った。なぜ総務省が会計年度任用職員だと考えているのか。

**事務局長**：文科省にも改めて確認は必要かと思う。適切な算定のしかたを要望しなくてはいけない。

**平形**：時期的な問題であるが，予算編成を各図書館９月には行っている。早めに現場でこの実態を把握して予算に結びつける材料とできるように協会も率先して情報を共有してほしい。

**理事長**：おっしゃる通りである。要望とは別に，それぞれの図書館に対して，実際の配分額をお知らせし，図書館の受けている配分経費とを改めて見比べてもらうようなことも必要だと考えている。

**事務局長**：適切なタイミングで適切な情報を踏まえて，要望や図書館に対しての情報提供をしていきたい。今年度は間に合わないが，今後そのための検討をこの理事会で行っていきたい。

**高橋**：勉強会については，対象は理事ということだが，部会幹事は参加できないか。

**事務局長**：今後は，部会・委員会，最終的には会員も含めた講習会のようなものを開催していくことも必要だとは考えるが，まずは理事の中でよくこの地方交付税について理解するところから始めたい。

## ■報告

### 報告１　2022-2025年度代議員（個人会員選出及び団体会員選出）補欠選挙の実施について

曽木常務理事兼総務部長（以下「総務部長」という）より，資料に基づき以下の報告があった。

2024年度は理事の改選前の年度であり，今年度中に代議員の補欠選挙を行うことになっている。現在欠員が生じている愛知県選挙区と奈良県選挙区，地域図書館団体の選挙区において，補欠選挙を行う。

選挙管理委員会が７月31日に開催され，補欠選挙の公示内容と日程が決定されている。2024年９月５日に公示を行い，協会Webサイト及び『図書館雑誌』９月号，JLAメールマガジンでお知らせしているのでご確認いただきたい。

### 報告２　Webサイトのリニューアルについて

事務局長より，資料に基づき報告があった。現在の協会Webサイトには次のような問題点がある。(1)閲覧者が必要とする情報にたどりつきにくい。(ア)深い階層に掲載されている。(イ)利用する側の視点に立ったカテゴリー区分となっていない。(ウ)サイト内検索のヒット率が低い。(2)現在，主流となるアクセスツールである，スマートフォン等モ

バイル端末への対応ができていない。(3)Webアクセシビリティへの対応が十分ではなく，障害者等のアクセスに支障がある。(4)更新されていない古い情報のページが残っている等，管理運営の問題もある。

これらの問題への対応を行うとともに，情報発信力を高め協会のイメージアップを図ることを目的として，リニューアルを行いたい。現在の検討イメージを資料に示す。

リニューアルにはホームページを構築する初期費用と維持していくためのランニングコストがかかるが，ランニングコストについては現行よりも安くなるよう考えたい。現在複数の業者と打ち合わせを行い，見積もりを徴収しているところである。初期構築費用は100万円を超える契約になり，別途サーバーレンタル製品も毎年かかることにはなるため，定款第36条第1項により，理事会にてご報告をさせていただく。

〈主な意見など〉

**小川**：このWebサイトのリニューアルを通して，施設会員にとってのプラスの効果も検討していただきたい。施設会員としてこのWebサイトが役に立つ，使ってもらえることを考えたい。先日，NHKの「ドキュメント72時間」で石川県立図書館が紹介されていて，周りでも反響が大きかった。やはり映像はより理解力が高まるコンテンツだと思った。各図書館はYouTubeを通して情報発信等されているが，そのYouTubeコンテンツのポータルサイトがない。そういった公共施設が発信する映像情報を一括して見られるようなものがあれば良いと感じる。

**事務局長**：おっしゃる通りだと思う。現在もある図書館リンク集は引き続きわかりやすい形で提供できるようにしたいと考えていたが，他にも映像コンテンツ等を協会が集約してポータルとして提供するということも大切なことかと思う。リニューアルの検討材料とさせていただく。

**高橋**：検討案を見ると，現在ある部会・委員会のメニューがトップにない。これまでは部会・委員会のページにアクセスしやすく，それぞれのページに情報を掲載していたが，この案ではアクセスしにくいと思う。

**事務局長**：現在は，部会・委員会のページからたどらないと必要な情報にアクセスできない。例えば，ステップアップ研修の情報を見ようと思うと，研修事業委員会のページをたどる必要がある。逆に今回考えているのは，協会から今発信したい情報にすぐにアクセスができて，それが部会・委員会のページにリンクしていく形のイメージである。

**深水**：現在のWebサイトはコンテンツ内容がかなり複雑で内容も多い。実際に構築をしていただける業者にどれだけ細かく伝えられるかがすごく難しいと思う。そのためには，協会のことを熟知していて，どの情報がどれだけ必要なのかをきちんと判別できないと良いものができないと思うが，実際に動くとしたらどういう方々か。

**事務局長**：現在，事務局職員数名で検討チームを作り，Webサイトの構成や情報発信の方法等を検討している。検討チームで案を練った上で，皆様からいただいたご意見も踏まえて業者と打ち合わせをしながら，プロの目からもご提案いただいた上で，最終的に作っていきたいと考えている。また，部会・委員会にもご協力いただくことになるのでよろしくお願いしたい。

**報告4　「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」について**

事務局長より，資料に基づき以下の報告があった。文科省より「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」を立ち上げるということで，委員の推薦依頼が7月下旬にあった。

検討事項としては，「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年度告示）」（以下「望ましい基準」という），「学校図書館ガイドライン（平成28年通知）」，「学校図書館図書標準（平成5年通知）」の見直しだと聞いている。

また，検討の方向性としては，(1)学校，家庭，地域の連携による社会全体を通じた読書環境の充実，(2)近年の社会変化等，図書館及び学校図書館の運営やサービス等に求められる新しい視点や内容，(3)図書館・学校図書館の運営上の諸課題への対応等だと聞いている。

この有識者会議の検討内容は公共図書館・学校図書館にまたがっており，協会を代表しての発言となることから，公共図書館・学校図書館の両方に精通している学校図書館担当の業務執行理事である総務部長を協会から委員として推薦している。

第1回目の会議は10月25日に予定されているとのことである。必要に応じて，特に学校図書館部会や公共図書館部会等，関係する委員会等にもご意見を伺い，適切に協会として対応し意見を述べていきたい。

〈主な意見など〉

**巽**：意見があるときは曽木理事に言えばよいのか。理事会での報告を待っていては遅いと思う。

**事務局長**：今後どのようなスケジュールでどういうテーマで進んでいくかがまだわからないが，適宜ご意見をいただける形にしたい。

**理事長**：有識者会議ごとに違いはあるが，議事録等がどの程度出されるか等も第1回目を経てみないとわからない部分もある。

**事務局長**：会議が重ねられていく中で，文科省が考えている検討内容に合わせて適切に意見を述べていかなければならない。ご意見をお伺いする時間がどれだけ取れるかはわからないが，情報が入り次第共有させていただいて意見をいただき，実際の会議の場で発言していく形にしていきたい。

**巽**：委員は決まっているのか。

**事務局長**：まだ公表されていない。

**高橋**：学校図書館ガイドラインも学校図書館図書標準も，何が問題なのか私の方である程度把握はしているが，「望ましい基準」に関しては，公共図書館サイドではどういう見解でいらっしゃるのか。問題点等は整理されているのか。

**鈴木副理事長**（以下「副理事長」という）：特に改めて議論はしていないが，おそらく考えられるのは，障害者差別解消法の流れから，読書バリアフリーの問題が検討の一つになる可能性はあると思われる。もともとは公共図書館だけに限った「望ましい基準」だったところに，私立図書館も含まれたことについても議論があるかもしれない。

**高橋**：新しく加わる分については，読書バリアフリー法や電子書籍について等であるとは思うが，今現在の「望ましい基準」について，どこが問題なのかということは，公共図書館の側としては特にないということか。

**事務局長**：図書館政策企画委員会としてはいかがか。

**高橋**：そういうふうに聞いてみたことがない。

**副理事長**：「望ましい基準」については図書館政策企画委員会でも議論して発信したと思うが，「望ましい基準」をどうやったら活かしていけるかという，使い方の部分であったように思う。

**田村**：公共図書館部会でもまだ議論はしていないが，私自身も「望ましい基準」をどう活かしていくかということだと考えている。

**山本**：現在の検討の方向性の中に，いわゆる在住外国人，多文化サービスのことがあまり書かれていない。ガイドライン等からは外れることかもしれないが，可能であれば話題にしていただけると良いかと思う。

**植村**：視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会の座長代理の立場もあり，図書館については相談を受ける。その中でも今回の改正は読書バリアフリー法への対応は大きなテーマだと思っている。日本語が母語ではない人たちの大きなテーマにもなっているので，何らかの形で盛り込んでいければと思う。一方懸念しているのは，図書館現場の過度な負担にならないことである。予算措置とセットになるよう視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会の中では主張してきた。ただ，やはり障害者差別解消法も含めて，その一番の窓口になるのは行政ではなく，特に読書に関しては図書館であるという考え方は，ある程度理解されてきているので，もっとその役割として活動・活躍できる方向性の議論になれば良いと思う。

### 報告５　「本の未来と読者を考える書店・図書館等による連携協議会」について

事務局長より，資料に基づき以下の報告があった。昨年度開催した「書店・図書館等関係者における対話の場」を受ける形で，第一回の「本の未来と読者を考える書店・図書館等による連携協議会」を８月７日にオンラインで開催した。座長には，京都橘大学の嶋田学先生が選出された。

今年度の取り組みとしては，実践事例の普及実践と必要な予算の確保，拠点と図書館との在庫連携システム，書店と図書館の連携・共同イベントの開催，図書館本大賞（仮称）の創設等を考えているため，四つのプロジェクトを設置することが会議で了解された。ワーキングチームを立ち上げ，具体的な取り組みを始めていくこととしたい。

協会としても，この協議会の事務局を務めるということで，これからの読者を増やすということ，図書館資料費の確保，これらを書店・出版社とともに行っていくことに力を注ぎたいと考えている。メンバーは，日本書店商業組合連合会，日本書籍出版協会，作家，日本図書館協会からは理事長と植村理事，有識者として嶋田先生，オブザーバーとして文科省が入っている。メンバーについては今後また追加されることもあるかと思う。今後も進捗に合わせて報告していく。

### 報告６　第110回全国図書館大会長崎大会について

副理事長より，資料に基づき申し込み状況等について報告があった。会場参加はすでに申し込みを締め切っているが，オンライン参加は申込み枠がまだかなりあるので，参加の呼びかけをお願いしたい。現在の申込者数は，当初の見込みの半分以下である。

大会は11月30日と12月１日に行うが，12月１日の大会終了後に会員のつどいを検討している。会員のつどいと言うと会員限定になってしまう傾向があるので，できればこれから会員になるという方も入れるような形のつどいを現在検討している。長崎県庁内の会議室を会場として，九州・沖縄地区の末次理事とも相談しながら進めている。

〈主な意見など〉

**末次**：主に会員・非会員含め交流できる会ということで計画をしている。ちょっとした触れ合いの場として，知り合いを増やすきっかけを作れればと思っている。周知されたらぜひ宣伝していただければと思う。

また，図書館災害対策委員会としても分科会で参加をしており，オンラインでの分科会で，録画配信を予定している。被災地からの報告もあるので，ぜひこちらも宣伝していただけるとありがたい。

**理事長**：参加者の予定数は現在の約３倍であり，このままでは大幅な赤字になる。ぜひ，オンラインでの参加者を増やすべく，お声掛けいただきたい。

### 報告７　第111回全国図書館大会愛媛大会について

担当理事である成瀬理事より以下の報告があった。正式の実行委員会の立ち上げは，来年度ということだが，準備委員会がすでに２回開催され，参加している。

日程は2025年10月30日～31日の２日間で確定した。まだWebサイト等には掲載されていないが，なるべく早い段階から告知をして皆様にご予定をいただきたい。

今年の長崎大会よりも１か月早い開催となる。年度が明けてから実行委員会を立ち上げても実施までの時間が非常に限られるため，今年度のうちからさまざまなことを詰めていきたい。

また，開催期間中には愛媛県立図書館が耐震化等の工事のため閉館することになる。加えて，来年の図書館総合展が愛媛大会の前の週に開催される。双方の都合上，致し方ないことではあるが，それもあって，全国図書館大会の告知をなるべく早く始めて，一人でも多くの方に松山に足を運んでいただきたいと考えている。

愛媛大会は完全な対面開催を予定しているが，複数の会場での分散開催となり，アクセスの不便さもある。分科会の開催は，公共図書館，大学・短大・高専図書館，学校図書館，児童サービスの分科会は開催県が準備をして，それ以外の分科会は協会で準備を進める形が基本となっている。愛媛大会は現地の前述のような状況もあり，第３分科会の学校図書館と第４分科会の児童サービスを合同で進めることとしている。加えて，それ以外の分科会についても，これまでは日本図書館協会の部会・委員会を中心に設定して実施運営をしてきたが，今回は一つのエリアにたくさんの分科会の会場を確保できないという事情がある。会場として予定している文化施設，愛媛大学，私立学校はそれぞれかなり離れており，離れた中でたくさんの分科会を開催すると非常にアクセスが悪い。現地では現在そのエリアを往復するバスをチャーターして移動の便を図ることを考えているが，これまでのような分科会数の実施は事実上不可能であり，分科会の数を大幅に絞ることを検討している。これについては，部会長・委員長会議でご報告のうえ，分科会をテーマ別に絞るということをご相談したいと考えている。今回は会場の都合もかなり大きいが，これから先の全国図書館大会のあり方を検討する上でも分科会は大きなウェイトを占めている。今回試みてみて，これから先の進め方について検討していく契機にしたいとも考えている。

〈主な意見など〉

**末次**：分科会の数について，ある程度すでに想定をされているのであれば伺いたい。

**成瀬**：まだ具体的には決まってはいない。現在は，細かく会場を押さえている状態であり，これから詰めていきたい。

**末次**：今回，長崎大会が一部対面で残りの分科会はオンラインの録画配信であるが，そのようにオンラインを一部導入するというアイデアはあったのか。

**理事長**：愛媛大会では基本対面で，オンラインに人員と経費をかけるということができず，今回の長崎大会のようにはできない。

**成瀬**：コロナ禍でオンラインを使った大会運営もいろいろ試してきて，オンラインの方が運営する側と参加する側の双方にとって良いという点もあった。そのため，たとえば，メイン会場は対面にして，対面の方が良いと思われるテーマについて愛媛で開催し，例えば，やや専門的なテーマに関しては，必ずしもその大会の期間中にその大会会場で行うことにこだわらずに，別途オンラインや後日配信等，実施方法を分けても良いのではないか。そうした点も含めて，検討したい。

**巽**：学校図書館と児童サービスを一緒に行うということだが，全国的にも現場の関心が高いテーマなので，動員力でも大きいと思う。それを合体するというのは，やはり会場の都合なのか。できれば，別々に分科会を持った方が良いと思う。

**成瀬**：学校図書館と児童サービスを一緒に実施するのは，愛媛県側からの強い要望である。会場の都合というよりも，一つはその運営の事情である。例えば丸一日を使って，午前中は両方にかかるような分科会の中の全体会を行い，午後はテーマごとに分けるという運営が可能かと検討されている。

もう一つは，学校図書館の関係者と公共図書館の中で児童サービスを担当されている方々が日頃から意外と交流がないため，一緒に分科会を

やることによって，愛媛県内の両者の関係性を深めたいという希望も聞いている。

**高橋**：学校図書館の世界の中でも，読書センター，学習センター，情報センターと言うが，読書センターだと思っている人が圧倒的に多い。しかし，学習センターでもあり情報センターでもある。授業で使える学校図書館情報センターということは，ICTもきちんと取り入れてデジタル情報も提供する学校図書館であっての読書センターだと思っているが，児童サービスはどう考えても中心は読書である。学校図書館を同じく読書だけだと捉えられているから，児童サービスと学校図書館を一緒にするのか，と感じた。そういう観点から言うと，いかがかと思う。

**成瀬**：この件は現地の意向であるので，私の立場としてはその運営を応援したい。今のご懸念は承るが，現地では学校図書館の方も児童サービスの方も皆さん賛成されていると聞いている。これをきっかけに，一緒に，愛媛県内に限ることではないが，子どもの読書や学習も含め，一緒に考えていこうとされている。

**理事長**：この全国図書館大会については，開催県の実行委員会がある程度権限を持っているのはご承知の通りである。まだ準備委員会の段階であり，今後さらに協議を詰めていきたい。

### 報告８　能登半島地震第２回現地調査について

副理事長より，資料に基づき以下の報告があった。図書館災害対策委員会では，８月23日（金），24日（土）の二日間，能登半島地震で被災した図書館の現地調査（第２回）を行った。訪問した図書館は，石川県立図書館，輪島市立図書館（以上，23日），志賀町立図書館・志賀町立富来図書館，穴水町立図書館，七尾市立図書館（以上の図書館は石川県内の公立図書館），富山県氷見市立図書館（以上，24日）の７館である。

今回の訪問の目的は，被災した図書館の発災時の様子，現段階での復旧状況を確認すること，支援が必要な場合はどのような支援が必要かについて，委員会内で共通認識することにあった。なお，この調査後に大雨の被害があり，この報告は現在の状況より少し前のものになる。

①輪島市立図書館：前回に引き続き２回目の訪問で今回は協会理事長と石川県立図書館長が同行した。現在の建物は，電気，水道等は止まったままで，「道の駅輪島ふらっと訪夢」１階で仮設運営している（５月13日～）。従来の建物は解体の方向，移転先等も検討している。今後それらが決まった段階で資料保存や移動について人的支援が必要になる。

②志賀町立図書館・志賀町立富来図書館：両館とも２月１日から開館。町立富来図書館の被害が大きいと聞き，急遽訪問した。町立図書館ではデジタルアーカイブを視聴する環境としてPC２台の要望があり，公益社団法人リース事業協会から支援いただいた。

富来図書館ではドミノ倒しになった小説の書架の本がほぼ落下，書架を戻すのに消防団員10数人で対応，本の書架への戻し・廃棄・修理で１月一杯作業した。今後堅固な固定が求められる。

③穴水町立図書館：地震発生後約300人の避難所と，資材置き場になっていて開館できなかった。７月10日に一部開館。図書館の半分のエリアがまだ使えない状況。図書館司書のスタッフがいないため，図書選定や運営に困っている。協会の職員募集の周知方法などを案内した。

④七尾市立図書館：３月から再開館。ミナクル（皆来る）という施設の３階に図書館がある。書架は倒れなかったが，資料はすべて落下した。BM書庫としている旧北嶺中学校のスチール製書架はほとんど倒れ，２週間で立て直し，復旧させた。１月～２月まで休館した。心のよりどころとして早く開館したいと思っていた。図書館友の会は2020（令和２）年で創立50周年，平成の初めには1,000人規模の会員がいた。

⑤富山県氷見市立図書館：氷見市教育文化センター内に中央公民館，市立博物館，市立図書館がある。１月12日から再開館した。図書館（築28年）や移動図書館車（運行28年）の経年劣化の対応が急務である。３月中旬まで職員は災害支援しながら開館した。施設周辺に液状化・断水・空調の不調（６月下旬から７月下旬）などの被害があった。電動集密書架に漏電の可能性（配線への被害によるか）もあった。また駐車場では30cmのくぼみが翌日には１m以上に陥没し現在も駐車場が一部使用不可であった。受水槽の破損で隣接のBM車庫が浸水，床置きの図書100冊以上処分した。集密書架の薄い資料類が下部隙間に挟まり，破損した。

なお，今回の現地調査には，加藤孔敬，川島宏（８月24日のみ），熊谷慎一郎（８月23日のみ），鈴木史穂，鈴木隆の５名の図書館災害対策委員会の調査委員が参加した。加えて，輪島市立図書館には，植松理事長と田村石川県立図書館長にもご同行いただいた。

〈主な意見など〉

**末次**：この現地調査の報告をまとめようと思っていたところで，大雨の被害が出てしまった。地震の後の大雨の複合災害について，我々もさらに学び，支援・発信につなげていきたい。

また，この現地調査の様子は映像

を交えて，全国図書館大会の図書館災害対策委員会の分科会で報告をする予定なので，ぜひご覧いただきたい。

**田村**：輪島市立図書館に同行させていただいた。先日の水害については現在状況を確認中ではあるが，県内の相互貸借は変わらず動いている。輪島市については，輪島市立図書館と輪島市立門前図書館は大丈夫であったと聞いている。もともと輪島市立図書館は隣接する道の駅でブックトラックを運び込んで開館している状況であったが，そこについての被害はなかった。ただ，今後商業施設に仮設図書館を開設する準備を進めていたが，その商業施設が泥水を被ってしまったと聞いている。また，輪島市立図書館の中で半島の一番先端に近い町野分館が書架の一段目まで水没した。ここは地震の被害が大きかったところで，なかなか再開できなかった。8月1日に再開したが，再開した直後にまた泥水に浸かってしまったと聞いている。それらの資料をどうするか，これから県立図書館の方でも対応していく。場合によっては協会にご相談することもあるかもしれない。いろいろと協会にはお世話になって感謝している。引き続き，よろしくお願いしたい。

**理事長**：私も同行したが，8月になってようやく今後の方向性が輪島市からも示され，そこに向けて準備をすると相当意気込んでおられた矢先に，この度の大雨の被害であり，心配をしている。今回現地調査された図書館災害対策委員の中で，熊谷氏，加藤氏，鈴木史穂氏は，東日本大震災の被災館として奮闘された経験をお持ちであり，輪島市で新しい仮設図書館を検討されるにあたっても具体的にアドバイスをされていた。そうした経験がデータベース化されていくと良いと感じたところである。図書館災害対策委員会も含め，石川県立図書館からも情報を収集しながら，協会としてどのようなことができるかということを考えていきたい。

**報告9　その他**

○会員数の現状について

総務部長より，資料に基づき以下の報告があった。8月末日現在の会員数の報告である。個人会員は2,568，施設会員が2,141，団体会員が14，賛助会員は53，準会員は15であり，全体4,777となっている。昨年の同月に比べると10の減少となった。都道府県別の報告を昨年のこの時期の理事会から開始したため，今回前年同月比を出せることとなった。

都道府県の増減については，必ずしも退会ではなく，県外への異動もある。注目すべきは，神奈川県の個人会員が去年よりも10人増えている点である。また，各地区の代議員，理事，県立図書館の会員の方々が入会案内を配ってくださったとも聞いている。それをきっかけに新規会員が増えたこともある。これから11月に図書館総合展や全国図書館大会などで協会を知っていただく機会も増えてくるため，皆様方にも引き続きお声かけ等をお願いしたい。

〈主な意見など〉

**末次**：入会可能な時期や手続きについて，改めて確認したい。通年いつでも入会は可能であるか。会費の月割りなどはあるか。いつから会員としてカウントされるのか。

**事務局**：通年いつでも入会申込を受け付けているが，会員期間は4月～翌年3月の事業年度ごととなっている。どのタイミングでご入会いただいても，4月から翌年3月の年度単位での会費をいただく形になる。『図書館雑誌』は，4月号からさかのぼってご入会時にお送りしている。ただし，個人会員Aに限り，希望により10月入会も承っている。10月入会の場合は，初年度の会費が半額になる。月割り制度については現在はない。ご入金日を入会日として，常任理事会での承認を経て会員としてカウントしている。

○学校図書館の部会報について

高橋理事より以下の報告があった。部会報7月発行の最新号を理事会で配付している。協会Webサイトの部会ページにも掲載しているのでご覧いただきたい。今回の特集は，「高校の非正規雇用職員の現状　その2」である。高校においても確実に正規職員が減って非正規雇用の学校司書が増えている実態を掲載している。

○学校図書館職員雇用状況調査について

高橋理事より以下の報告があった。非正規雇用職員に関する委員会で実施した「学校図書館職員雇用状況調査（個人対象）」が現在集計中であり10月に公表予定である。自治体対象の調査の概要版をまとめ，9月11日に委員会ページにて公表している。

○図書館の非正規雇用改善のための連絡会の今後について

高橋理事より以下の報告があった。図書館の非正規雇用改善のための連絡会の今後の活動として2点ある。会計年度任用職員の雇用止めの時期であるので，11月末ごろにアピールを出し，1月頃に集会を開催する予定である。また，学校図書館職員雇用状況調査がまとまった段階で，今年度中に提言を出す方向で検討している。

＊

**閉会宣言**

理事長より，閉会が宣せられた。

公益社団法人日本図書館協会
2024年度通算第２回（定時第２回）理事会
配付資料

資料１　図書館関係地方交付税要望書の見直しについて（掲載省略）
資料２　図書館資料費確保にむけた地方交付税制度についての勉強会（掲載省略）
資料３　2022-2025年度代議員（個人会員選出及び団体会員選出）補欠選挙の公示（掲載省略）
資料４　協会Webサイトのリニューアルについて（掲載省略）
資料５　2023年度財務分析報告書（本誌p.740-744）
資料６「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」について（掲載省略）
資料７「本の文化を守る書店・図書館等による関係者協議会（仮称）」第１回全体会　議事次第（掲載省略）
資料８　参加申込状況について（第110回全国図書館大会長崎大会）（掲載省略）
資料９　能登半島地震被災地の図書館の第２回現地調査の報告（図書館災害対策委員会）（掲載省略）
資料10　会員数一覧（掲載省略）

＊　＊　＊

## 2023年度　財務分析報告書

2024年９月
公益社団法人　日本図書館協会

### １　財務分析の基本方針

**○基本方針**

この財務分析は，定量的な収支状況を中心に分析し，今後の留意点を注記することにより，次年度以降の本法人財務の健全性・安全性・収益等についての視座を得ることを目的とする。

財務分析にあたっては，分析データは貸借対照表・正味財産増減計算書・財産目録等とし，定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分および財務分析の指標に基づく分析方法を基本とした。

なお，分析にあたって，定量的な経営判断・財務分析上の指標については，継続性の観点から前年度に引き続き，公益法人の一つである学校法人を対象とした「私立学校運営の手引き」（日本私立学校振興・共済事業団，2023（令和５）年３月改訂版）における財務分析方法を参考とした。

### ２　2023年度の財務分析指標と財務分析結果

**○財務分析指標**

経営状態の分析として，財務経営の健全性・安全性・収支状況を確保する観点から，（１）流動比率　（２）経常収支差額比率　（３）人件費率　（４）外部資金依存率を財務分析指標とし経営状態の分析を実施した。

**＜財務分析指標の分析結果＞**

（１）流動比率

流動比率とは，１年以内に支払うべき債務を支払う財源を確保しているかを判断する指標であり，企業等においては100％以上であって高いほど理想とされている。流動比率100％以上であるということは，短期的な支払い能力が支払い義務を上回り，支払い余力があるということになる。本法人の貸借対照表より単純に算定をすると，本法人の流動比率は272％となる。しかし，これは流動資産に棚卸資産を含んだ数字であり，会計上棚卸資産は流動資産ではあるが，本法人の棚卸資産は出版物の在庫であり，それらは知識の普及という観点から短期間の完売を目的とせず長期的な販売に備えて保有しているもので，一般的な流動資産としての商品とは異なる性質を持つ。そのため，本法人の財務分析という観点からは棚卸資産を除いて算定する方が適切と考えられる。棚卸資産を除外すると本法人の流動比率は123％となり，前年度から５ポイント減となり，流動比率は２年度連続で若干の悪化となった。その主な要因は，前期に比べて流動負債は減少したが，現金・預金がそれを上回って減少しためである。

□算式
流動資産÷流動負債×100＝流動比率
94,202,061円÷34,581,964円×100＝272％（昨年度261％）
42,383,675円÷34,581,964円×100＝123％（棚卸資産を除いた場合）（昨年度128％）

（２）経常収支差額比率

単年度の収支状況の指標は，経常収支差額比率でチェックすることになる。

経常収入とは，負債を伴わない経常的な収入を指し，個人でいえば年収，企業等法人でいえば年商に置き換えられる。本法人においては，正味財産増減計算書の経常収益（会費・事業収益等）になる。

一方の支出は，個人でいえば生活費等の消費支出，企業等法人でいえば損益計算書における費用に置き換えられる。本法人においては正味財産増減計算書の経常費用にあたる。つまり経常収支差額比率とは，個人でいえば

年収の範囲内に生活費がおさまっているのか，どの程度生活に余裕があるかを表し，企業等法人でいえば損益ベースの利益率に相当する。なお，本法人においては，経常収益（会費・事業収益等）から経常費用を差し引いて経常収益で除した比率が経常収支差額比率となる。

本法人の正味財産増減計算書より算定すると2023年度は，△6.1％となり，前期に続きマイナスの値となっている。

□算式

（経常収益－経常費用）÷経常収益×100＝経常収支差額比率

（226,783,454円－240,500,763円）÷226,783,454×100＝△6.1％（昨年度△1.3％）

（3）人件費率

本法人の主な収入である会費収入および事業収入において，人件費がどの程度の比率となるか（依存しているか）を示すものが人件費依存率となり，経常収益に対する人件費の比率が人件費率となる。まず，本法人の正味財産増減計算書より，基幹的な収入である会費に対する人件費依存率を算定すると100.7％，事業収入に対する人件費依存率は95.7％であるが，経常収益に対する人件費率は，43.4％となる。学校経営においては，授業料等に対する人件費依存率は当然100％以下であるべきだが，人件費率については，「私立学校運営の手引き」によれば，「50％未満を維持することを目標達成値とし，60％を上限」とされていることから，これに比べると本法人の人件費率はこの基準を満たしていることになる。

本法人の人件費は，2016年度より職員給与の昇給を実施し，また，職員賞与の支給における改善はしたものの十分とは言えず，一方で役員報酬においては一部常勤等の役員を除いて無支給としている状況でもあるが，人件費率については増加傾向にあり，今後に課題を残している。

□算式

人件費÷経常収益×100＝人件費率（対経常収益）

98,441,839円÷226,783,454×100=43.4％（昨年度42.0％）

人件費÷会費収入×100＝人件費依存率（対会費）

98,441,839円÷97,756,500×100＝100.7％（昨年度96.6％）

人件費÷事業収入×100＝人件費依存率（対事業収入）

98,441,839円÷102,836,288円×100＝95.7％（昨年度88.5％）

（4）外部資金依存率

2023年度における長期借入金およびリース債務（主に冷暖房の更新）等期末残額は69,135千円であり貸借対照表より算定すると55.7％の依存率となり前期に比べ低下している。長期借入金等については，返済計画のもと着実な返済が進んでいる。

□算式

（長期借入金＋リース債務）÷（流動資産＋固定資産（土地・建物等除））×100＝外部資金依存率

（13,105,000円＋56,029,508円）÷124,148,793×100＝55.7％（昨年度65％）

なお，今後の長期借入金残額の返済計画については，下表のとおり策定しており，2025年度には完済する。またリース債務については，主に冷暖房の更新（3年計画の1期および2期）によるものでリース期間は9年となる。引き続き本法人の財務負担とはなるが，着実な債務の償還に努めたい。

長期借入金返済計画　（単位千円）

| 年度 | 返済元金 | 借入金残額 |
|---|---|---|
| 2023年度 | 8,340 | 12,410 |
| 2024年度 | 8,340 | 4,070 |
| 2025年度 | 4,070 | 0 |

**＜主な事業の財務分析結果＞**

（1）収益事業の分析（収益―費用）

収益事業等会計から生じた利益は，2,321千円となり，その50％の1,160千円を公益事業へ繰り入れている。

（2）公益事業比率の分析

特に事業収益に対する費用の分析については，公益法人認定法により収支相償および公益目的事業比率が求められている。

1）本法人の収支相償については公益法人認定法第5条第6号により公益目的事業に係る収入がその実施に要する適正な費用を償う額を超えないこととされている。収支相償については適合であり全く問題はない。

□算式

公益目的会計経常収益計　175,419,133円

＜公益目的会計経常費用計　223,646,453円 ⇒ 適合

2）公益目的事業比率については公益法人認定法第5条第8号により公益目的事業比率が100分の50以上となることとされている。本法人の公益目的事業比率は93％で適合であり問題はない。

□算式

93％≧50/100 ⇒ 適合（昨年度93％）

公益目的事業比率＝公益実施費用額÷（公益実施費用額＋収益等実施費用額＋管理運営費用額）×100

93％＝223,646,453円÷（223,646,453円＋2,954,497円＋13,899,783円）×100

（3）公益事業の収支分析

公益事業の収支分析については，研修・出版事業につ

□参考：公益事業の収支分析

（千円）

| 科目 | 職員育成等 | | 調査研究 | 図書館振興 | 震災・災害 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 研修 | 大会 | 出版 | | | |
| 1．経常増減の部 | | | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | | | |
| 事業収益 | 3,512 | 0 | 81,876 | 17,448 | 0 | 102,836 |
| 文部科学省委託事業収益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受取負担金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受取寄附金 | 34 | 0 | 685 | 500 | 2,869 | 4,088 |
| 広告宣伝収益 | 150 | 2,304 | 8,199 | 0 | 0 | 10,653 |
| 雑収益 | 0 | 0 | 11 | 1,164 | 0 | 1,175 |
| 経常収益計 | 3,696 | 2,304 | 90,771 | 19,112 | 2,869 | 118,752 |
| (2) 経常費用 | | | | | | |
| 事業費 | | | | | | |
| 会議費 | 25 | 0 | 0 | 0 | 0 | 25 |
| 活動費 | 0 | 0 | 0 | 2,336 | 0 | 2,336 |
| 旅費交通費 | 968 | 42 | 0 | 526 | 0 | 1,536 |
| 通信運搬費 | 162 | 56 | 7,075 | 14,349 | 0 | 21,642 |
| 消耗品費 | 0 | 0 | 723 | 657 | 0 | 1,380 |
| 印刷製本費 | 49 | 37 | 29,980 | 603 | 0 | 30,669 |
| 期首棚卸 | 0 | 0 | 57,570 | 0 | 0 | 57,570 |
| 期末棚卸 | 0 | 0 | ▲51,818 | 0 | 0 | ▲51,818 |
| 賃借料 | 29 | 0 | 949 | 277 | 0 | 1,255 |
| 諸謝金 | 974 | 0 | 0 | 183 | 0 | 1,157 |
| 原稿料 | 0 | 0 | 2,925 | 0 | 0 | 2,925 |
| 交際費 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| 租税公課 | 208 | 0 | 5,102 | 1,074 | 0 | 6,384 |
| 支払負担金 | 0 | 6,000 | 10 | 1,439 | 0 | 7,449 |
| 委託費 | 0 | 1,227 | 0 | 0 | 0 | 1,227 |
| 手数料 | 59 | 0 | 352 | 58 | 0 | 469 |
| 広告宣伝費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 貸倒引当金繰入額 | 0 | 0 | 69 | 0 | 0 | 69 |
| 災害対策支援活動費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,869 | 2,869 |
| 全国図書館大会事業費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 雑費 | 6 | 0 | 11 | 10 | 0 | 27 |
| 事業費計 | 2,489 | 7,362 | 52,948 | 21,512 | 2,869 | 87,180 |
| 当期経常増減額 | 1,207 | ▲5,058 | 37,823 | ▲2,400 | 0 | 31,572 |

いて，収益性の観点から分析した。ただし，この収支分析においては，経常費用に人件費を含んでいない。（表「参考：公益事業の収支分析」を参照）

1）研修事業について

研修事業については５月に新型コロナウイルスによる制限もなくなり，対面およびリモートにより18件の研修を実施した（昨年度は19研修）。参加者も2,485名（昨年度は1,536名）と件数は減ったが，参加者は約６割増加した。

経常収益は3,696千円（昨年度3,913千円），経常費用は2,489千円（昨年度1,828千円）となり，収支差額は1,207千円（昨年度2,085千円）と対面での開催が増えた分，費用も増加したと思われる。研修事業については，開催方法の工夫や効率的な運営等の検討を進め，協会の重要な事業として充実していきたい。

2）出版事業について

2023年度における出版部数は，①定期刊行物が３種，②単行書等の新刊が14点（昨年度15点），増刷が７点（昨年度13点）と新刊，増刷ともに減少している。収益は90,771千円（昨年度95,708千円），費用は52,948千円（53,585千円）で，収支差額は37,823千円（42,123千円）となり，2022年度に比較して，収支差額は4,300千円の減収となった。収支差額は，２年度連続しての減額となり，出版事業のて

こ入れは急務となる。オンデマンド出版による効率的な刊行やECサイトによる販売の強化等，販売方法の見直し，出版計画の見直し等を進めたい。

3）地域図書館団体活動費

地域図書館団体活動費については都道府県別の会費総額（個人＋施設＋団体）の基礎額を算出し，調整率50％をかけて配分していたが，財務再建計画の一環として2012年度より調整率を25％に下げ，配分額を減額して実施してきた。厳しい財務状況は続いていたが2016年度より徐々に調整率を上げ，2018年度以降は32％としている。2023年度についても，収益の増が見込まれない厳しい財務状況ではあったが，前年度同率（32％）として47都道府県の地域図書館団体に配分し地域団体活動の推進を図り，地域図書館の振興に寄与している。

4）各委員会交通費

委員会開催に伴う交通費の支給については財務再建計画の一環として，2012年度後半より，一部を除き支給を停止していた。委員会の活性化観点から，2022年度から半額支給という形で支給を復活させ，その実績を踏まえて，2023年度は基本的には全額支給とした。オンラインでの委員会開催を進める等の経費節減の工夫は必要だが，委員会活動をより活発なものとするため，必要な旅費の支給は継続していきたい。

5）その他の公益事業について

各活動部会経費に係る事業については，各部会により対面又はオンラインにより実施された。公共図書館部会は全国公共図書館研究集会のサービス部門・総合経営部門を和歌山県立図書館が主管となり対面で，児童青少年部門を県立長野図書館が主管となり対面およびオンラインで開催し，前者の参加者は150名，後者は延べ587名の参加があった。また，大学図書館部会は大学図書館シンポジウム（大学図書館研究集会）をオンラインで開催し，視聴者が605名，学校図書館部会は第51回夏季研究集会東京大会を対面およびオンラインで開催し，合わせて89名の参加があった。図書館情報学教育部会による研究集会は対面およびオンラインで開催され，短期大学・高等専門学校図書館部会によるワークショップも実施されている。

（4）管理費等について

管理費については，コロナ禍が明け，理事会，代議員総会の対面での参加が増えたため，交通費が増加している。一方，会議費については，前年度はオンライン開催のために業者委託を行ったが，2023年度は自力で開催し経費の節減に努めた。

契約にあっては，引き続き，各種契約の見積合わせによる契約額の削減やインターネットバンキングによる振込手数料の削減等により，管理経費節減に努めている。

今後，建物（1998年9月竣工）の維持管理については，老朽化による屋上防水工事，高圧ケーブルの更新，外壁の改修，非常灯の改修，エレベーター改修，LED照明の更新等の経費が必要となる。また，冷暖房設備の更新が2022年度に完了し，これに伴うリース料（年間8,853千円）の負担が発生している。長期借入金の返済およびリース債務の支払いを踏まえた中長期計画を策定し，適切な予算措置，実施に努めたい。

## 3　分析結果の総括

①　2023年度の経常収益は，前年度992千円減の226,783千円（△0.44％）となっている。主な要因としては，引き続き出版事業収益の減によるところが大きい。出版企画の充実だけでなく，既刊本も含めた販売力強化も求められる。『図書館ハンドブック』等定番書籍の定期的な改訂等，中長期的な出版計画の策定が必要である。

また，受取会費においても1,245千円の減となり，減少傾向は歯止めがかからない。会員確保の方策を講ずるとともに，20年以上据え置かれている会費の値上げについての検討もやむを得ない状況にある。

②　2023年度の経常費用は，前年度9,703千円増の240,501千円（4.2％増）である。主な増の要因は，交通費，通信運搬費，支払負担金，委託費等であり，対面での活動が増えてきたこと，諸物価値上がりの影響が出ていることが考えられる。

③　正味財産増減計算書で，当期経常増減額は△13,717千円となり赤字決算となっている。流動資産を見ると，前受会費および未払金の減少による現金預金の減と棚卸資産の減により前年度より減少しているが，決算のタイミングによるものでもあり，流動比率の維持はできており，当面の安全性は確保できている。

④　2023年度末現在の正味財産合計（つまり期末財産額）は，一般正味財産および指定正味財産の合計で，前年度比4,882千円減の829,456千円（0.6％減）となっているが，これは，棚卸資産の5,751千円の減によるものと考えられる。

長期借入金返済額は2025年度9月末で完済となる。しかし，空調機のリース債務の償還は継続し，事業規模を維持するためには収益の確保が必要となるのは変わらない。引き続き，財務基盤の確立に向けて外部資金や寄附金の獲得に努める他，事業の見直しによる収益構造の再編を行い，合わせて効率的な協会運営の推進に努めたい。

## 4　今後の課題

（1）会員の減少について

会員の減少は数年来の傾向であり，2023年度も約1％の会費収入減となっている。個人会員については，個人

会員Aは，840千円の減となっているが，個人会員Bは，246千円の増と，図書館職員の非正規化の影響がここにも伺える。施設会員においては，施設会員Aで550千円の減，施設会員Cで138千円の減となっており，分館の退会だけでなく，中央館の退会も増えている。個人会員，施設会員，さらに賛助会員をも含めた会員増が喫緊の課題であることに変わりはない。それはまた，本法人の公益活動の発展のためにも重要な課題である。会費収益の増を考えるのであれば，20年以上据え置かれている会費の値上げについても検討の俎上に載せることも考えざるを得ない。会員種類の見直し，入会メリットの見える化，さらには協会の魅力づくり等について危機感を持って進めていく。

（2）出版事業の見直し

会費とともに収益の柱となる出版事業についても，安定的に収益を確保できる戦略を検討する必要がある。新刊書の出版企画を練るだけでなく，協会出版物の基本となる，3ツール，テキストシリーズ，『図書館年鑑』，『日本の図書館　統計と名簿』，『図書館ハンドブック』，『図書館用語集』の編集，出版体制の確立も課題である。合わせて，会員への出版物の販売促進，ネット書店での入手可能性の向上等の販売力強化も課題となる。事務局出版部，出版委員会，理事会が連携して出版事業のてこ入れを進めていきたい。

（3）存在感を高める法人運営

公益法人経営の基本としては，収益に見合った事業を行うということになる。つまり，収益が減少すればそれに合わせて事業規模も縮小しなくてはならない。財務再建計画において緊急的に，事業の縮小，賞与，役員報酬の抑制等を行ってきたが，ここ数年の収益減が続く状況で，前向きな事業展開が難しくなっている。しかし，協会のアウトプットの減少，アウトカムの低下が続くと協会の存在意義が問われることにもなりかねない。2024年度は，財務における中長期計画を策定し，今後必要となる経費を踏まえた上で収益増に努め，アウトカムを高めるような積極的な事業展開に挑戦し，協会の存在感を高めることで，プラスのスパイラルになるよう戦略策定を行っていきたい。

＜参考資料＞

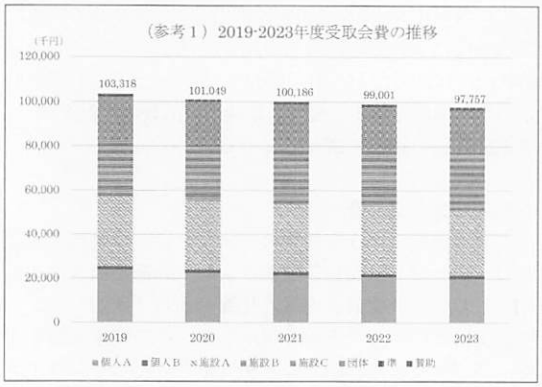
○2019-2023年度受取会費の推移（参考1）

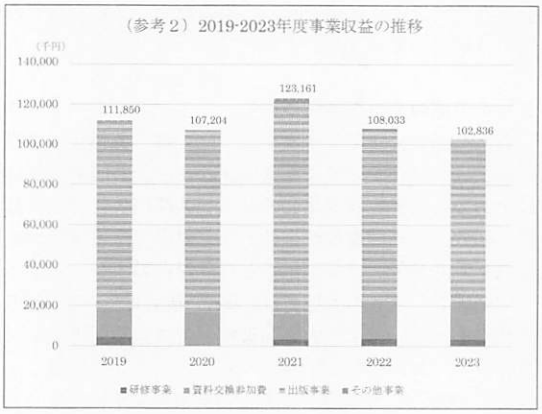
○2019-2023年度事業収益の推移（参考2）

参考資料として2019-2023年度の受取会費および事業収益の推移を掲載した。

本協会の受取会費の減少が，また収益については，年度別の収益の内容が読み取れる。

ともに減少傾向にあり，その対策を講ずる必要があり収入の安定した確保が必須である。



# 協会通信

## 常任理事会

**日時**：10月24日（木）14:00～15:17
**会場**：日本図書館協会504会議室，Web会議（Webでの出席は「W」と記載）
**出席常任理事**：植松貞夫（理事長），鈴木隆（副理事長），岡部幸祐（専務理事兼事務局長兼出版部長），海老根裕（専務理事），植村八潮（常務理事：W），曽木聡子（常務理事兼総務部長），成瀬雅人（常務理事）
**列席理事**：関根美穂（国立国会図書館），田村俊作（公共図書館部会：W），角田裕之（図書館情報学教育部会），深水浩司（専門図書館部会），高橋恵美子（学校図書館部会：W），久野高志（短期大学・高等専門学校図書館部会：W）
**欠席常任理事**：杉本重雄（常務理事）
**列席監事**：中山勝文

＊

**1．会議成立要件の確認**

岡部専務理事兼事務局長兼出版部長（以下「事務局長」という）より，議事に先立って，会場及びZoom上の画面で本人の出席を確認し，出席者が定足数を満たし会議が成立することが確認された。

**2．開会宣言・理事長挨拶**

植松理事長（以下「理事長」という）より挨拶の後，開会が宣せられた。

＊

**〈協議・報告〉**

**1．部会・委員会のあり方検討準備WG（仮称）の設置について**

事務局長より，資料に基づき説明があった。協会をより魅力的なものとし，会員の満足度を高めていくためには，活動の中心となる部会・委員会のあり方を検討していく必要がある。今後，検討すべき課題の整理を行うため，理事長の諮問機関としてWGを設置する。7名以内の委員で構成し，設置期間は今年度末までの予定である。

**理事長**：部会長・委員長会議でも説明したとおり，設置に向けた準備を進めている，今後10年を見すえた財務を中心とした協会の中長期計画によると，会員減に伴う会費収入減，出版物の売り上げ不振，協会会館修繕のための経費負担等により，協会財政は深刻な状況である。協会全体のあり方を踏まえ，協会の活動の中心である部会・委員会を見直すために，その問題点を抽出するための検討WGである。諮問内容について補足すると，部会・委員会の開放性の担保，委員及び部会・委員会自体の新陳代謝，執行部や理事会と部会・委員会との意志疎通などを検討いただく必要があるなどと考えている。

質疑や意見の確認の後，異議なく承認された。

（主な意見など）

**高橋**：7名以内の委員を理事長が指名とのことだが，どのような方を指名するのか。

**理事長**：業務執行理事，部会長・委員長，若手の会員などを想定している。

**2．書店活性化のための課題（案）に対する意見公募について**

事務局長より，資料に基づき説明があった。2024年3月に立ち上がった経済産業省（以下，「経産省」という）の書店振興プロジェクトチームで取りまとめた「関係者から指摘された書店活性化のための課題（案）」（以下「課題（案）」という）に対する意見公募が10月4日から11月4日まで行われている。

この課題（案）で，「書店特有の課題」の一部に取り上げられている図書館関連の課題「10．公共図書館の複本購入による売り上げへの影響」「11．公共図書館での新刊貸出による影響」について，昨年度行われた「書店・図書館等関係者における対話の場」（以下，「対話の場」という）での議論を踏まえ日本図書館協会として意見を示したい。

現在，公共図書館部会，図書館政策企画委員会，出版流通委員会に意見を伺っている。ご意見等あれば，10月30日までにお寄せいただき，取りまとめて意見を提出したい。

質疑や意見の確認の後，最終的な取りまとめは理事長に一任するとして承認された。

（主な意見など）

**深水**：「10．公共図書館の複本購入による売り上げへの影響」における「書店店頭での売り上げ機会を奪っているとの指摘」，「11．公共図書館での新刊貸出による影響」における「書店店頭での売り上げ機会を奪うという意見」の根拠は示されているのか。

**事務局長**：書店振興プロジェクトチームが実施した車座の対話等で書店から出た意見をまとめているだけ

で，客観的な資料に基づいたものではない。

**深水**：指摘の根拠の明示も要望してはいかがか。

**理事長**：「対話の場」で昨年一年間議論されてきたことがまったく反映されておらず，逆戻りの感がある。また，本プロジェクトは大臣交代に伴い今後どうなるか注視する必要がある。

**事務局長**：書店振興プロジェクトチームは，大臣が変わっても引き継がれると聞いている。

**植村**：経産省は書店にしか聞いていない。対話の場では文部科学省が書店と図書館の双方に聞いている。根拠の確認は良いと思う。

**理事長**：課題案等本日の資料を読み，10月30日までに，事務局長まで意見を寄せてほしい。

**植村**：最終的な取りまとめは理事長に一任するということでいかがか。

**理事長**：三つの委員会と，皆様の意見を集約し，理事長の責任で取りまとめる。

**3．共催・後援名義の応諾について**

以下の後援3件について承認した。

【後援】

・「石川県珠洲市を走るレスキューキッチンカー＆ブックカフェ」（特定非営利活動法人エファジャパン）

・「第28回日本自費出版文化賞」（一般社団法人日本グラフィック工業会，NPO法人日本自費出版ネットワーク）

・「第37回山梨県図書館大会」（山梨県公共図書館協会）

（主な意見など）

**副理事長**：図書館災害対策委員会では，現在，協会と企業・団体との間での覚書の締結を検討しており，特定非営利活動法人エファジャパンは，その構成団体の一つである。すでに情報交換会を不定期に開催しているが，まだ覚書締結には至っていないため，今回は後援申請いただいたものである。

**4．寄附金について**

以下の寄附金について，承認した。

・2024年8月1日～9月30日入金分

| | | |
|---|---|---|
| 一般寄附金 | 2件 | 1,100円 |
| 指定寄附金 | 28件 | 146,854円 |
| 合計 | 30件 | 147,954円 |

（主な意見など）

**副理事長**：指定寄附金のうち，公益事業のため（子どもの図書館活動等）の寄附金について，具体的にどのように使っていくことになるのか。

**曽木常務理事兼総務部長**（以下「総務部長」という）：今後検討する。

**5．新入会員の承認について**

以下の新入会員について，確認し承認した。

・2024年9月30日現在

個人会員A：5名

個人会員B：3名

賛助会員：1件（1口）

（主な意見など）

**深水**：専門図書館部会に2名の新入会員があったとあるが，部会からご挨拶のメール等お送りしたいので，連絡先を知りたい。

**総務部長**：承知した。

**6．報告事項**

(1) 2025年度中堅職員ステップアップ研修(1)及び(2)の実施について

事務局長より，資料に基づき報告があった。開催方法は，(1)は2024年度と同じくオンラインで，(2)については，領域をこれまでの4から5に増やし，「協働し，議論を深める（仮）」（4科目）を領域4として対面で実施する。

(2) 第15期日本図書館協会認定司書認定事業の実施について

総務部長より，資料に基づき報告があった。2010年度に審査を開始した認定司書事業も第15期を迎える。申請は11月1日から30日までである。

（主な意見など）

**成瀬**：執行部としては，認定司書の活躍の場を考えていくことが，認定司書になろうとチャレンジする方を増やすことにつながると考える。より真剣に考えていくべきだと思う。

(3) 第26回図書館総合展について

事務局長より，11月5日～7日にパシフィコ横浜（神奈川県横浜市）で開催される図書館総合展のブース，フォーラム開催について報告があった。

協会のブースでは，書籍やオリジナルグッズの販売，ポスター展示，チラシ配布とともに，昨年好評だった，複数の出版社とのスタンプラリーを実施する。

フォーラムは，11月7日の15:30～17:00に「蔵書の健康診断!!～欠本調査をやってみませんか？～書店・出版社に学ぶ図書館の品揃え」のテーマで開催する。

（主な意見など）

**成瀬**：スタンプラリーは，昨年，出版社として参加したところ，ブース来訪者が飛躍的に増えた。企画に感謝している，今年もよろしくお願いしたい。

(4) 第110回全国図書館大会長崎大会について

副理事長より，資料に基づき，申込状況等の報告があった。前回集計時の9月30日からオンライン参加者が大幅に増え，部会長，委員長，代議員への呼びかけの効果があったものと思う。対面参加，懇親会，大会翌日の見学会にも多くの申込があ

り，収支の釣り合いが取れる見込みと聞いている。大会２日目の分科会終了後の「日図協の集い」については，会員のつどいとして開催できるよう，実行委員長で九州・沖縄地区理事の末次健太郎氏を中心に，同地区の代議員により企画，準備いただいている。

7．その他

(1) 第２回部会長・委員長会議について

事務局長より，10月16日に開催した，第２回部会長・委員長会議の報告があった。第111回全国図書館大会愛媛大会の分科会の開催方法について見直しを行うとの説明を行い，分科会の開催方法及びテーマ等について意見交換した。分科会のテーマについては，10月25日までで意見を伺っている。このほか，部会・委員会のあり方に関する検討を始めるにあたり，その準備のためのWG設置について説明を行った。また，現在，部会長・委員長に依頼している，2025年度の事業計画・予算調書の作成，提出についても説明している。

(2)「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」の開催日程について

総務部長より，説明があった。10月25日に予定されていた第１回会議は延期となった。本会議の詳細はまだ公開されておらず，状況が分かり次第報告する。

(3)「公共図書館，学校図書館で働く会計年度任用職員の継続雇用を求めるアピール」の発出及び文部科学記者会での記者会見について

事務局長より，「図書館の非正規雇用改善のための連絡会」の参加団体の連名によるアピールの発出とそれに合わせた記者会見を行う予定であるとの報告があった。

(4) 第111回全国図書館大会愛媛大会について

成瀬理事より，愛媛県立図書館のホームページで，愛媛大会の告知が始まったとの報告があった。

(5) その他

関根理事より，「本の未来と読者を考える書店・図書館等による連携協議会」について，９月26日第２回理事会以降の進捗について質問があり，事務局長より今年度の取り組みについて説明があった。

＊

＊今後の予定

・2024年度通算第６回（定時第６回）常任理事会

日時：2024年11月28日(木)14時から

・2024年度通算第３回（定時第３回）理事会

日時：2024年12月19日(木)13時30分から

## 事務局カレンダー

＊○印の日が事務局のお休みです。

■2024年12月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | ⑦ |
| ⑧ | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | ⑭ |
| ⑮ | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | ㉑ |
| ㉒ | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | ㉘ |
| ㉙ | ㉚ | ㉛ | ＊ | ＊ | ＊ | ＊ |

■2025年１月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ＊ | ＊ | ＊ | ① | ② | ③ | ④ |
| ⑤ | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | ⑪ |
| ⑫ | ⑬ | 14 | 15 | 16 | 17 | ⑱ |
| ⑲ | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | ㉕ |
| ㉖ | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | ＊ |

※事務局の仕事納めは12月27日(金)，仕事始めは１月６日(月)です。

# 編集手帳

2024年も残りわずかとなりました。今年もさまざまな出来事がありましたが，私にとって特に印象深かったのは，図書館と書店の連携がますます注目されてきたことです。新聞やテレビ，SNSなどのメディアでも，図書館と書店がタッグを組んだ取り組みが多く紹介され，人々の関心も高まっていると感じました。図書館は地域コミュニティの拠点として，多様なイベントや講座を開催し，地域住民に学びと交流の場を提供しています。一方，書店もまた，地元に根ざした本の企画や作家とのトークイベントなど，積極的に地域とつながりを深めています。地域の文化を支えるこの二つの存在が，どのように協力し合い，新しい価値を創出していけるのかは，今後さらに注目すべき課題だと思います。地域の図書館員として，これからもこのテーマに関心を持ち続け，考えを深めていきたいです。

また，今年は「活字離れ」という問題も再び話題になっていたように感じます。スマートフォンやタブレット端末の普及により，現代では誰もが手軽に情報にアクセスできる一方で，じっくりと1冊の本を手に取り，時間をかけて読む機会が減っているようです。情報の即時性が求められる今だからこそ，紙の本を通じてじっくりと考え，学ぶ時間の大切さを改めて見直す必要があるのではないでしょうか。読書のスタイルは多様化しており，それぞれが自分に合った方法で読書を楽しめるよう，私たちも新たな提案を模索していくべきだと感じています。

さて，今回の特集では「つなぎ手としての学校図書館－情報活用能力育成のアスペクト」と題して，子どもにとって最も身近な存在である学校図書館の変化と，その新しい取り組みについて取り上げました。時代がいくら進化しても，子どもたちが「知る楽しみ」を感じる心は変わらないはずです。学校図書館が子どもたちと情報を結びつける役割を担い，彼らの情報リテラシーを育むための重要な拠点となっていることを感じてもらえるのではないかと思います。

2025年以降，読書を取り巻く環境はさらに大きく変わっていくでしょう。しかし，この変化を恐れることなく，むしろ楽しみながら，新しい読書文化を築き上げていきたいと思います。これからも，皆さまと共に本を通じた豊かな世界を広げていけることを願っています。（岩永知子）

## 図書館雑誌／1月号予告（Vol.119 No.1） 定価1026円 1月20日発行予定

**特集：トピックスで追う図書館とその周辺** 予定内容＝調査基盤としてのレファレンス・サービス－科学・医療分野のレファレンス・サービスに対する社会的ニーズ（渡辺真希子），「みなサーチ」1年の歩みと活用のすすめ（本田麻衣子），足立区立中央図書館の未返却図書資料対策プランについて（高橋冬子），個人情報保護法の変遷と図書館－令和2年及び3年改正を踏まえて（新保史生），書店支援で市民と図書館が連携（伊端隆康），行政支援サービスの軌跡（徳安由希），1000万冊のストーリー－東京大学附属図書館における蔵書1000万冊達成を記念した広報事業について（近藤真智子），千葉市図書館情報ネットワーク協議会の活動について（吉野知義）。以上の特集のほか，〈新春エッセー〉図書館の発見について（アンナ・ツィマ），新連載〈図書館で実践！ SDGs①藤沢市湘南大庭市民図書館〉強みを活かしあって協働する－図書館とSDGs担当課との連携事例（道上久恵・植月琢也），〈れふぁれんす三題噺㊱尼崎市立中央図書館〉等を掲載してお届けします。

# 図書館雑誌

第118巻　　2024年（令和６年）

第1202号－第1213号

TOSHOKAN ZASSHI
Vol.118　2024

Japan Library Association
Tokyo

公益社団法人　日本図書館協会
東　　京

# 図書館雑誌
## 第118巻（2024年）
# 総索引

### 凡　　例

1．著者名，件名をそれぞれ五十音順に配列した。同一件名内は原則として著者名の五十音順，同一著者名内は発表順とした。
2．記載事項は＜著者：記事タイトル　コラム・連載もしくは特集タイトル　号：ページ＞の順になっている。
3．ニュース欄は「ニュース記事一覧」として本索引末尾にまとめ，項目別に発表順に配列した。
4．ニュース欄の告知板と，日図協図書館新着案内，新聞切抜帳，協会通信の一部は原則として索引対象外とした。

### ＜2024年（118巻）特集等テーマ＞

1．特集：トピックスで追う図書館とその周辺
2．令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト
3．特集：書店×図書館の可能性
4．特集：移動図書館のいま
5．小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか
6．特集：座談会　中堅図書館員しごとを語る－あらたに図書館員になった方たちへ
7．特集：図書館の話題アラカルト
8．特集：図書館における「ゲーム」
9．特集：まちライブラリーの今
10．令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待
11．特集：シン・デジタル・ライブラリー－オープンサイエンス時代の大学図書館
12．特集：つなぎ手としての学校図書館－情報活用能力育成のアスペクト

### 著者名索引

＜あ・い・う・お＞


青柳　英治：編集手帳　8：p528
青柳英治［ほか］：編集手帳　1：p60
青柳英治文責，日本図書館協会図書館雑誌編集委員会：特集にあたって（特集：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ）　6：p328
秋村喜代子：移動図書館を使った学校との連携　我孫子市民図書館：子どもの読書活動推進計画重点施策　＜北から南から＞　1：p46-47
秋本　　敏：索引　～の歴史（図書館員のおすすめ本　86）　2：p104
浅石卓真，矢田竣太郎：教科・単元別の教材用図書リストのデータベース化（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p699-701
姉帯　裕子：“つながる図書館”　幸せと希望を実現する公共図書館の試み（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第１分科会　公共図書館）　2：p76
阿部　沙喜：Mine!　私たちを支配する「所有」のルール（図書館員のおすすめ本　94）　10：p621
天谷　真彰：設置者から図書館の廃止を提案されたら　地域図書館活動における学びと協働　＜北から南から＞　7：p410-411
天谷　真彦：身近な場所に知る自由を　＜こらむ図書館の自由＞　7：p375
新井三枝子：ルポ新大久保　移民最前線都市を歩く（図書館員のおすすめ本　85）　1：p42
新井　玲子：平和関係の資料の紹介　受け継がれる平和教育（ウチの図書館お宝紹介！　242　恵泉女学園大学図書館）　11：p674-675
荒川知樹，丸山高弘：山中湖情報創造館における対話型AI導入について　対話型生成AIをレファレンスサービスのツールとして導入した事例の紹介（小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか）　5：p260-262
安保　和徳：子どもと本とのよい出会いを（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第４分科会　児童サービス(1)）　2：p80
：読書が子どもに与える影響（令和５年度（第109回）全国図書館大会山岩手大会ハイライト　第４分科会　児童サービス(2)）　2：p81
飯田智子［ほか］：京都大学附属図書館，大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動におけるライブラリー・スキーマ検討の取り組み（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p654-656

家入　義朗：花山院隊「偽官軍」事件　戊辰戦争下の封印された真相　（図書館員のおすすめ本　85）　1：p42
生島　敦子：五感でとらえなおす阪神・淡路大震災の記憶　（図書館員のおすすめ本　92）　8：p461
生武　崇，齋藤森都：「図書館に泊まろう！」実施報告　普段とは違った図書館を味わって　（特集：図書館の話題アラカルト）　7：p392-394
池内　有為：オープンサイエンス政策をふまえた大学図書館の研究データ管理（RDM）（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p650-651
池沢　道子：中高生のための「かたづけ」の本　（図書館員のおすすめ本　86）　2：p104
池田　　浩：令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　全体会）　10：p591
伊沢ユキエ：「図書館の自由に関する宣言」70周年に寄せて　＜こらむ図書館の自由＞　6：p323
：図書を守った人々のこと　＜こらむ図書館の自由＞　8：p427
石川　敬史：移動図書館の可能性と課題　（特集：移動図書館のいま）　4：p192-195
石黒康太［ほか］：京都大学附属図書館，大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動におけるライブラリー・スキーマ検討の取り組み　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p654-656
磯　　勝己：「表現で世界を変える人」のために　マンガ学部のある大学図書館のレファレンス　（れふぁれんす三題噺　313　京都精華大学情報館）　10：p614-615
磯井　純充：まちライブラリーの軌跡，現況，展望と考察　個人と組織が連携した生活文化の創造　（特集：まちライブラリーの今）　9：p540-543
磯谷奈緒子：海士町発！地域とつくる島まるごと図書館　（特集：まちライブラリーの今）　9：p550-551
井手下由紀：社会の変化と公共図書館のミライ　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第１分科会）　10：p592
伊藤　　豊：今こそ漢字にふりがなを。私が考える「ふりがな再考論」　出版物およびデジタルコンテンツにルビ（ふりがな）の普及・活用を目指すルビ財団の取り組み　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p30-31
井上　奈智：本を読むということと，ゲームをするということ　インタラクティブメディアがもたらす図書館の可能性　（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p430-432
井上　靖代：インターネット・ガバナンス・フォーラム（IGF）2023京都大会と図書館　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p32-33
岩永　知子：編集手帳　4：p240
：編集手帳　12：p748
岩永知子［ほか］：編集手帳　1：p60
植松　貞夫：年頭所感　1：p13
宇賀田織部：岩手へ，全国図書館大会参加記　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　全国図書館大会に参加して）　2：p94
宇野　亮一：編集手帳　6：p368
宇野亮一［ほか］：編集手帳　1：p60
：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ　（特集：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ）　6：p329-343
江上　敏哲：図書館のマンガを研究する　図書館情報学サイエンスカフェ講演録　＜図書館員の本棚＞　8：p465
榎本絵莉香［ほか］：垣根を越えた協同調査　Teamsを活用したレファレンス体制　（れふぁれんす三題噺　314　立正大学図書館）　11：p672-673
及川浩純，照井大道：学校図書館活動の活性化　学校の「魅力」発信　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第３分科会　学校図書館）　2：p78-79
大井　亜紀：Book Mobile（ブック・モービル）サミット開催　移動図書館の新たな可能性を求めて　（特集：移動図書館のいま）　4：p208-210
大泉　　貴：レファレンスの記録と管理を通じて　（れふぁれんす三題噺　312　荒川区立ゆいの森あらかわ）　9：p562-563
大島久美子［ほか］：小さな図書館ならではの試み　江津市図書館におけるボードゲーム導入のあらまし　（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p438-440
大谷　康晴：日本の図書館情報学教育の現状：『日本の図書館情報学教育』調査から　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第５分科会　図書館情報学教育）　2：p82
：2030年代の図書館員養成教育を考える　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第５分科会）　10：p596
大塚　敏高：熊楠さん，世界を歩く。冒険と学問のマンダラへ（図書館員のおすすめ本　94）　10：p621
大場　博幸：地方における書店の役割と図書館　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第11分科会　出版流通）　2：p89
：図書館と小売書店の協力　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第11分科会）　10：p602
大橋美紀子：累犯障害者　（図書館員のおすすめ本　95）　11：p677
大林　正智：つたえたいきもち　（図書館員のおすすめ本　90）　6：p348
大平　司，田中幸恵：研究データ公開支援の実際と課題　名古屋大学附属図書館の取り組み　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p652-653
オーレ・ベリー，尾園清香：図書館サービスとしてのボード

ゲーム　図書館流通センターの取り組み　ボードゲーム販売からイベント開催まで　（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p441-443
岡崎　信美：児童サービスを支えるために　岐阜県図書館「児童図書研究室」の歩み　＜北から南から＞　10：p622-623
尾形　陽子：住民が取り組む図書館職員問題　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第14分科会　市民と図書館）　2：p92
：「私たちの図書館宣言」から考える図書館の課題（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第15分科会）　10：p606
小形　亮：「図書館の非正規雇用改善のための連絡会」スタート　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：34-36
岡本　真：場としての図書館の実空間から情報空間に橋を架ける　デジタル資源カードという提案　（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p696-698
小川みのり：はじめての王朝文化辞典　（図書館員のおすすめ本89）　5：p281
荻　礼子：今日拾った言葉たち　（図書館員のおすすめ本91）　7：p409
奥出　麻里：Hidden Library,Invisible Librarian　医療と健康と図書館と，司書。＜図書館員の本棚＞　12：p728
奥野　吉宏：能登半島地震から古文書の保存を考える　＜こらむ図書館の自由＞　5：p247
小熊真奈美：学校図書館におけるデジタル情報資源の活用　（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p702-703
小澤多美子：検察審査会　日本の刑事司法を変えるか　（図書館員のおすすめ本　92）　8：p460
尾城友視，金藤伴成：即時オープンアクセス義務化に向けた大学図書館の現況　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p648-649
尾園清香，オーレ・ベリー：図書館サービスとしてのボードゲーム　図書館流通センターの取り組み　ボードゲーム販売からイベント開催まで　（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p441-443
小田那津子：全国図書館大会潜入記　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　全国図書館大会に参加して）　2：p93
小野千佐子：まちライブラリー利用者が主役になれる場　まちライブラリー@もりのみやキューズモールの実例報告　（特集：まちライブラリーの今）　9：p548-549
小野　智仁：その修理，大丈夫？　修理の基本をおさえよう（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第10分科会）　10：p601
小野智仁文責，日本図書館協会資料保存委員会：【報告】資料保存委員会〈資料保存セミナー〉　明日からできる「資料保存の基礎技術」　6：p350-352

＜か・き・く・こ＞

笠井　尚：学校図書館施設計画の留意点　学校図書館の設計をめぐる対話をどうするか　（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p704-706
笠川　昭治：東京のワクワクする大学博物館めぐり　（図書館員のおすすめ本　93）　9：p567
加藤　浩司：都市計画・まちづくり分野にいる私が移動図書館に惹かれた理由　（特集：移動図書館のいま）　4：p198-199
加藤美穂子：日本図書館協会学校図書館部会第52回夏季研究集会東京大会に参加して　＜日本図書館協会学校図書館部会第52回夏季研究集会東京大会＞　11：p668
狩野　ゆき：何が問題？格差のはなし　「おいてけぼりの誰か」をつくらない世界のために　（図書館員のおすすめ本　88）　4：p219
上條　史生：「信州しおじり　本の寺子屋」の取り組みと展望（特集：書店×図書館の可能性）　3：p134-135
神谷　知栄：読書バリアフリー法に基づく横浜市の取り組みについて　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p16-18
川下美佐子［ほか］：編集手帳　1：p60
河村　奨：マイクロライブラリーの受容と変遷　図書館サービス「リブライズ」12年の運営を経て　（特集：まちライブラリーの今）　9：p552-553
神原　陽子：世にもあいまいなことばの秘密　（図書館員のおすすめ本　91）　7：p409
菊谷智史［ほか］：京都大学附属図書館，大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動におけるライブラリー・スキーマ検討の取り組み　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p654-656
菊地　照恵：本と人との出会いを見守ってきた100歳の図書館（小規模図書館奮戦記　311　長野県・村立朝日村図書館）　8：p457
北澤梨絵子：子どもから大人が生まれるとき　発達科学が解き明かす子どもの心の世界　（図書館員のおすすめ本90）　6：p349
北村　智仁：エフェメラと図書館　あるいは，日々は如何にして歴史のページに繰り入れられるか　（特集：図書館の話題アラカルト）　7：p386-387
木村　俊雄：消費生活にかかわる知識と情報を発信する専門施設　（小規模図書館奮戦記　315　東京都消費生活総合センター図書資料室）　12：p721
木村　正人：無人島，研究と冒険，半分半分。（図書館員のおすすめ本　91）　7：p408
金藤伴成，尾城友視：即時オープンアクセス義務化に向けた大学図書館の現況　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p648-649

工藤　綾華：アイヌ文化に関する開かれた専門図書室　(小規模図書館奮戦記　309　カンピソシ　ヌカラ　トゥンプ　国立アイヌ民族博物館ライブラリ)　3：p157
久保寺容子：知のバトンをつなぐために　公益財団法人江北図書館の取り組み　(特集：図書館の話題アラカルト)　7：p398-400
熊野　清子：『戦争と図書館　戦時下検閲と図書館の対応』刊行　<こらむ図書館の自由>　9：p535
藏所　和輝：マイナンバーカードの図書館カード化について　<こらむ図書館の自由>　1：p7
倉知　桂子：特色あるコレクション　前身校の図案集と掛図　大学への寄贈より　(ウチの図書館お宝紹介！　237　京都工芸繊維大学附属図書館)　3：p152-153
黒澤　峰代：子どもとめぐることばの世界　(図書館員のおすすめ本　94)　10：p620
小池　信彦：令和３年改正著作権法の施行後の動向　図書館サービスに活かす上で考えたいこと　(令和５年度(第109回)全国図書館大会岩手大会ハイライト　第６分科会　著作権)　2：p83
：図書館活動と著作権制度の動向　(令和６年度(第110回)全国図書館大会長崎大会への招待　第６分科会)　10：p597
河野知歌子：「小さな図書館」でサービスを届ける　四万十町における移動図書館車導入事例　(特集：移動図書館のいま)　4：p200-201
合屋　月子：ザ・ママの研究　増補新版　(図書館員のおすすめ本　85)　1：p43
腰越未樹，柳川涼司：図書館ボランティア体験を通した不登校・ひきこもり改善・自立支援　(特集：トピックスで追う図書館とその周辺)　1：p22-24
小島蘭［ほか］：垣根を越えた協同調査　Teamsを活用したレファレンス体制　(れふぁれんす三題噺　314　立正大学図書館)　11：p672-673
小竹真鈴［ほか］：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ　(特集：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ)　6：p329-343
小橋　智裕：備前市「まちじゅうどこでも図書館」事業　あなたも図書館オーナーになってみませんか　(特集：図書館の話題アラカルト)　7：p395-397
小林希［ほか］：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ　(特集：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ)　6：p329-343
小林はつき：転職学　働くみんなの必修講義　(図書館員のおすすめ本　85)　1：p43
小林康隆文責，日本図書館協会分類委員会：「図書館の分類に関する調査(2023)」結果報告　3：p144-148
小廣　早苗：70歳のウィキペディアン　図書館の魅力を語る　(図書館員のおすすめ本　88)　4：p218
小南　理恵：戦争と図書館　(令和５年度(第109回)全国図書館大会岩手大会ハイライト　第７分科会　図書館の自由)　2：p84
：「ブックカードが残ったままの本」ありませんか？　<こらむ図書館の自由>　3：p127
小宮山　剛：地域の課題を解決するクリエイティブディレクション術　(図書館員のおすすめ本　88)　4：p218
是住久美子：ウィキペディアでまちおこし　<図書館員の本棚>　11：p678
これでいいのか図書館　担い手にまっとうな待遇を求める院内集会参加者一同：公共図書館・学校図書館に働く非正規雇用職員の待遇改善を求めるアピール　9：p560
近藤　倫史：「TOSHOKAN QUEST」冒険の軌跡　(特集：図書館における「ゲーム」)　8：p446-447
今野　千東：日本の自然風景ワンダーランド　地形・地質・植生の謎を解く　(図書館員のおすすめ本　87)　3：p154

<さ・し・す・せ・そ>

齋藤なぎさ：宇都宮市立南図書館のレファレンス　(れふぁれんす三題噺　310　宇都宮市立南図書館)　4：p212-213
齋藤森都，生武　崇：「図書館に泊まろう！」実施報告　普段とは違った図書館を味わって　(特集：図書館の話題アラカルト)　7：p392-394
佐伯　美華：りんごの棚から始まる読書に困難のある人々へのサービス　学校図書館の先進事例を交えて　<北から南から>　4：p220-222
坂川万理子：女性と図書館　ジェンダー視点から見る過去・現在・未来　<図書館員の本棚>　8：p466
阪口　泰子：イチからわかる古文書の読み方・楽しみ方　(図書館員のおすすめ本　95)　11：p676
坂田絵理子［ほか］：京都大学附属図書館，大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動におけるライブラリー・スキーマ検討の取り組み　(特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館)　11：p654-656
佐々木有香［ほか］：小さな図書館ならではの試み　江津市図書館におけるボードゲーム導入のあらまし　(特集：図書館における「ゲーム」)　8：p438-440
佐藤千春［ほか］：北茨城市立磯原中学校，牛久市立ひたち野うしく中学校　(学校図書館建築見学報告　1)　12：p718-720
佐藤知子［ほか］：上田市立上田図書館のレファレンス　丹下健三氏邸宅の墨絵・殺戮を拒んだ日本兵・アメリカ軍の沖縄攻略　(れふぁれんす三題噺　309　上田市立上田図書館)　3：p150-151
佐藤　正恵：実践アニメ療法　臨床で役立つ物語の処方箋　(図書館員のおすすめ本　96)　12：p726
佐藤　里恵：寄生虫を守りたい　(図書館員のおすすめ本　96)　12：p727
紫垣　　優：印刷図書館寄贈コレクション　(ウチの図書館お宝紹介！　241　一般財団法人印刷図書館)

10：p618-619
柴野　京子：書店と図書館の現在地 「地域」から創造する知識基盤にむけて （特集：書店×図書館の可能性）
3：p131-133
島　　弘：一人ひとり，みんなのために 求められる養成と研修の充実 （令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待 第４分科会） 10：p595
書店・図書館等関係者における対話の場：書店・図書館等の連携による読書活動の推進について 書店・図書館等関係者における対話のまとめ ＜資料＞
6：p354-359
ずいの：図書館は森羅万象を教えてくれる！ ＜新春エッセー＞
1：p14-15
末次健太郎：災害と図書館 能登半島地震の経験を今後の対策につなげる （令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待 第13分科会） 10：p604
菅原　然子：デジタルアーカイブ「自由学園100年＋」の構築と活用 自組織への興味を深めるツールとして （特集：図書館の話題アラカルト） 7：p388-389
杉浦　良二：愛知県立高校への学校司書配置の問題点 ＜北から南から＞ 7：p412-413
杉本　太志：学校図書館とゲーム ボードゲームの実践を通じた可能性の提案 （特集：図書館における「ゲーム」） 8：p448-449
鈴江　　夏：「子ども司書講座」を実施して ＜北から南から＞
1：p44-45
鈴木　一生：欧米におけるオープンサイエンス時代の大学図書館員像と日本への示唆 （特集：シン・デジタル・ライブラリー オープンサイエンス時代の大学図書館） 11：p660-663
鈴木　啓子：PTA未加入の生徒に対して学校図書館利用を制限限？ ＜こらむ図書館の自由＞ 12：p691
鈴木　史穂：災害と図書館 東日本大震災に学び今後の対策を考える （令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト 第10分科会 災害と図書館）
2：p88
鈴木　崇文：「図書館の自由に関する宣言」採択70周年 （令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待 第７分科会） 10：p598
鈴木　麻友：文書館のしごと アーキビストと史料保存 ＜図書館員の本棚＞ 9：p572
鈴木優未［ほか］：垣根を越えた協同調査 Teamsを活用したレファレンス体制 （れふぁれんす三題噺 314 立正大学図書館） 11：p672-673
千　　錫烈：韓国版：誰でも，どこでも，何でも，読める ＜こらむ図書館の自由＞ 10：p587
善通寺市みりょく本づくりプロジェクト実行委員会（善通寺市・国立大学法人香川大学・丸善雄松堂株式会社）：世界に一冊だけのみりょく本を創ろう！ 小学生と大学生の協働・善通寺市みりょく本づくりプロジェクト （特集：図書館の話題アラカルト）
7：p390-391
返田　玲子：調布市立中央図書館のレファレンス事例 （れふぁれんす三題噺 311 調布市立中央図書館）
7：p406-407

＜た・つ・て・と＞

高倉　暁大：図書館でのゲームイベントの現状と展望 （特集：図書館における「ゲーム」） 8：p433-435
高田　高史：ANA苦闘の1000日 （図書館員のおすすめ本 89）
5：p280
高野　律子：図書館とのかかわり 能登半島地震からの半年間 ＜北から南から＞ 9：p568-570
高橋恵美子：学校図書館で働く非正規雇用職員 （令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待 第14分科会） 10：p605
：読書と学校図書館，何をどうとりくむか ＜日本図書館協会学校図書館部会第52回夏季研究集会東京大会＞ 11：p664-668
高橋菜奈子：図書館業務での生成AI活用の可能性 図書館業務の四象限と変化へのアプローチ （小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか）
5：p256-259
高橋　将人：ミステリな建築 建築なミステリ （図書館員のおすすめ本 93） 9：p566
高橋　依子：図書館・学校等向けのボードゲーム貸出について （特集：図書館における「ゲーム」） 8：p436-437
高濱　宏至：子どもたちの居場所を定期的に作り続けるために移動図書館が移動することの意味 （特集：移動図書館のいま） 4：p205-207
田口　幹人：図書館と書店をめぐって （特集：書店×図書館の可能性） 3：p141-143
竹内比呂也：2030年の大学図書館としての「デジタル・ライブラリー」（特集：シン・デジタル・ライブラリー オープンサイエンス時代の大学図書館）
11：p644-647
武田　和也：カスハラ対策・感情労働者保護を目的に韓国国立中央図書館が策定した『図書館利用者対応業務マニュアル』（特集：図書館の話題アラカルト）
7：p380-382
田代　弘子：フランス人記者，日本の学校に驚く （図書館員のおすすめ本 95） 11：p676
：児童の心を大切にするレファレンス （れふぁれんす三題噺 315 甲南小学校図書館）
12：p722-723
立川　幸平：問いの立て方 （図書館員のおすすめ本 92）
8：p461
田中志瑞子［ほか］：京都大学附属図書館，大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動におけるライブラリー・スキーマ検討の取り組み （特集：シン・デジタル・ライブラリー オープンサイエンス時代の大学図書館） 11：p654-656
田中　雅光：和田誠記念文庫 （ウチの図書館お宝紹介！ 238 渋谷区立中央図書館） 4：p214-215
田中麻巳［ほか］：垣根を越えた協同調査 Teamsを活用したレファレンス体制 （れふぁれんす三題噺 314

立正大学図書館）　11：p672-673
田中裕太郎：官報電子化について　電子官報の閲覧制度と図書館との関わり　（特集：図書館の話題アラカルト）　7：p383-385
田中幸恵，大平　司：研究データ公開支援の実際と課題　名古屋大学附属図書館の取り組み　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p652-653
田名部晃平［ほか］：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ　（特集：座談会　中堅図書館員しごとを語る－あらたに図書館員になった方たちへ）　6：p329-343
谷脇八代美：１階革命　私設公民館「喫茶ランドリー」とまちづくり　（図書館員のおすすめ本　92）　8：p460
津田　さほ：「本に個人情報を挟んで返した」から思うこと　＜こらむ図書館の自由＞　11：p639
角田　裕之：生成AIを活用・評価した授業　＜窓＞　2：p64
：「IFLA 図書館情報学（LIS）専門職教育プログラムのためのガイドライン　＜窓＞　6：p320
：オープンサイエンス・学術情報の共有　オープンアクセスとプレプリント　＜窓＞　10：p584
敦賀市立図書館：「浦潮日報」（ウチの図書館お宝紹介！　243　敦賀市立図書館）　12：p724-725
ティムソン　ジョウナス：オープンサイエンス時代の大学図書館を取り巻く人事制度　私立大学を中心とした試論　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p657-659
手塚　美希：庭時間が愉しくなる雑草の事典　身近にあるとうれしい花，残しておくとヤバイ野草　（図書館員のおすすめ本　89）　5：p281
照井大道，及川浩純：学校図書館活動の活性化　学校の「魅力」発信　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第３分科会　学校図書館）　2：p78-79
堂ケ口真奈：輪島市立図書館　発災からの道のり　＜北から南から＞　9：p570-571
戸苅　綾子：アリスのお茶会パズル　（図書館員のおすすめ本　89）　5：p280
徳永　絹枝：「独自の地域交流拠点図書館」を目指す　らいわ弥彦　誕生までの道のり　（小規模図書館奮戦記　312　新潟県・弥彦村図書館　らいわ弥彦）　9：p565
利光　朝子：指定管理者・委託で働く非正規雇用職員　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第13分科会　非正規雇用職員）　2：p91

＜な・に・の＞

長尾　勝広：岐阜市立図書館と塩尻市立図書館の司書人事交流に期待すること　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p19-21
中島　尚子：資料を未来につなぐ　東日本大震災で考えたこと　＜図書館員の本棚＞　10：p624
中島　　寛：主体的で探究的な学びを支える開かれた学校図書館の創造　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第３分科会）　10：p594
中島　玲子：生成AIとは何か，図書館における協働の可能性（小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか）　5：p251-255
長塚　　隆：ブリスベンで開催された「IFLA 情報未来サミット」　12：p714-717
中塚ゆり子：なぜか買いたくなる“もちもち”の秘密　（図書館員のおすすめ本　96）　12：p727
長沼　祥子：図書館員のための「やさしい日本語」　＜図書館員の本棚＞　5：p276
長野　源世：仕合わせる幸せ　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p25-27
永見弘美文責，日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会：【報告】これでいいのか図書館　担い手にまっとうな待遇を求める院内集会　9：p556-559
中村崇［ほか］：北茨城市立磯原中学校，牛久市立ひたち野うしく中学校　（学校図書館建築見学報告　1）　12：p718-720
中村　知美：寿町のひとびと　（図書館員のおすすめ本　88）　4：p219
中村　保彦：編集手帳　3：p180
：編集手帳　10：p632
中村保彦［ほか］：編集手帳　1：p60
中山　愛理：アメリカの特徴的な取り組みに見る移動図書館の可能性　日本とアメリカにおける移動図書館の変遷を踏まえつつ　（特集：移動図書館のいま）　4：p196-197
西川真樹子［ほか］：京都大学附属図書館，大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動におけるライブラリー・スキーマ検討の取り組み　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p654-656
西山　有子：里山型まちライブラリーの模索　まちライブラリー@My Book Station 茅野駅の事例　（特集：まちライブラリーの今）　9：p544-545
日本図書館協会健康情報委員会：「健康コレクションマネジメントと健康情報の評価」研修会開催について　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p28-29
日本図書館協会建築賞審査選考委員会，柳瀬寛夫文責：第40回日本図書館協会建築賞　8：p450-453
日本図書館協会選挙管理委員会：2022-2025年度代議員（個人会員選出及び団体会員選出）補欠選挙の公示　9：p564
日本図書館協会大学図書館部会大学図書館シンポジウム担当：2023年度大学図書館シンポジウム「著作権法と大学図書館～令和３年の著作権法改正を中心に～」開催報告　5：p272-275
日本図書館協会図書館災害対策委員会：図書館災害対策委員会の災害支援活動会計報告（2023年度）　9：p561
日本図書館協会図書紹介事業委員会：Live！図書館員のおすす

め本　ダイジェスト　（図書館員のおすすめ本　87）　3：p155
日本図書館協会資料保存委員会，小野智仁文責：【報告】資料保存委員会〈資料保存セミナー〉　明日からできる「資料保存の基礎技術」　6：p350-352
日本図書館協会図書館雑誌編集委員会，青柳英治文責：特集にあたって　（特集：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ）　6：p328
日本図書館協会図書館雑誌編集委員会，長谷川優子文責：特集にあたって　（特集：つなぎ手としての学校図書館情報活用能力のアスペクト）　12：p695
日本図書館協会図書館調査事業委員会：都道府県図書館の統計『日本の図書館』2024年調査票より　（数字で見る日本の図書館　86）　8：p462-464
日本図書館協会認定司書事業委員会：第15期「認定司書」申請（更新申請を含む）を受け付けます　10：p610-613
日本図書館協会認定司書事業委員会，日本図書館協会認定司書審査会：第14期（2024年度）日本図書館協会認定司書名簿及び審査（報告）　5：p277-279
日本図書館協会認定司書審査会，日本図書館協会認定司書事業委員会：第14期（2024年度）日本図書館協会認定司書名簿及び審査（報告）　5：p277-279
日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会，永見弘美文責：【報告】これでいいのか図書館　担い手にまっとうな待遇を求める院内集会　9：p556-559
日本図書館協会分類委員会，小林康隆文責：「図書館の分類に関する調査（2023）」結果報告　3：p144-148
野末俊比古：情報リテラシー教育をめぐる海外の動向　日本型の枠組みづくりに向けて　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第８分科会）　10：p599
野中真美［ほか］：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ　（特集：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ）　6：p329-343
野村　太郎：ひとが集まる学校図書館のつくりかた　本を読むだけの場所ではもったいないやん！　児童生徒が集い活気にあふれる学校図書館を学校の〝ど真ん中〟に！　（特集：つなぎ手としての学校図書館情報活用能力のアスペクト）　12：p707-711
野村　育弘：本にとっての〝サードプレイス〟　敦賀市　知育・啓発施設「ちえなみき」（特集：書店×図書館の可能性）　3：p136-137

＜は・ひ・ふ・ほ＞

葉狩麻早子：地域とともに歩む図書館　「私たちの新しい図書館」が開館して　（小規模図書館奮戦記　314　鳥取県・ちえの森ちづ図書館）　11：p669
長谷川豊祐：図書館と知識社会　＜図書館員の本棚＞　11：p679
長谷川　実：富士見市立中央図書館のレファレンス　覚え間違い，思い違い　（れふぁれんす三題噺　308　富士見市立中央図書館）　2：p102-103
長谷川優子：編集手帳　9：p580
長谷川優子［ほか］：編集手帳　1：p60
長谷川優子［ほか］：北茨城市立磯原中学校，牛久市立ひたち野うしく中学校　（学校図書館建築見学報告　1）　12：p718-720
長谷川優子文責，日本図書館協会図書館雑誌編集委員会：特集にあたって　（特集：つなぎ手としての学校図書館情報活用能力のアスペクト）　12：p695
秦秀文［ほか］：編集手帳　1：p60
畑野　繭子：時を超える古地図の魅力　蔵田文庫古地図コレクション　（ウチの図書館お宝紹介！　240　明治大学中央図書館）　8：p458-459
浜口美由紀：多文化サービス最前線　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第12分科会）　10：p603
早川　光彦：オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第２分科会　大学・短大・高専図書館）　2：p77
原七海［ほか］：上田市立上田図書館のレファレンス　丹下健三氏邸宅の墨絵・殺戮を拒んだ日本兵・アメリカ軍の沖縄攻略　（れふぁれんす三題噺　309　上田市立上田図書館）　3：p150-151
林田　理花：製作会社の雑談　（特集：移動図書館のいま）　4：p202-204
平形ひろみ：ふるさとの図書館は元気ですか？　＜こらむ図書館の自由＞　4：p187
廣川　晶子：美術館のなかの図書館　（小規模図書館奮戦記　313　国立工芸館アートライブラリ）　10：p617
藤井由紀代：本を媒介とした人の居場所　まちライブラリー@MUFG PARKからの考察　（特集：まちライブラリーの今）　9：p546-547
藤田　理穂：広島の被爆と福島の被曝　両者は本質的に同じものか似て非なるものか　（図書館員のおすすめ本　96）　12：p726
藤本　彩花：ペーパーレス時代の紙の価値を知る　読み書きメディアの認知科学　（図書館員のおすすめ本　95）　11：p677
星川智隆［ほか］：編集手帳　1：p60
堀真紀［ほか］：垣根を越えた協同調査　Teamsを活用したレファレンス体制　（れふぁれんす三題噺　314　立正大学図書館）　11：p672-673
堀内　悠加：夜空で輝く星をつなぐように　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　全国図書館大会に参加して）　2：p93
本明　　昇：研究・教育の場としての図書館　（小規模図書館奮戦記　310　一関工業高等専門学校図書館）　4：p217

＜ま・み・む・も＞

松田　　彰：ルー・リード伝　（図書館員のおすすめ本　87）

3：p154
松野南紗恵：不完全な司書　＜図書館員の本棚＞　6：p353
松本　哲郎：編集手帳　5：p316
松本哲郎［ほか］：編集手帳　1：p60
松本哲郎文責，日本図書館協会図書館雑誌編集委員会：特集にあたって（特集：座談会　中堅図書館員しごとを語る－あらたに図書館員になった方たちへ）　6：p328
松本　直樹：日本図書館協会認定司書事業のこれまでとこれから（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第９分科会　認定司書事業）　2：p87
松本芽生［ほか］：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ（特集：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ）　6：p329-343
松本　理沙：まっすぐロリータ道（図書館員のおすすめ本94）　10：p620
丸山高弘，荒川知樹：山中湖情報創造館における対話型AI導入について　対話型生成AIをレファレンスサービスのツールとして導入した事例の紹介（小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか）　5：p260-262
丸山明夏［ほか］：上田市立上田図書館のレファレンス　丹下健三氏邸宅の墨絵・殺戮を拒んだ日本兵・アメリカ軍の沖縄攻略（れふぁれんす三題噺　309　上田市立上田図書館）　3：p150-151
道上　久恵：羊と日本人　波乱に満ちたもう一つの近現代史（図書館員のおすすめ本　90）　6：p348
壬生あかり：歴史を読み解く城歩き（図書館員のおすすめ本86）　2：p105
宮谷　友美：本屋，ひらく（図書館員のおすすめ本　90）　6：p349
宮原柔太郎：編集手帳　7：p420
宮原柔太郎［ほか］：編集手帳　1：p60
棟田　聖子：みんな，いっしょだよ　＜窓＞　3：p124
：みんな，いっしょだよ（その二）　＜窓＞　7：p372
：みんな，いっしょだよ（その三）　＜窓＞　11：p636
村上　健治：暮らしの中の情報と多文化サービス　岩手県の事例を通して（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第12分科会　多文化サービス）　2：p90
村上さつき：限界ニュータウン　荒廃する超郊外の分譲地（図書館員のおすすめ本　86）　2：p105
村林　麻紀：SDGsと図書館，誰も取り残さないインクルーシブな図書館を目指して（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第８分科会　障害者サービス(1)）　2：p85
：最新のICT技術・アクセシブルな電子図書館を活用して目指す，障害者の読書環境（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第８分科会　障害者サービス(2)）　2：p86
：読書バリアフリー　アクセシブルな書籍の「借りる権利」と「買う自由」を目指して（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第９分科会）　10：p600
茂出木理子：変えるべきこと，継承していくこと　＜窓＞　1：p4
：風薫る五月，なのに私の気持ちはザワザワする　＜窓＞　5：p244
：ファーストペンギンは空を行く　＜窓＞　9：p532
本村　　洋：国際協力の専門図書館「夢物語」への挑戦（小規模図書館奮戦記　308　独立行政法人国際協力機構図書館（JICA図書館））　2：p97
本吉　理彦：読書と図書館員　＜窓＞　4：p184
：読書と図書館　＜窓＞　8：p424
：社会資本／図書館／知識インフラ　＜窓＞　12：p688
森本　晋也：理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える　希望ある未来は図書館とともに（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　全体会）　2：p72-75
文部科学省：子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の取り組み事例について（霞が関だより　242）　1：p37
：清水町立図書館の取組　特性を活かした子ども読書活動の推進（霞が関だより　242）　1：p37-39
：『子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい１冊～』第２弾について（霞が関だより　242）　1：p40
：文部科学省における図書館・読書活動推進関連予算案（霞が関だより　243）　2：p98-101
：４月23日は「子ども読書の日」です！（霞が関だより　244）　3：p149
：2024年度の図書館職員に関する研修について（霞が関だより　245）　4：p211
：子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）表彰を開催しました。（霞が関だより　246）　5：p268-271
：令和５年度　地方自治体における視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画の策定状況調査結果について（霞が関だより　247）　6：p344-345
：令和５年度子供の読書活動の推進等に関する調査研究（読書活動の推進に携わる人材の育成に関する実態調査）（霞が関だより　248）　7：p401-403
：令和５年度「読書活動推進事業」の取り組み事例について（霞が関だより　249）　8：p454
：学校図書館の機能を活用した授業づくり　米原市と滋賀県の取り組みについて（霞が関だより　249）　8：p454-456
：図書館と書店等との連携について（霞が関だより

250）　9：p554-555
：令和５年度「読書活動推進事業」の取り組み事例について（霞が関だより　251）　10：p607-609
：令和６年度新任図書館長研修（霞が関だより　252）　11：p670-671
：令和５年度「読書バリアフリーコンソーシアム」委託事業の取り組み事例について（霞が関だより　253）　12：p712-713

＜や・よ＞

柳生　紀子：学生のための大学図書館へ！　なんでも話そうチャンポン・ワークショップ（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第２分科会）　10：p593
矢田竣太郎，浅石卓真：教科・単元別の教材用図書リストのデータベース化（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p699-701
柳川涼司，腰越未樹：図書館ボランティア体験を通した不登校・ひきこもり改善・自立支援（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p22-24
柳沢七海［ほか］：上田市立上田図書館のレファレンス　丹下健三氏邸宅の墨絵・殺戮を拒んだ日本兵・アメリカ軍の沖縄攻略（れふぁれんす三題噺　309　上田市立上田図書館）　3：p150-151
柳瀬寛夫文責，日本図書館協会建築賞審査選考委員会：第40回日本図書館協会建築賞　8：p450-453
矢野　陽子：すごろくで学ぶ安政の大地震（図書館員のおすすめ本　87）　3：p155
山口　茜：公共図書館で行うTRPGの可能性　小郡市立図書館における実践例（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p444-445
山口　真也：改めて「個人情報」について考えてみませんか？　行政機関等匿名加工情報に関する提案募集をめぐって　＜こらむ図書館の自由＞　2：p67
山﨑貴子［ほか］：小さな図書館ならではの試み　江津市図書館におけるボードゲーム導入のあらまし（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p438-440
山田　恵子：老舗書店「有隣堂」が作る企業YouTubeの世界（図書館員のおすすめ本　91）　7：p408
山田　拓実：図書館で知識や情報を継承していくために「知の伝道師」の活動から　＜北から南から＞　3：p158-159
山本　崇憲：マジック本・奇術本コレクション（ウチの図書館お宝紹介！　239　江南市立図書館）　6：p346-347
横倉　妙子：多摩市立中央図書館の開館を契機に地域の書店と「本」でつながる取り組み（特集：書店×図書館の可能性）　3：p138-140
吉本　龍司：生成AIを活用した「蔵書検索サポーター」の実証実験（小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか）　5：p263-267
米田真由美：魚毒植物（図書館員のおすすめ本　93）　9：p567
米山　薫：編集手帳　2：p120
：編集手帳　11：p684
米山薫［ほか］：編集手帳　1：p60

＜わ＞

若林　道代：師弟百景　"技"をつないでいく職人という生き方（図書館員のおすすめ本　93）　9：p566

## 件名索引


＜あ・い・お＞

**朝日村図書館**

菊地　照恵：本と人との出会いを見守ってきた100歳の図書館（小規模図書館奮戦記　311　長野県・村立朝日村図書館）　8：p457

**海士町中央図書館**

磯谷奈緒子：海士町発！地域とつくる島まるごと図書館（特集：まちライブラリーの今）　9：p550-551

**一関工業高等専門学校図書館**

本明　昇：研究・教育の場としての図書館（小規模図書館奮戦記　310　一関工業高等専門学校図書館）　4：p217

**印刷図書館**

紫垣　優：印刷図書館寄贈コレクション（ウチの図書館お宝紹介！　241　一般財団法人印刷図書館）　10：p618-619

**インターネット**

井上　靖代：インターネット・ガバナンス・フォーラム（IGF）2023京都大会と図書館（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p32-33

**小郡市立図書館**

山口　茜：公共図書館で行うTRPGの可能性　小郡市立図書館における実践例（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p444-445

**オンライン目録**

吉本　龍司：生成AIを活用した「蔵書検索サポーター」の実証実験（小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか）　5：p263-267

＜か・き・く・け・こ＞

**科学技術政策**

池内　有為：オープンサイエンス政策をふまえた大学図書館の研究データ管理（RDM）（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p650-651

尾城友視，金藤伴成：即時オープンアクセス義務化に向けた大学図書館の現況（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p648-649

**学校図書館**

浅石卓真，矢田竣太郎：教科・単元別の教材用図書リストのデータベース化（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p699-701

小熊真奈美：学校図書館におけるデジタル情報資源の活用（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p702-703

笠井　尚：学校図書館施設計画の留意点　学校図書館の設計をめぐる対話をどうするか（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p704-706

加藤美穂子：日本図書館協会学校図書館部会第52回夏季研究集会東京大会に参加して　＜日本図書館協会学校図書館部会第52回夏季研究集会東京大会＞　11：p668

佐伯　美華：りんごの棚から始まる読書に困難のある人々へのサービス　学校図書館の先進事例を交えて　＜北から南から＞　4：p220-222

佐藤千春［ほか］：北茨城市立磯原中学校，牛久市立ひたち野うしく中学校（学校図書館建築見学報告　1）　12：p718-720

杉本　太志：学校図書館とゲーム　ボードゲームの実践を通じた可能性の提案（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p448-449

高橋恵美子：読書と学校図書館，何をどうとりくむか　＜日本図書館協会学校図書館部会第52回夏季研究集会東京大会＞　11：p664-668

**学校図書館－愛知県**

杉浦　良二：愛知県立高校への学校司書配置の問題点　＜北から南から＞　7：p412-413

**学校図書館－滋賀県**

文部科学省：令和５年度「読書活動推進事業」の取り組み事例について（霞が関だより　249）　8：p454

：学校図書館の機能を活用した授業づくり　米原市と滋賀県の取り組みについて（霞が関だより　249）　8：p454-456

**学校図書館－奈良県**

文部科学省：令和５年度「読書活動推進事業」の取り組み事例について（霞が関だより　251）　10：p607-609

**学校図書館－三重県**

野村　太郎：ひとが集まる学校図書館のつくりかた　本を読むだけの場所ではもったいないやん！　児童生徒が集い活気にあふれる学校図書館を学校の〝ど真ん中〟に！（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p707-711

**韓国国立中央図書館**

武田　和也：カスハラ対策・感情労働者保護を目的に韓国国立中央図書館が策定した『図書館利用者対応業務マニュアル』（特集：図書館の話題アラカルト）　7：p380-382

**稀書**

新井　玲子：平和関係の資料の紹介　受け継がれる平和教育（ウチの図書館お宝紹介！　242　恵泉女学園大学図書館）　11：p674-675

紫垣　優：印刷図書館寄贈コレクション（ウチの図書館お宝紹介！　241　一般財団法人印刷図書館）　10：p618-619

敦賀市立図書館：「浦潮日報」（ウチの図書館お宝紹介！　243　敦賀市立図書館）　12：p724-725

畑野　繭子：時を超える古地図の魅力　蘆田文庫古地図コレクション（ウチの図書館お宝紹介！　240　明治大

学中央図書館）　8：p458-459

**岐阜県図書館**

岡崎　信美：児童サービスを支えるために　岐阜県図書館「児童図書研究室」の歩み　10：p622-623

**岐阜市立図書館**

長尾　勝広：岐阜市立図書館と塩尻市立図書館の司書人事交流に期待すること（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p19-21

**京都工芸繊維大学附属図書館**

倉知　桂子：特色あるコレクション　前身校の図案集と掛図　大学への寄贈より　3：p152-153

**教材**

浅石卓真，矢田埈太郎：教科・単元別の教材用図書リストのデータベース化（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p699-701

**郷土資料**

小熊真奈美：学校図書館におけるデジタル情報資源の活用（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p702-703

**苦情処理**

武田　和也：カスハラ対策・感情労働者保護を目的に韓国国立中央図書館が策定した「図書館利用者対応業務マニュアル」（特集：図書館の話題アラカルト）　7：p380-382

**恵泉女学園大学図書館**

新井　玲子：平和関係の資料の紹介　受け継がれる平和教育（ウチの図書館お宝紹介！　242　恵泉女学園大学図書館）　11：p674-675

**ゲーム**

井上　奈智：本を読むということと，ゲームをするということ　インタラクティブメディアがもたらす図書館の可能性（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p430-432

大島久美子［ほか］：小さな図書館ならではの試み　江津市図書館におけるボードゲーム導入のあらまし（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p438-440

オーレ・ベリー，尾園清香：図書館サービスとしてのボードゲーム　図書館流通センターの取り組み　ボードゲーム販売からイベント開催まで（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p441-443

杉本　太志：学校図書館とゲーム　ボードゲームの実践を通じた可能性の提案（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p448-449

高倉　暁大：図書館でのゲームイベントの現状と展望（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p433-435

高橋　依子：図書館・学校等向けのボードゲーム貸出について（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p436-437

山口　茜：公共図書館で行うTRPGの可能性　小郡市立図書館における実践例（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p444-445

**健康情報**

日本図書館協会健康情報委員会：「健康コレクションマネジメントと健康情報の評価」研修会開催について（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p28-29

**研修（図書館員）**

文部科学省：2024年度の図書館職員に関する研修について（霞が関だより　245）　4：p211

：令和５年度子供の読書活動の推進等に関する調査研究（読書活動の推進に携わる人材の育成に関する実態調査）（霞が関だより　248）　7：p401-403

：令和６年度新任図書館長研修（霞が関だより　252）　11：p670-671

**江津市図書館**

大島久美子［ほか］：小さな図書館ならではの試み　江津市図書館におけるボードゲーム導入のあらまし（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p438-440

**江南市立図書館**

山本　崇喜：マジック本・奇術本コレクション（ウチの図書館お宝紹介！　239　江南市立図書館）　6：p346-347

**国際協力機構図書館**

本村　洋：国際協力の専門図書館「夢物語」への挑戦（小規模図書館奮戦記　308　独立行政法人国際協力機構図書館（JICA図書館））　2：p97

**国際図書館連盟**

井上　靖代：インターネット・ガバナンス・フォーラム（IGF）2024京都大会と図書館（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p32-34

長塚　隆：ブリスベンで開催された「IFLA情報未来サミット」　12：p714-717

**国立アイヌ民族博物館ライブラリ**

工藤　綾華：アイヌ文化に関する開かれた専門図書室（小規模図書館奮戦記　309　カンピソシ　ヌカㇲ　トゥンプ　国立アイヌ民族博物館ライブラリ）　3：p157

**国立工芸館アートライブラリ**

廣川　晶子：美術館のなかの図書館（小規模図書館奮戦記　313　国立工芸館アートライブラリ）　10：p617

**江北図書館**

久保寺容子：知のバトンをつなぐために　公益財団法人江北図書館の取り組み（特集：図書館の話題アラカルト）　7：p398-400

＜さ・し・せ＞

**災害**

日本図書館協会図書館災害対策委員会：図書館災害対策委員会の災害支援活動会計報告（2023年度）　9：p561

**三条市立図書館**

長野　源世：仕合わせる幸せ（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p25-27

**塩尻市立図書館**

上條　史生：「信州しおじり　本の寺子屋」の取り組みと展望（特集：書店×図書館の可能性）　3：p134-135

長尾　勝広：岐阜市立図書館と塩尻市立図書館の司書人事交流に期待すること　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p19-21

**児童**

文部科学省：子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の取り組み事例について　（霞が関だより　242）　1：p37

：清水町立図書館の取組　特性を活かした子ども読書活動の推進　（霞が関だより　242）　1：p37-39

：『子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい１冊～』第２弾について　（霞が関だより　242）　1：p40

：４月23日は「子ども読書の日」です！　（霞が関だより　244）　3：p149

：子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）表彰を開催しました。（霞が関だより　246）　5：p268-271

：令和５年度子供の読書活動の推進等に関する調査研究（読書活動の推進に携わる人材の育成に関する実態調査）（霞が関だより　248）　7：p401-403

：令和５年度「読書活動推進事業」の取り組み事例について　（霞が関だより　251）　10：p607-609

**児童サービス**

岡崎　信美：児童サービスを支えるために　岐阜県図書館「児童図書研究室」の歩み　＜北から南から＞　10：p622-623

鈴江　　夏：「子ども司書講座」を実施して　＜北から南から＞　1：p44-45

**自動車文庫**

秋村喜代子：移動図書館を使った学校との連携　我孫子市民図書館：子どもの読書活動推進計画重点施策　＜北から南から＞　1：p46-47

石川　敬史：移動図書館の可能性と課題　（特集：移動図書館のいま）　4：p192-195

大井　亜紀：Book Mobile（ブック・モービル）サミット開催　移動図書館の新たな可能性を求めて　（特集：移動図書館のいま）　4：p208-210

加藤　浩司：都市計画・まちづくり分野にいる私が移動図書館に惹かれた理由　（特集：移動図書館のいま）　4：p198-199

河野知歌子：「小さな図書館」でサービスを届ける　四万十町における移動図書館車導入事例　（特集：移動図書館のいま）　4：p200-201

高濱　宏至：子どもたちの居場所を定期的に作り続けるために移動図書館が移動することの意味　（特集：移動図書館のいま）　4：p205-207

林田　理花：製作会社の雑談　（特集：移動図書館のいま）　4：p202-204

**自動車文庫ーアメリカ合衆国**

中山　愛理：アメリカの特徴的な取り組みに見る移動図書館の可能性　日本とアメリカにおける移動図書館の変遷を踏まえつつ　（特集：移動図書館のいま）　4：p196-197

**渋谷区立中央図書館**

田中　雅光：和田誠記念文庫　（ウチの図書館お宝紹介！　238　渋谷区立中央図書館）　4：p214-215

**四万十町立図書館**

河野知歌子：「小さな図書館」でサービスを届ける　四万十町における移動図書館車導入事例　（特集：移動図書館のいま）　4：p200-201

**自由学園**

菅原　然子：デジタルアーカイブ「自由学園100年＋」の構築と活用　自組織への興味を深めるツールとして　（特集：図書館の話題アラカルト）　7：p388-389

**出版**

伊藤　　豊：今こそ漢字にふりがなを。私が考える「ふりがな再考論」　出版物およびデジタルコンテンツにルビ（ふりがな）の普及・活用を目指すルビ財団の取り組み　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p30-31

上條　史生：「信州しおじり　本の寺子屋」の取り組みと展望　（特集：書店×図書館の可能性）　3：p134-135

**障害者サービス**

神谷　知栄：読書バリアフリー法に基づく横浜市の取り組みについて　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p16-18

佐伯　美華：りんごの棚から始まる読書に困難のある人々へのサービス　学校図書館の先進事例を交えて　＜北から南から＞　4：p220-222

文部科学省：令和５年度「読書バリアフリーコンソーシアム」委託事業の取り組み事例について　（霞が関だより　253）　12：p712-713

**城西大学記念水田図書館**

近藤　倫史：『TOSHOKAN QUEST』冒険の軌跡　（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p446-447

**情報検索**

岡本　　真：場としての図書館の実空間から情報空間に橋を架ける　デジタル資源カードという提案　（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）　12：p696-698

**書籍商**

柴野　京子：書店と図書館の現在地　「地域」から創造する知識基盤にむけて　（特集：書店×図書館の可能性）　3：p131-133

書店・図書館等関係者における対話の場：書店・図書館等の連携による読書活動の推進について　書店・図書館等関係者における対話のまとめ　＜資料＞　6：p354-359

田口　幹人：図書館と書店をめぐって　（特集：書店×図書館の可能性）　3：p141-143

野村　育弘：本にとっての“サードプレイス”　敦賀市　知育・啓発施設「ちえなみき」（特集：書店×図書館の可能性）　3：p136-137

横倉　妙子：多摩市立中央図書館の開館を契機に地域の書店と「本」でつながる取り組み　（特集：書店×図書館

の可能性）　3：p138-140

**書店**

文部科学省：図書館と書店等との連携について　（霞が関だより250）　9：p554-555

**書評**

秋本　敏：索引　～の歴史　書物史を変えた大発明　（図書館員のおすすめ本　86）　2：p104

阿部　沙喜：Mine!　私たちを支配する「所有」のルール　（図書館員のおすすめ本　94）　10：p621

新井三枝子：ルポ新大久保　移民最前線都市を歩く　（図書館員のおすすめ本　85）　1：p42

家入　義朗：花山院隊「偽官軍」事件　戊辰戦争下の封印された真相　（図書館員のおすすめ本　85）　1：p42

生島　敦子：五感でとらえなおす阪神・淡路大震災の記憶　（図書館員のおすすめ本　92）　8：p461

池沢　道子：中高生のための「かたづけ」の本　（図書館員のおすすめ本　86）　2：p104

大塚　敏高：熊楠さん，世界を歩く。冒険と学問のマンダラへ（図書館員のおすすめ本　94）　10：p621

大橋美紀子：累犯障害者　（図書館員のおすすめ本　95）　11：p677

大林　正智：つたえたいきもち　（図書館員のおすすめ本　90）　6：p348

小川みのり：はじめての王朝文化辞典　（図書館員のおすすめ本　89）　5：p281

荻　礼子：今日拾った言葉たち　（図書館員のおすすめ本　91）　7：p409

小澤多美子：検察審査会　日本の刑事司法を変えるか　（図書館員のおすすめ本　92）　8：p460

笠川　昭治：東京のワクワクする大学博物館めぐり　（図書館員のおすすめ本　93）　9：p567

狩野　ゆき：何が問題？格差のはなし　「おいてけぼりの誰か」をつくらない世界のために　（図書館員のおすすめ本　88）　4：p219

神原　陽子：世にもあいまいなことばの秘密　（図書館員のおすすめ本　91）　7：p409

北澤梨絵子：子どもから大人が生まれるとき　発達科学が解き明かす子どもの心の世界　（図書館員のおすすめ本　90）　6：p349

木村　正人：無人島，研究と冒険，半分半分。（図書館員のおすすめ本　91）　7：p408

黒澤　峰代：子どもとめぐることばの世界　（図書館員のおすすめ本　94）　10：p620

合屋　月子：ザ・ママの研究　増補新版　（図書館員のおすすめ本　85）　1：p43

小林はつき：転職学　働くみんなの必修講義　人生が豊かになる科学的なキャリア行動とは　（図書館員のおすすめ本　85）　1：p43

小廣　早苗：70歳のウィキペディアン　図書館の魅力を語る（図書館員のおすすめ本　88）　4：p218

小宮山　剛：地域の課題を解決するクリエイティブディレクション術　（図書館員のおすすめ本　88）　4：p218

今野　千東：日本の自然風景ワンダーランド　地形・地質・植生の謎を解く　（図書館員のおすすめ本　87）　3：p154

阪口　泰子：イチからわかる古文書の読み方・楽しみ方　（図書館員のおすすめ本　95）　11：p676

佐藤　正恵：実践アニメ療法　臨床で役立つ物語の処方箋　（図書館員のおすすめ本　96）　12：p726

佐藤　里恵：寄生虫を守りたい　（図書館員のおすすめ本　96）　12：p727

高田　高史：ANA苦闘の1000日　（図書館員のおすすめ本　89）　5：p280

髙橋　将人：ミステリな建築　建築なミステリ　（図書館員のおすすめ本　93）　9：p566

田代　弘子：フランス人記者，日本の学校に驚く　（図書館員のおすすめ本　95）　11：p676

立川　幸平：問いの立て方　（図書館員のおすすめ本　92）　8：p461

谷脇八代美：1階革命　私設公民館「喫茶ランドリー」とまちづくり　（図書館員のおすすめ本　92）　8：p460

手塚　美希：庭時間が愉しくなる雑草の事典　身近にあるとうれしい花，残しておくとヤバイ野草　（図書館員のおすすめ本　89）　5：p281

戸苅　綾子：アリスのお茶会パズル　（図書館員のおすすめ本　89）　5：p280

中塚ゆり子：なぜか買いたくなる“もちもち”の秘密　（図書館員のおすすめ本　96）　12：p727

中村　知美：寿町のひとびと　（図書館員のおすすめ本　88）　4：p219

日本図書館協会図書紹介事業委員会：Live！図書館員のおすすめ本　ダイジェスト　（図書館員のおすすめ本　87）　3：p155

藤田　理穂：広島の被爆と福島の被曝　両者は本質的に同じものか似て非なるものか　（図書館員のおすすめ本　96）　12：p726

藤本　彩花：ペーパーレス時代の紙の価値を知る　読み書きメディアの認知科学　（図書館員のおすすめ本　95）　11：p677

松田　彰：ルー・リード伝　（図書館員のおすすめ本　87）　3：p154

松本　理沙：まっすぐロリータ道　（図書館員のおすすめ本　94）　10：p620

道上　久恵：羊と日本人　波乱に満ちたもう一つの近現代史（図書館員のおすすめ本　90）　6：p348

壬生あかり：歴史を読み解く城歩き　（図書館員のおすすめ本　86）　2：p105

宮谷　友美：本屋，ひらく　（図書館員のおすすめ本　90）　6：p349

村上さつき：限界ニュータウン　荒廃する超郊外の分譲地　（図書館員のおすすめ本　86）　2：p105

矢野　陽子：すごろくで学ぶ安政の大地震　（図書館員のおすすめ本　87）　3：p155

山田　恵子：老舗書店「有隣堂」が作る企業YouTubeの世界（図書館員のおすすめ本　91）　7：p408

米田真由美：魚毒植物　(図書館員のおすすめ本　93)　9：p567
若林　道代：師弟百景　"技"をつないでいく職人という生き方　(図書館員のおすすめ本　93)　9：p566

**書評ー図書館員の本棚**

江上　敏哲：図書館のマンガを研究する　図書館情報学サイエンスカフェ講演録　＜図書館員の本棚＞　8：p465
奥出　麻里：Hidden Library.Invisible Librarian　医療と健康と図書館と，司書。＜図書館員の本棚＞　12：p728
是住久美子：ウィキペディアでまちおこし　＜図書館員の本棚＞　11：p678
坂川万理子：女性と図書館　ジェンダー視点から見る過去・現在・未来　＜図書館員の本棚＞　8：p466
鈴木　麻友：文書館のしごと　アーキビストと史料保存　＜図書館員の本棚＞　9：p572
中島　尚子：資料を未来につなぐ　東日本大震災で考えたこと　＜図書館員の本棚＞　10：p624
長沼　祥子：図書館員のための「やさしい日本語」＜図書館員の本棚＞　5：p276
長谷川豊祐：図書館と知識社会　＜図書館員の本棚＞　11：p679
松野南紗恵：不完全な司書　＜図書館員の本棚＞　6：p353

**資料分類法**

日本図書館協会分類委員会，小林康隆文責：「図書館の分類に関する調査（2023)」結果報告　3：p144-148

**資料保存**

日本図書館協会資料保存委員会，小野智仁文責：【報告】資料保存委員会〈資料保存セミナー〉　明日からできる「資料保存の基礎技術」　6：p350-352

**生成AI**

中島　玲子：生成AIとは何か，図書館における協働の可能性（小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか）　5：p251-255
高橋菜奈子：図書館業務での生成AI活用の可能性　図書館業務の四象限と変化へのアプローチ　(小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか)　5：p256-259
丸山高弘，荒川知樹：山中湖情報創造館における対話型AI導入について　対話型生成AIをレファレンスサービスのツールとして導入した事例の紹介　(小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか)　5：p260-262
吉本　龍司：生成AIを活用した「蔵書検索サポーター」の実証実験　(小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか)　5：p263-267

**政府刊行物**

田中裕太郎：官報電子化について　電子官報の閲覧制度と図書館との関わり　(特集：図書館の話題アラカルト)　7：p383-385

**全国図書館大会**

姉帯　裕子："つながる図書館"　幸せと希望を実現する公共図書館の試み（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第１分科会　公共図書館）　2：p76
安保　和徳：子どもと本とのよい出会いを　(令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第４分科会　児童サービス(1))　2：p80
：読書が子どもに与える影響　(令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第４分科会　児童サービス(2))　2：p81
池田　浩：令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　(令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　全体会)　10：p591
井手下由紀：社会の変化と公共図書館のミライ　(令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第１分科会)　10：p592
宇賀田織部：岩手へ，全国図書館大会参加記　(令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　全国図書館大会に参加して)　2：p94
大谷　康晴：日本の図書館情報学教育の現状：「日本の図書館情報学教育」調査から　(令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第５分科会　図書館情報学教育)　2：p82
：2030年代の図書館員養成教育を考える　(令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第５分科会)　10：p596
大場　博幸：地方における書店の役割と図書館　(令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第11分科会　出版流通)　2：p89
：図書館と小売書店の協力　(令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第11分科会)　10：p602
尾形　陽子：住民が取り組む図書館職員問題　(令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第14分科会　市民と図書館)　2：p92
：「私たちの図書館宣言」から考える図書館の課題（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第15分科会)　10：p606
小田那津子：全国図書館大会潜入記　(令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　全国図書館大会に参加して)　2：p93
小野　智仁：その修理，大丈夫？　修理の基本をおさえよう（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第10分科会)　10：p601
小池　信彦：令和３年改正著作権法の施行後の動向　図書館サービスに活かす上で考えたいこと　(令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第６分科会　著作権)　2：p83
：図書館活動と著作権制度の動向　(令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第６分科会)　10：p597
小南　理恵：戦争と図書館　(令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第７分科会　図書館の自由)　2：p84

島　　弘：一人ひとり，みんなのために　求められる養成と研修の充実　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第４分科会）　10：p595
末次健太郎：災害と図書館　能登半島地震の経験を今後の対策につなげる　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第13分科会）　10：p604
鈴木　史穂：災害と図書館　東日本大震災に学び今後の対策を考える　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第10分科会　災害と図書館）　2：p88
鈴木　崇文：「図書館の自由に関する宣言」採択70周年　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第７分科会）　10：p598
高橋恵美子：学校図書館で働く非正規雇用職員　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第14分科会）　10：p605
照井大道，及川浩純：学校図書館活動の活性化　学校の「魅力」発信　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第３分科会　学校図書館）　2：p78-79
利光　朝子：指定管理者・委託で働く非正規雇用職員　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第13分科会　非正規雇用職員）　2：p91
中島　　寛：主体的で探究的な学びを支える開かれた学校図書館の創造　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第３分科会）　10：p594
野末俊比古：情報リテラシー教育をめぐる海外の動向　日本型の枠組みづくりに向けて　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第８分科会）　10：p599
浜口美由紀：多文化サービス最前線　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第12分科会）　10：p603
早川　光彦：オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第２分科会　大学・短大・高専図書館）　2：p77
堀内　悠加：夜空で輝く星をつなぐように　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　全国図書館大会に参加して）　2：p93
松本　直樹：日本図書館協会認定司書事業のこれまでとこれから　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第９分科会　認定司書事業）　2：p87
村上　健治：暮らしの中の情報と多文化サービス　岩手県の事例を通して　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第12分科会　多文化サービス）　2：p90
村林　麻紀：SDGsと図書館，誰も取り残さないインクルーシブな図書館を目指して　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第８分科会　障害者サービス(1)）　2：p85
：最新のICT技術・アクセシブルな電子図書館を活用して目指す，障害者の読書環境　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　第８分科会　障害者サービス(2)）　2：p86
：読書バリアフリー　アクセシブルな書籍の「借りる権利」と「買う自由」を目指して　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第９分科会）　10：p600
森本　晋也：理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える　希望ある未来は図書館とともに　（令和５年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト　全体会）　2：p72-75
柳生　紀子：学生のための大学図書館へ！　なんでも話そうチャンポン・ワークショップ　（令和６年度（第110回）全国図書館大会長崎大会への招待　第２分科会）　10：p593

**善通寺市立図書館**

善通寺市みりょく本づくりプロジェクト実行委員会（善通寺市・国立大学法人香川大学・丸善雄松堂株式会社）：世界に一冊だけのみりょく本を創ろう！　小学生と大学生の協働・善通寺市みりょく本づくりプロジェクト　（特集：図書館の話題アラカルト）　7：p390-391

＜た・ち・て・と＞

**大学図書館**

飯田智子［ほか］：京都大学附属図書館，大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動におけるライブラリー・スキーマ検討の取り組み　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p654-656
池内　有為：オープンサイエンス政策をふまえた大学図書館の研究データ管理（RDM）（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p650-651
大平司，田中幸恵：研究データ公開支援の実際と課題　名古屋大学附属図書館の取り組み　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p652-653
尾城友視，金藤伴成：即時オープンアクセス義務化に向けた大学図書館の現況　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p648-649
鈴木　一生：欧米におけるオープンサイエンス時代の大学図書館員像と日本への示唆　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p660-663
竹内比呂也：2030年の大学図書館としての「デジタル・ライブラリー」（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p644-647
ティムソン　ジョウナス：オープンサイエンス時代の大学図書館を取り巻く人事制度　私立大学を中心とした試論　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オー

プンサイエンス時代の大学図書館）
11：p657-659
日本図書館協会大学図書館部会大学図書館シンポジウム担当：2023年度大学図書館シンポジウム 「著作権法と大学図書館～令和３年の著作権法改正を中心に～」開催報告 5：p272-275

**大学図書館－紹介**
＜石川＞ 金沢美術工芸大学附属図書館 9：p539
＜大阪＞ 大阪工業大学図書館大宮本館 6：p327
＜鹿児島＞鹿児島国際大学附属図書館伊敷分館 6：p327

**ちえの森ちづ図書館**
葉狩麻早子：地域とともに歩む図書館 「私たちの新しい図書館」が開館して （小規模図書館奮戦記 314 鳥取県・ちえの森ちづ図書館） 11：p669

**著作権**
日本図書館協会大学図書館部会大学図書館シンポジウム担当：2023年度大学図書館シンポジウム 「著作権法と大学図書館～令和３年の著作権法改正を中心に～」開催報告 5：p272-275

**敦賀市立図書館**
敦賀市立図書館：「浦潮日報」（ウチの図書館お宝紹介！ 243 敦賀市立図書館） 12：p724-725

**データベース**
浅石卓真，矢田竣太郎：教科・単元別の教材用図書リストのデータベース化 （特集：つなぎ手としての学校図書館 情報活用能力のアスペクト） 12：p699-701

**デジタルアーカイブ**
菅原 然子：デジタルアーカイブ「自由学園100年＋」の構築と活用 自組織への興味を深めるツールとして （特集：図書館の話題アラカルト） 7：p388-389

**電子資料**
岡本 真：場としての図書館の実空間から情報空間に橋を架ける デジタル資源カードという提案 （特集：つなぎ手としての学校図書館 情報活用能力のアスペクト） 12：p696-698
田中裕太郎：官報電子化について 電子官報の閲覧制度と図書館との関わり （特集：図書館の話題アラカルト） 7：p383-385

**電子図書館**
竹内比呂也：2030年の大学図書館としての「デジタル・ライブラリー」（特集：シン・デジタル・ライブラリー オープンサイエンス時代の大学図書館） 11：p644-647

**東京都消費生活総合センター図書資料室**
木村 俊雄：消費生活にかかわる知識と情報を発信する専門施設 （小規模図書館奮戦記 315 東京都消費生活総合センター図書資料室） 12：p721

**読書**
文部科学省：子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の取り組み事例について （霞が関だより 242） 1：p37
：清水町立図書館の取組－特性を活かした子ども読書活動の推進 （霞が関だより 242） 1：p37-39
：「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい１冊～」第２弾について （霞が関だより 242） 1：p40
：４月23日は「子ども読書の日」です！ （霞が関だより 244） 3：p149
：子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）表彰を開催しました。（霞が関だより 246） 5：p268-271
：令和５年度子供の読書活動の推進等に関する調査研究（読書活動の推進に携わる人材の育成に関する実態調査）（霞が関だより 248） 7：p401-403
：令和５年度「読書活動推進事業」の取り組み事例について （霞が関だより 251） 10：p607-609
：令和５年度「読書バリアフリーコンソーシアム」委託事業の取り組み事例について （霞が関だより 253） 12：p712-713

**読書バリアフリー法**
神谷 知栄：読書バリアフリー法に基づく横浜市の取り組みについて （特集：トピックスで追う図書館とその周辺） 1：p16-18
文部科学省：令和５年度 地方自治体における視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画の策定状況調査結果について （霞が関だより 247） 6：p344-345

**図書**
野村 育弘：本にとっての“サードプレイス” 敦賀市 知育・啓発施設「ちえなみき」（特集：書店×図書館の可能性） 3：p136-137

**図書館**
宇野亮一［ほか］：座談会 中堅図書館員しごとを語る あらたに図書館員になった方たちへ （特集：座談会 中堅図書館員しごとを語る あらたに図書館員になった方たちへ） 6：p329-343
柴野 京子：書店と図書館の現在地 「地域」から創造する知識基盤にむけて （特集：書店×図書館の可能性） 3：p131-133
書店・図書館等関係者における対話の場：書店・図書館等の連携による読書活動の推進について 書店・図書館等関係者における対話のまとめ ＜資料＞ 6：p354-359
ずいの：図書館は森羅万象を教えてくれる！ ＜新春エッセー＞ 1：p14-15
田口 幹人：図書館と書店をめぐって （特集：書店×図書館の可能性） 3：p141-143
文部科学省：図書館と書店等との連携について （霞が関だより 250） 9：p554-555
横倉 妙子：多摩市立中央図書館の開館を契機に地域の書店と「本」でつながる取り組み （特集：書店×図書館の可能性） 3：p138-140

**図書館（公共）－湖南市**
天谷 真彰：設置者から図書館の廃止を提案されたら 地域図

書館活動における学びと協働　＜北から南から＞
7：p410-411

**図書館（公共）－紹介**

＜北海道＞津別町図書館　6：p327
＜山形＞　長井市立図書館　7：p379
＜山形＞　山形市立図書館中央分館　7：p379
＜福島＞　本宮市立しらさわ夢図書館　4：p191
＜埼玉＞　ふじみ野市立大井図書館　9：p539
＜千葉＞　香取市立佐原中央図書館　1：p12
＜千葉＞　佐倉市立佐倉図書館　1：p12
＜千葉＞　流山市立南流山地域図書館　1：p12
＜千葉＞　千葉市花見川図書館　4：p191
＜東京＞　中央区立京橋図書館　1：p12
＜東京＞　多摩市立中央図書館　6：p327
＜新潟＞　長岡市立互尊文庫　7：p379
＜富山＞　富山市立大沢野図書館　4：p191
＜富山＞　富山市立大山図書館　4：p191
＜富山＞　黒部市立あおーよ図書館　9：p539
＜山梨＞　富士川町立図書館　6：p327
＜岐阜＞　中津川市立図書館　7：p379
＜三重＞　伊賀市上野図書館いがまち図書室　9：p539
＜京都＞　井手町図書館　7：p379
＜大阪＞　吹田市立北千里図書館　1：p12
＜大阪＞　吹田市立江坂図書　4：p191
＜大阪＞　豊中市立庄内図書館　6：p327
＜広島＞　はつかいち市民大野図書館　1：p12
＜熊本＞　上天草市立大矢野図書館　9：p539

**図書館（公共）－日本**

日本図書館協会図書館調査事業委員会：都道府県図書館の統計『日本の図書館』2024年調査票より　（数字で見る日本の図書館　86）　8：p462-464

**図書館－海士町**

磯谷奈緒子：海士町発！地域とつくる島まるごと図書館　（特集：まちライブラリーの今）　9：p550-551

**図書館－大阪市**

小野千佐子：まちライブラリー利用者が主役になれる場　まちライブラリー@もりのみやキューズモールの実例報告　（特集：まちライブラリーの今）
9：p548-549

**図書館員**

宇野亮一［ほか］：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ　（特集：座談会　中堅図書館員しごとを語る　あらたに図書館員になった方たちへ）　6：p329-343
小形　亮：「図書館の非正規雇用改善のための連絡会」スタート　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）
1：p34-36
鈴木　一生：欧米におけるオープンサイエンス時代の大学図書館員像と日本への示唆　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p660-663
武田　和也：カスハラ対策・感情労働者保護を目的に韓国国立中央図書館が策定した『図書館利用者対応業務マニュアル』（特集：図書館の話題アラカルト）
7：p380-382
ティムソン　ジョウナス：オープンサイエンス時代の大学図書館を取り巻く人事制度　私立大学を中心とした試論　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）
11：p657-659
長尾　勝広：岐阜市立図書館と塩尻市立図書館の司書人事交流に期待すること　（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p19-21
日本図書館協会認定司書事業委員会：第15期「認定司書」申請（更新申請を含む）を受け付けます
10：p610-613
日本図書館協会認定司書事業委員会，日本図書館協会認定司書審査会：第14期（2024年度）日本図書館協会認定司書名簿及び審査（報告）　5：p277-279
日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会，永見弘美文責：【報告】これでいいのか図書館　担い手にまっとうな待遇を求める院内集会　9：p556-559

**図書館行政**

文部科学省：文部科学省における図書館・読書活動推進関連予算案　（霞が関だより　243）　2：p98-101

**図書館協力**

飯田智子［ほか］：京都大学附属図書館，大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動におけるライブラリー・スキーマ検討の取り組み　（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p654-656
髙橋　依子：図書館・学校等向けのボードゲーム貸出について（特集：図書館における「ゲーム」）　8：p436-437

**図書館建築**

笠井　尚：学校図書館施設計画の留意点　学校図書館の設計をめぐる対話をどうするか　（特集：つなぎ手としての学校図書館　情報活用能力のアスペクト）
12：p704-706
佐藤千春［ほか］：北茨城市立磯原中学校，牛久市立ひたち野うしく中学校　（学校図書館建築見学報告　1）
12：p718-720
日本図書館協会建築賞審査選考委員会，柳瀬寛夫文責：第40回日本図書館協会建築賞　8：p450-453

**図書館雑誌＜編集手帳＞**

青柳　英治：編集手帳　8：p528
岩永　知子：編集手帳　4：p240
：編集手帳　12：p748
宇野　亮一：編集手帳　6：p368
中村　保彦：編集手帳　3：p180
：編集手帳　10：p632
長谷川優子：編集手帳　9：p580
松本　哲郎：編集手帳　5：p316
松本哲郎［ほか］：編集手帳　1：p60
宮原柔太郎：編集手帳　7：p420
米山　薫：編集手帳　2：p120
：編集手帳　11：p684

**図書館資料**
北村　智仁：エフェメラと図書館　あるいは，日々は如何にして歴史のページに繰り入れられるか（特集：図書館の話題アラカルト）　7：p386-387
倉知　桂子：特色あるコレクション　前身校の図案集と掛図大学への寄贈より（ウチの図書館お宝紹介！237　京都工芸繊維大学附属図書館）　3：p152-153
田中　雅光：和田誠記念文庫（ウチの図書館お宝紹介！　238　渋谷区立中央図書館）　4：p214-215
山本　崇喜：マジック本・奇術本コレクション（ウチの図書館お宝紹介！　239　江南市立図書館）　6：p346-347

**図書館ー茅野市**
西山　有子：里山型まちライブラリーの模索　まちライブラリー@My Book Station茅野駅の事例（特集：まちライブラリーの今）　9：p544-545

**図書館ー西東京市**
藤井由紀代：本を媒介とした人の居場所　まちライブラリー@MUFG PARKからの考察（特集：まちライブラリーの今）　9：p546-547

**図書館ー日本**
磯井　純充：まちライブラリーの軌跡，現況，展望と考察　個人と組織が連携した生活文化の創造（特集：まちライブラリーの今）　9：p540-543
河村　　奨：マイクロライブラリーの受容と変遷　図書館サービス「リブライズ」12年の運営を経て（特集：まちライブラリーの今）　9：p552-553

**図書館の自由**
天谷　真彦：身近な場所に知る自由を　＜こらむ図書館の自由＞　7：p375
伊沢ユキエ：「図書館の自由に関する宣言」70周年に寄せて　＜こらむ図書館の自由＞　6：p323
　　：図書を守った人々のこと　＜こらむ図書館の自由＞　8：p427
奥野　吉宏：能登半島地震から古文書の保存を考える　＜こらむ図書館の自由＞　5：p247
熊野　清子：『戦争と図書館　戦時下検閲と図書館の対応』刊行　＜こらむ図書館の自由＞　9：p535
藏所　和輝：マイナンバーカードの図書館カード化について　＜こらむ図書館の自由＞　1：p7
小南　理恵：「ブックカードが残ったままの本」ありませんか？　＜こらむ図書館の自由＞　3：p127
鈴木　啓子：PTA未加入の生徒に対して学校図書館利用を制限？　＜こらむ図書館の自由＞　12：p691
千　　錫烈：韓国版：誰でも，どこでも，何でも，読める　＜こらむ図書館の自由＞　10：p587
津田　さほ：「本に個人情報を挟んで返した」から思うこと　＜こらむ図書館の自由＞　11：p639
平形ひろみ：ふるさとの図書館は元気ですか？　＜こらむ図書館の自由＞　4：p187
山口　真也：改めて「個人情報」について考えてみませんか？　行政機関等匿名加工情報に関する提案募集をめぐって　＜こらむ図書館の自由＞　2：p67

**豊橋市図書館**
山田　拓実：図書館で知識や情報を継承していくために「知の伝道師」の活動から　＜北から南から＞　3：p158-159

＜な・に・の＞

**名古屋市鶴舞中央図書館**
生武　崇，齋藤森都：「図書館に泊まろう！」実施報告　普段とは違った図書館を味わって（特集：図書館の話題アラカルト）　7：p392-394

**名古屋大学附属図書館**
大平司，田中幸恵：研究データ公開支援の実際と課題　名古屋大学附属図書館の取り組み（特集：シン・デジタル・ライブラリー　オープンサイエンス時代の大学図書館）　11：p652-653

**日本語ー表記法**
伊藤　　豊：今こそ漢字にふりがなを。私が考える「ふりがな再考論」出版物およびデジタルコンテンツにルビ（ふりがな）の普及・活用を目指すルビ財団の取り組み（特集：トピックスで追う図書館とその周辺）　1：p30-31

**日本図書館協会**
日本図書館協会図書館災害対策委員会：図書館災害対策委員会の災害支援活動会計報告（2023年度）　9：p561
日本図書館協会認定司書事業委員会：第15期「認定司書」申請（更新申請を含む）を受け付けます　10：p610-613
日本図書館協会認定司書事業委員会，日本図書館協会認定司書審査会：第14期（2024年度）日本図書館協会認定司書名簿及び審査（報告）　5：p277-279

**日本図書館協会＜総会＞**
2024年度部会総会議事録　8：p487-496

**日本図書館協会＜役員会＞**
常任理事会（11月）　2：p115-119
2023年度通算第４回（定時第４回）理事会議事録　3：p160-165
2023年度通算第４回（定時第４回）理事会配付資料　3：p166-173
常任理事会（１月）　3：p176-179
常任理事会（２月）　4：p235-239
2023年度通算第５回（定時第５回）理事会議事録　5：p282-288
2022年度通算第２回（定時第２回）代議員総会議事録　5：p289-296
2023年度通算第５回（定時第５回）理事会，2023年度通算第２回（定時第２回）代議員総会配付資料　5：p297-308
常任理事会（４月）　6：p364-367
常任理事会（５月）　7：p415-419
2024年度通算第１回（定時第１回）理事会議事録　8：p467-474
2024年度通算第１回（定時第１回）代議員総会議事録

速報　都道府県立図書館と政令指定都市の図書館の2024年度資料費予算額　8：p426

**学校図書館**

全国SLA，2023年度「学校図書館調査」結果を公開　1：p7
「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2023」発表　3：p125
全国SLA，「学校図書館整備施策の実施状況（2023年度最終集計）」を公表　5：p245
「学校図書館職員雇用状況調査（自治体対象）」結果を公表　6：p321

**大学図書館**

北里大学看護学部図書館が閉館　2：p66
大学図書館部会，国公私立大学図書館協力委員会主催の「大学図書館シンポジウム」の報告を公開　3：p125

**専門図書館**

三康図書館所蔵約23,300冊の文学書資料がOPACで検索可能に　6：p322

**海外**

公益財団法人日本科学協会，アジア諸国への図書寄贈を呼びかけ　11：p638-639

**学会・研究会・団体**

「令和２年度　学校図書館の現状に関する調査」へ意見書を提出　1：p7
日本医学図書館協会「医療・健康情報リスト」公開　7：p373
文字・活字文化推進機構，「読書バリアフリー体験セット」の貸し出し実施　7：p373-374
図書館振興財団機関誌『図書館の学校』リフロー型電子書籍を公開　8：p425-426
知識組織論研究会（KORG_J）の参加者募集のお知らせ　8：p427
東京の図書館をもっとよくする会，杉並区「指定管理者制度の検証報告書」についての見解を公表　9：p534
日本図書館情報学会の出版企画「2030年代の図書館と情報サービス」シリーズ　10：p586-587
文字・活字文化推進機構「全国の中学生・高校生・大学生が選んだビブリオバトラー推し本2023～2024」発行　12：p690

**図書館員養成**

令和６年度司書および司書補の講習実施大学一覧　4：p188

**著作権**

令和５年通常国会　著作権法改正の施行について　3：p125
SARLIB，特定図書館登録・利用報告受付を延期　7：p374
著作権情報誌『さあとらす』発行　9：p534

**出版**

ABSC（アクセシブル・ブックス・サポートセンター）専用サイトを開設　5：p245-246
読書バリアフリーに関する三団体共同声明を発出　5：p246
文字・活字文化推進機構，「バリアフリー図書の森へようこそ！」を発行　6：p321
第29回「日本絵本賞」受賞作品決定　6：p321-322
『図書館員のための「やさしい日本語」』刊行記念イベントを開催　8：p425
BooksPROについて　10：p587
経済産業省，「関係者から指摘された書店活性化のための課題（案）」を公表　11：p637

**読書**

日本財団DIVERSITY IN THE ARTSが読書バリアフリー関連記事を公開　3：p126
「書店・図書館等の連携による読書活動の推進について～書店・図書館等関係者における対話のまとめ～」を公表　5：p245
科研費研究成果報告会「子ども時代の『心に残る読書体験』を考える」報告書を公開　6：p323
東京農業大学学術情報課程と東京情報大学看護学部，2023年度の共同研究の一環として，動画「音読の効果」を製作　7：p374
第78回「読書週間」実施要領　9：p534
文部科学省，令和６年度「子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰」被表彰者の読書活動に関する取組事例を掲載　11：p637
文化庁，令和５年度「国語に関する世論調査」の結果をまとめ，公表　11：p638

**類縁機関**

雑誌の図書館「COVER」が原宿にオープン　6：p322-323

**人**

＜訃報＞石塚栄二氏　2：p66
＜訃報＞志保田務氏　2：p66
＜訃報＞内野安彦氏　7：p374

**本・ビデオ**

学校図書館を考える全国連絡会，『ひらこう！学校図書館　第26回集会』記録誌を刊行　1：p7-8
『竹内悊の言葉－もちより，わけあう－』を一緒に作りましょう　1：p9
『日本の図書館　2023』出版　4：p185
『これから出る本』休刊　4：p186
『図書館年鑑　2024』出版　9：p533
「官報の発行に関する内閣府令」が公布　11：p638

**図書館の自由**

「図書館の自由展示パネル」利用のご案内　6：p324
『図書館の自由』第123号を発行　9：p536
図書館の自由宣言70周年・憲法学者木村草太氏講演会，盛況に開催！　10：p585
『図書館の自由』第124号を発行　11：p640

**災害**

2023年度災害等により被災した図書館等への助成決定　1：p6
令和６年度能登半島地震について　2：p65
北陸４県の県立図書館へお見舞いと被災状況を確認　2：p65
日本図書館協会「令和６（2024）年能登半島地震関連情報」ページを公開　2：p65
国立大学図書館協会，令和６年能登半島地震による会員館の被害状況を公表　2：p65-66
被災した図書館へ支援を考えている皆様へ（お願い）　2：p69
日本医学図書館協会，ウェブページ「能登半島地震被災地支援情報」を公開　3：p125
石川県教育委員会，「子供の学び支援ポータルサイト」を開設　3：p125

京都市が能登半島地震で被災した七尾市に電子書籍サービスを提供　3：p125
絵本図書館ネットワーク「被災地に届けたい絵本～復興へ１，２，３～」　5：p246
2024年４月17日の豊後水道を震源とする地震について　6：p322
輪島市立図書館・輪島市立門前図書館のサービスを一部再開　6：p322
図書館災害対策委員会の取り組みについて　7：p373
災害等により被災した図書館等への助成（2024年度）について　8：p425
図書館災害対策委員会，能登半島地震被災地図書館の現地調査を実施　9：p533
南海トラフ地震への備えについて　10：p585
シャンティ国際ボランティア会，石川県輪島市において仮設住宅等を巡回する移動図書館事業を開始　10：p586
図書館災害対策委員会，能登半島地震被災地における第２回図書館現地調査を実施　11：p637

感染症

コロナワクチン用冷凍庫の有効活用で水濡れ被災資料保管を　3：p126-127